

リアルタイム自己組織化
目に見える人工建造物

実体顕微鏡的に
孵化

主にファイザー社と
モダンな： あ 包括的縦断研究

ヨン・ミ・リー、MD1 、ダニエル・ブrouディ博士2

¹産婦人科専門医、ハンナ女性クリニック、済州市済州道道寧路7、クムソンビル2階、63098、大韓民国、電話: +82-64-711-7717、メール: youngmil95@gmail.com
(ORCID: 0000-0002-1210-4726)

²沖縄キリスト教大学応用言語学教授、〒903-0207 沖縄県西原町、メール: dbroudy@ocjc.ac.jp (ORCID: 0000-0003-2725-6914)

抽象的な

「安全で効果的」なCOVID-19注射剤の投与を受けた人の細胞レベルで観察可能なリアルタイムの損傷が、観察された現象の包括的な説明と分析とともにここで初めて文書化されています。2020年後半からのこれらの製品の世界的な投与は、ファイザー社とモデルナ社が製造したものを中心とする、改変RNA注射遺伝子治療に関する多数の独立した研究調査を引き起こしました。ここで報告された分析は、積極的に販売されている製品による測定可能な保護効果がないまま、重篤で衰弱性の長期的損傷（および多くの死亡）が増えている理由を理解することを目的とした、正確な実験室での「ベンチサイエンス」で構成されています。COVID-19注射剤の内容物は、最大400倍の倍率の実体顕微鏡で検査されました。慎重に保存された標本は、慎重に管理された条件下で注射剤と生細胞との即時および長期的な因果関係を観察するために、さまざまな異なる培地で培養されました。このような研究から、注射剤が十億もの人々に投与されて以来世界中で観察された傷害について、合理的な推論を導き出すことができます。細胞毒性に加えて、私たちの研究結果は、注射剤1ミリリットルあたり3~4 x 10⁶のオーダーで、多数の目に見える人工的な自己組織化体を明らかにしました。

約1~100µm、またはそれ以上の大きさで、さまざまな形状をしています。動く虫のような物体、円盤、鎖、らせん、チューブ、直角構造物、その中に他の人工物体を内包したものなどがありました。これらはすべて、COVID-19注射剤の汚染の予想レベルや許容レベルをはるかに超えており、培養研究では多くの人工構造が徐々に自己組織化していることが明らかになりました。培養中に時間が経つにつれて、

単純な1次元および2次元構造は、2、3週間かけて形状とサイズがより複雑になり、3次元で立体的に見える物体に成長しました。それらはカーボンナノチューブのフィラメント、リボン、テープに似ており、透明で薄い平らな膜のように見えるものもあれば、3次元のらせん状やビーズ状の鎖のように見えるものもありました。これらのいくつかは、時間の経過とともに現れては消えていくようでした。私たちの観察は、COVID-19注射剤に何らかのナノテクノロジーが存在することを示唆しています。

キーワード: mRNA、修飾RNA、COVID-19ワクチンの培養、実体顕微鏡検査、ナノテクノロジー

導入

地球上の人口をCOVID-19の世界的な「ワクチン」に誘導する動きの初期段階では、実験の後、少数の医師や独立した研究者が、修飾RNA注射剤の効果が見られず、さらには悪影響があることについて懸念を表明し始めました (Beattie、2021年;ヒューズ、2022年;サンティアゴ、2022年;ニストロームとハマストローム、2022)。成分に関する疑問に加え、報告されている体を守る方法は、より効果的な分泌抗体 (IgA)を生成するのではなく、血清中和抗体IgGの産生を誘導することに重点を置いていました。呼吸器粘膜内の後者は、常にウイルス性呼吸器感染症に対する自然防御の主線として機能してきました。世界中の当局が推進している数十億回の注射によってSARS-CoV-2の新しい変異体が急速に誘発される可能性があることを考えると、SARS-CoV-2の株と重篤な後遺症に起因する死者数が増加しています (Lyons-Weiler、2020年; Vojdani & Kharratian、2020年;ヴォイダニら、2021年)世界中の人口密集地で多くの死者を出しています (Beattie、2021年)。

例えば、2022年12月時点の韓国政府の公式報告書では、COVID-19の注射剤による死者数は約2,600人、その他の急性後遺症は18,000人以上に上るとされている。有効性の主張と害の物的証拠との間の矛盾は避けられない。韓国は世界でも最も高いワクチン接種率 (3回以上接種した人が88%)を主張しているが、その後、インフルエンザの季節である2022年4月には事実上、感染率も最も高かった (89%)。

呼吸器系の風邪の発症率は最低です。これらの事実だけでも、注射剤がCOVID-19の予防に役立たなかったことを示しています。実際はその逆でした。注射剤は安全でも効果的でもありませんでした。これらの数字だけでも、医師や医学研究者は「相関関係は因果関係ではない」という格言を再考する動機となるはずで、場合によっては、相関関係は因果関係に等しいのです (Beattie、2021、2024年)。ここでは、COVID-19注射剤の毒性に反応する人間の生体細胞における原因と結果のリアルタイムの相関関係を観察できる。また、COVID-19注射剤、特にファイザーとモデルナの製品を最大12時間培養したさまざまな培地に自己組織化構造が出現したという顕微鏡的証拠も示す。

数か月以上。

集団ワクチン接種プログラムを受けて、2021年3月には早くも、その後数か月にわたって、血栓、原因不明の出血、多臓器障害 (および不全)、心臓病の突然の急増 (心臓毒素)、白血病やリンパ腫などの血液がん、その他のさまざまな「ターボ」がん、流産、神経疾患や自己免疫疾患など、「原因不明」の原因や重篤な後遺症による過剰死亡が大幅に増加し、患者に現れています。

(ニストロームとハマストローム、2022;サンティアゴとオーレル、2023年。ペレス他、2023年。ミードら、2024a¹)。

これらの観察は、社会と研究室の両方でより広い視野で物事を考察することへの私たちの関心を刺激しました。研究室では、より鮮明な画像を顕微鏡で注意深く分析して、注射剤の内容物自体を観察することができます。この結果報告は、Korea Veritas Doctors (KoVeDoc) と呼ばれるコホートの独立した研究によって支援されました。このコホートには、ファイザー、モデルナ、アストラゼネカ、ノバックス製の注射剤を提供しました。これらはすべて、韓国全土で広く使用されていました。これらの製品は、進行期の悪性乳がん、機能性子宮出血、自然流産、心臓病の急増 (呼吸困難や動悸)、気胸、多発性皮膚疾患、自己免疫疾患の急激な発症など、患者にさまざまな健康への悪影響を引き起こすようです。

1編集者注: Mead et al. (2024a)の論文キュレウス誌に掲載された直後に撤回された。パート1 (ミード他、2024b)この不当な撤回に対する2部構成の回答の第1部はすでにJVTPRに掲載されており、第2部はまもなく公開される予定です (2024c)。

観察研究は2021年12月10日に開始されました。内容物の予備分析により、ファイザーとモデルナの製品は、他のCOVID-19注射剤（アストラゼネカとノババックス）とは大幅に異なることが示されました。このレポート全体で説明する違いが、ファイザーとモデルナの製品を使用した最初の研究の動機となりました。内容物は分析用に準備されており、その後さまざまな培地で培養するために、患者の治療に適した解毒剤となる可能性のある化学物質、プロトコル、およびソリューションを探することを念頭に置いていました。

当時、12 か月は、製品が人体に注入され、電磁場や紫外線などのさまざまな環境条件にさらされた場合の長期的な影響をより明確に理解し始めるのに適切な期間であるように思われました。

結果のセクションでわかるように、COVID-19注射液を乾燥させると、より多数の多様な種類の結晶も生成されるため、自己組織化体の見かけのプロセスは、主に塩などの特定の自然に形成される結晶によってカモフラージュされる可能性があります。以下で説明するように、培養された材料を乾燥させると、バイアスが簡単に導入される可能性があり、それが、ナノテクノロジーから出現する観察された自己組織化体（多くの通常の顕微鏡では検出できない）のすべてがCOVID-19注射剤に存在すると他の特定の研究者が性急に主張することにつながった可能性があるかと推測しています。このようなナノテクノロジーがCOVID-19注射剤に存在するという事実は、Campraと同僚によって最初に議論されたと考えられます（2021a、2021b; Spectroscopy & Campra、2021）彼らは、はるかに強力な分光法と装置を使用して、ナノレベルでプログラム可能な実体と思われるものを明らかにしました。最近では、ディブラシとサンゴリン（2024）

Campra 氏らの研究結果を確認し、さらに拡張しました。彼らの研究結果と、以下に詳細を示す私たち自身の研究結果を考慮すると、Bigtree 氏と Cole 氏（2022）が示唆したように、結果セクションに表示されている自己組織化体は、主に塩やコレステロールなどの自然に形成される結晶で構成されているという仮説を否定できます。

材料と方法

研究では54のサンプルが使用された。COVID-19ワクチン接種キャンペーンで使用された直後に入手した残りの注射用バイアル50本（ファイザー43本、モデルナ7本）と、未開封の新しい注射用バイアル4本である。

バイアル（ファイザー 2 本、アストラゼネカ 1 本、ノババックス 1 本）。バイアルが最初に使用された当日に、オリンパス実体顕微鏡でファイザーとモデルナの製品の初期観察が行われました。バイアル内の残留液は、その後の研究のために実験室の冷凍庫で -20°C で保存されました。その後、解凍後、残留サンプルは長期観察のためにさまざまな培養培地に置かれました。

目的は、時間の経過とともに起こり、顕微鏡で観察できる可能性のある変化を観察することでした。

注射液サンプル、血液および精液標本は、Makler 計数チャンバーを備えた実体顕微鏡で検査されました。実験室環境は、図 1 に示すように、実体顕微鏡、層流クリーンベンチ、ヒートテンプレート、紫外線ライトで維持されました。

実体顕微鏡は、3次元および動的標本を検査するための高度に専門化されたツールであり、一般的に適用される微細手順の結果を観察するのにも役立ちます。

補助的生殖プロトコルの文脈（卵細胞質内精子注入、補助孵化、割球生検など）である。マックラー計数チャンバーは、男性の生殖能力を評価するために限られたスペースで精子細胞を計数することにも特化している。すべての手順は、

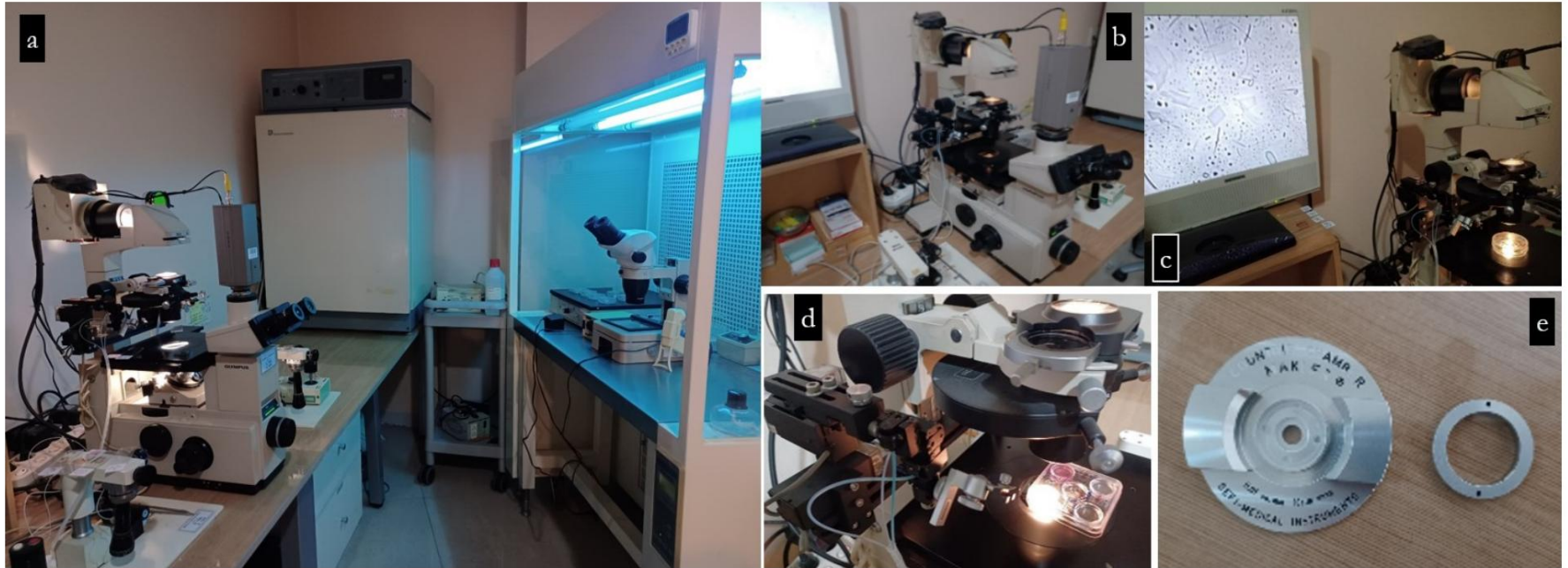


図1. 実験装置: (a) 右側は実体顕微鏡、UV および熱テンプレートを備えた層流空気清浄ベンチ、(b) 観察用に LCD モニターに接続された実体顕微鏡、(c) ビデオ監視機能付きの実体顕微鏡プレート上の Moderna 培養皿、(d) プレート上の 5 ウェル培養皿、(e) Makler 計数装置チャンバー。

ハンナ体外受精研究所のクリーンベンチで無菌的に行われた。韓国保健福祉省により無菌専用スペースとして登録番号138。研究期間中、検体の交差汚染の可能性が懸念されたため、不妊治療のすべての手順は中止された。また、暴露されたナノマテリアルの予測不可能な性質と潜在的な挙動に関するさらなる懸念のため、研究所は一般の人の立ち入りを永久に禁止された。

アクセス。

1. 直接顕微鏡検査

mRNA COVID-19注射剤

54 個の COVID-19 注射剤 (残留物と新規の両方)、1 個のインフルエンザワクチン、および別の生理食塩水サンプル (両方とも対照として機能) を実体顕微鏡で検査しました。

分析には、ファイザーのバイアル 45 本 (残留 43 本、新規 2 本、ロット番号 11 個)、モデルナのバイアル 7 本 (全残留、ロット番号 5 個)、アストラゼネカの新規バイアル 1 本、およびノババックスの新規バイアル 1 本が含まれていました。

Makler チャンバーは、さまざまな製品内の未確認浮遊物質を正確にカウントするのに役立ちました。

すべてのバイアルは、 -20°C で冷蔵保存され、注射剤が投与された場所 (病院、診療所、その他の医療機関) の環境をより正確に近似するために、室温 (RT) で解凍した後に顕微鏡で検査されました。この研究には多数のデータポイントが関係していたため、すべてのサンプルと関連するロット番号を管理することは非常に困難でした。そのため、追跡され確認できたものだけを表 1 に示します。

表1
研究対象となったCOVID-19注射剤のロット番号

COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) 注射可能	ファイザー (P1) 大人向け	小児用ファイザー (P2)	モダナ (男性)	アストラゼネカ (THE)	ノババックス (ネバダ州)	インフルエンザ ヴァキングリブテトラ 事前入力済み 注射器用 注射	0.9パーセント ナトリウム 塩化物 解決 (生理食塩水)
多く 番号	FT1940	FP8290	2100653 CTMAV	578 ND022200	2	V3H13	ジェイル + ロット01619098
	FL4209		2100654				ヒューオン BA1096
	FM3092		2100681				ヒューオン BA1065
	FN5430		2100683				デハン + ロット05W9AF3
	FK0592						
	ブースター用FT7280 (P4)						

† ファイザーの希釈剤としては、生理食塩水 (Jeil & Daehan) を 1:6 で使用しました。ここに記載されている他の注射剤では希釈は必要ありませんでした。

2. 血液と精液の反応

血液と精液のサンプルも検査され、インフルエンザワクチンと生理食塩水 (0.9%塩化ナトリウム) が対照群として使用され、COVID-19の4種類の注射剤すべてに対する曝露と潜在的な反応が調べられました。

注射剤で汚染された可能性のある血液とのバイアスや混同の可能性を排除するため、ワクチン接種を受けていない参加者から全血検体を採取し、遠心分離による機械的損傷を避けるために、室温で約3時間かけて自然沈降させ、上清層から血漿を調製しました。自然な凝固メカニズムを維持し、予期しない生化学的介入を回避するため、サンプル(血液または血漿)の純度を保つために、この手順ではEDTAコーティングされた容器は使用しませんでした。

注射剤が血液サンプルとどのように相互作用するかを観察するために、8枚のスライドガラスを用意しました。最初の4枚のスライドには、それぞれ全血1滴と各注射剤の微小滴が載っていました。滴は、サンプルを徐々に混合できるようにカバー スリッパを使用して相互作用を容易に達成および観察できるように配置されました。続いて、4つの血漿サンプルを同じ方法で処理して観察しました。注射剤がさまざまな媒体(注射を受けていない人の血漿、そのような人の全血、注射を受けた男性と受けていない男性の精液サンプル、その他のさまざまな液体媒体)でどのように相互作用するかを経時的に理解するためです。体液と生体細胞の変化のデジタル ドキュメントは、5〜10分、30分、1時間、2時間、またはそれ以上の一定間隔で繰り返しビデオ録画することで作成されました。さまざまな液体でインキュベートされた注射剤のみを対象とした研究では、結果のセクションで報告されているように、録画は数日から数週間、数か月の間隔で行われました。

精液サンプルは、短期間の培養研究でも運動性が確認できるため、生きた細胞の理想的な、かつ簡単に解釈できる代表例として、細胞毒性の進行性影響を経時的に調べるための優れた基礎を提供します。私たちが詳細に調べた4つの精液標本のうち、3つはワクチン接種を受けた参加者で、COVID-19の注射を2回または3回受けた後に不妊問題を報告し、以前に採取した精液標本を私たちの実験目的で使用することに同意した人のものであり、1つはCOVID-19の注射を受けていない人のものでした。精液サンプルが最初に採取された時点では、「ワクチン接種を受けた」ドナーの誰も、受けたCOVID-19注射の否定的な「副作用」を報告していませんでした。実験研究の前に、世界保健機関(WHO、2021)によれば、すべての精液標本は精子数、形態、運動性に関して正常と分類されていました。重要なのは、「ワクチン未接種」の個人から採取した対照サンプルの品質が非常に優れていたことです。ドナーは比較的若く、まだ20代で、他の3人のドナーがCOVID-19「ワクチン」の注射によって経験したかもしれない毒性の影響にさらされていませんでした。精子サンプルの運動性に関して研究した補助液やその他の既知または潜在的に有毒な物質には、焼酎(韓国の蒸留酒、20プルーフ)、赤ワイン、ビール、シリカ水などがありました。また、それらを生理食塩水(対照として)に加えて、ビタミンC、マイカ、培養培地の影響を調べました。

注射を受けた患者から採取した皮膚抽出物。検査した環境の細胞毒性の程度は、さまざまなドナーの精子細胞の運動性に現れると予想しました。

3. インキュベーション研究

上記に加えて、さまざまな注射剤の成分を培養するための複数のアプローチが適用されました。この研究の培養の側面は、2024年4月8日時点で51億3000万人の異なる人間の体に134億回投与されたCOVID-19製品の長期的な影響を観察し、合理的な推論を導き出すための努力によって動機付けられました。

(Pharmaceutical Technology, 2024).各注射剤 (ファイザー 1,2,4、モデルナ、アストラゼネカ、ノババックス) の微量サンプル (0.03 ml) を、生理食塩水、滅菌蒸留水、ハルトマン溶液にそれぞれ加え、室温 (15~25 °C、季節変化に合わせて調整) で特別な添加物なしで培養皿 (胚培養皿の場合は 1.2 ml、5 ウェル培養皿、またはペトリ皿の場合は 8 ml) に入れました。3 種類の培養皿と各培養皿の概略図を図 2 に示します。各皿はカバーされ、比較的無菌状態で維持されていたため、外部からの汚染の可能性は最小限でした。並行して行われたすべてのインキュベーション研究の過程で、培養皿が外部の細菌や真菌孢子に汚染されたことは一度もなかったという強力な証拠があります。

しかし、図 2 の培養皿の手描きイラストの側面図に示されているように、異物が時間の経過とともに見られるようになりました。1 次元 (1D) から 3 次元 (3D) の実体が皿の平らな底で発達しているのが見られ、時間の経過とともに複雑な 3 次元形状に変化し、生きて見えるか、少なくとも流体媒体を通じて浮かび上がることができるように見えました (図 2 の手描きイラストの右端に示されています)。

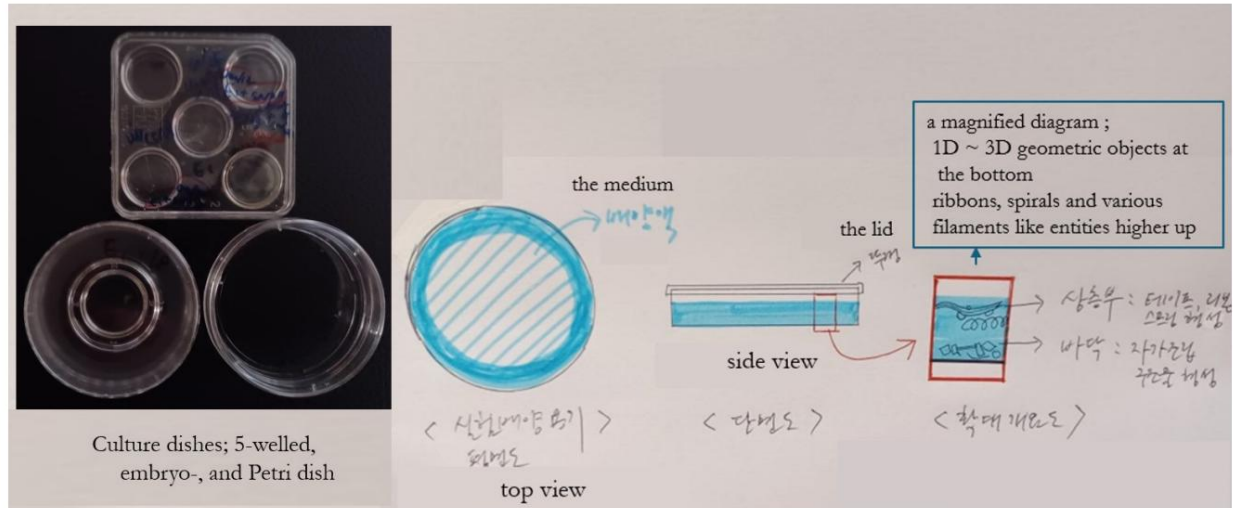


図2. 韓国語と英語で手書きの図解と注釈が描かれた様々な培養皿。培養皿のセットアップと時間の経過に伴う培養物の覆い方を示す。左は上から見た培養皿。左から右に読むと、上からの眺めと、透明な蓋で覆われた内部の液体を示す側面図が対比されている。右端の拡大側面図には、1~3次元の幾何学的物体と浮遊する糸状の物体が描かれている。

皿の平らな底には構造物や 3 次元の幾何学的実体が現れますが、リボン、らせん、糸状の物体は、液体媒体の上の方で泳いだり浮いたりしているように見えます。

ファイザー社の3つの製品 (ここでは成人用のP1、小児用のP2、ブースター用のP4と指定)とモデルナ社のCOVID-19注射剤を、特定の化学物質と結晶を加えたさまざまな溶液で培養し、その潜在的な治療効果または有害効果を観察した。

使用された化学溶液は、毒性の強い二酸化塩素 (ClO_2)、次亜塩素酸カルシウム ($\text{Ca}(\text{OCl})_2$)、および過酸化水素 (H_2O_2) で構成されており、用量依存的な条件下で管理された状態で慎重に検査され、言い換えれば、各溶液に添加される可能性のある治療効果のある成分または有害な成分の割合が厳密に考慮されました。

添加結晶を含む溶液には、(1)様々なブランドのコロイド銀および金、雲母（韓国の鉱物複合体）、(2)EDTA（エチレンジアミン四酢酸、鉄およびカルシウムに容易に結合するキレート剤で、化学式[CH₂N₂]₄のミノポリカルボン酸）、(3)シリカ水、および(4)重曹が含まれていた。

ワクチン接種を受けていない2人から採取した別の検体を用いた血漿反応も研究された。

それぞれは、自然沈降によって分離された人の全血の上清で構成されていました。

血液サンプルは、容器の下部に血球の大部分が集まった後、血漿を得るために容器内で約3時間放置された。その後、2つの

血漿サンプルはそれぞれ少量のファイザー社とモデルナ社の注射剤とともに培養された。

1〜2個の血漿サンプルを調製した後は、各人の血液の供給量が限られているため、流動性を維持するために蒸留水または生理食塩水が追加されました。

すべての培地は、液体の十分な粘稠度を維持し、結晶化の増加を引き起こす完全な蒸発を避けるために、毎週または必要に応じて補充されました。さまざまな生体培地中の天然結晶に関する以前の経験から、液体を乾燥させると、液体に含まれる目に見えないナノ材料から出現する実際の構造がカモフラージュされると推測しました。その考えを念頭に置いて、私たちのアプローチは、これまで適用されていたよりも集中的な顕微鏡検査とより厳密な実験室ベンチ科学によって、COVID-19注射剤の自己組織化ナノテクノロジーを解明できるように設計されました。注射剤のサンプルを何時間も観察した結果に基づいて、乾燥によってあらゆる培地で塩の結晶化が増加すると、注射剤に含まれる目に見えないナノ構造の自己組織化も妨げられる傾向があると推測しています。私たちの結果（以下を参照）から今では明らかのように、培養された液体製品には目に見えないナノ材料として始まる自己組織化構造があります。

さまざまな溶液で培養されたCOVID-19注射液（特にファイザーとモデルナの製品）を最長1年間観察した結果、観察可能な自己組織化によってこれらの構造が目に見えるようになったことについて、さらに詳しく述べる予定です。実体顕微鏡による定期的な検査と観察の記録が行われ、後でより詳細で集中的な繰り返し検査を行うためにデジタル形式で保存されました。

4. 熱、電磁波、5G、紫外線の研究

a) 熱

ファイザー社とモデルナ社のサンプルを別々の生理食塩水培養皿に加え、通常の体温である 36.5 °C に設定された熱プレート上に 48 時間置きました。熱にさらす前とさらした後に顕微鏡検査を実施しました。

b) 携帯電話用ワイヤレス充電器

この研究では、ファイザーとモデルナのサンプルが生理食塩水または蒸留水の別々の溶液で使用され、ファイザーでは約101日、モデルナでは36日間培養されました。培養皿はワイヤレス充電器内の携帯電話の上に置かれ、1〜2時間5Gストリーミングモードに設定されました。電磁場（EMF）測定は三相測定装置（図3）で行われ、ワイヤレス充電器上のHフィールドで300v/m、0であることがわかりました。温度は約15〜20°Cでした。

c) 外付けハードドライブの露出

生理食塩水または蒸留水中のファイザー（101日目）およびモデルナ（36日目）のサンプルの同じ培養段階の皿を使用し、外付けハードドライブに2時間置いて、潜在的なEMF効果を評価しました。外付けハードドライブはPCに接続され、ファイル管理のさまざまなタスクが与えられたときに起動しました。表面で測定された値は、ハードドライブフィールドで約30v/mおよび4 μ Tでした。温度は約23°~25°Cでした。

d) 紫外線研究

サンプルは別々の皿に置かれ、一晩紫外線に晒されました。各実験の前後に顕微鏡検査が行われ、ビデオ画像が録画され、後で取り出して詳細に分析できるようにストレージユニットに保存されました。

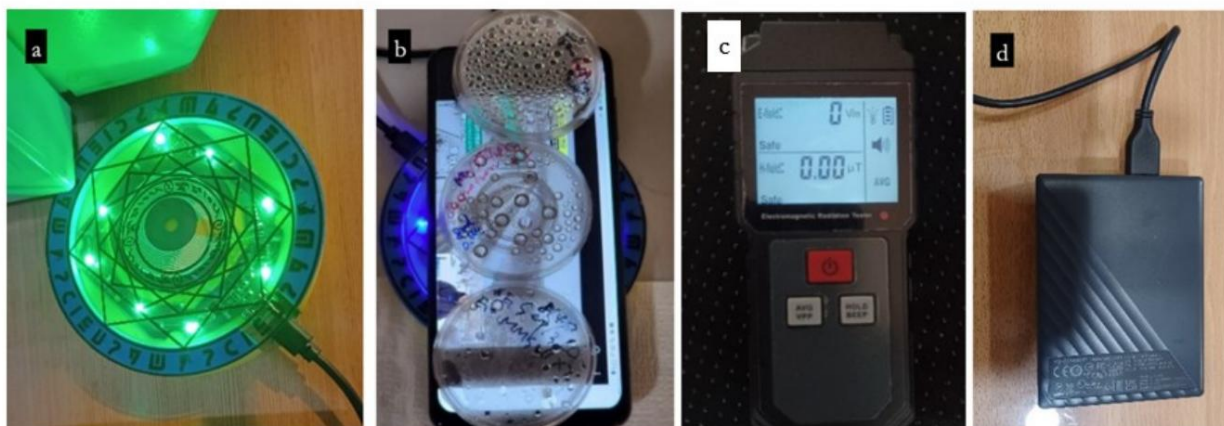


図3. 使用された電磁場 (EMF) 機器: (a) ワイヤレス充電器、(b) 携帯電話上に置かれた複数の培養皿、(c) Triphase 測定装置、および (d) 追加曝露用の外付けハードドライブ。

5. 生化学分析

注入可能な培養培地

注射成分を間接的に分離して理解するために、尿スティック（Abbot,UroCro4,U040H012A）を使用して生化学スクリーニングテストを実施しました。培養培地からの汚染を避けるために、各Uスティックは各注射培地の1マイクロドロップにさらされました。色各標本の変化は標準比色計によって解釈されました。

6. リサイクルパターン

培養の初期段階では、注射を受けた被験者の皮膚抽出物（モルゲロン菌の各種）が生理食塩水に入れられました。抽出物の提供者は、mRNA 実験製品の注射からわずか数日後に麻痺性発作の副作用に苦しんでいた患者でした。

彼女のモデルナ注射剤の標本は匿名化され、抽出物1（E1）としてコード化された。皮膚抽出物の最初の検査中に、周囲の粒子が現れ、実体顕微鏡下で直接観察すると共生関係を示しているように見えた。E1を1か月培養した後、最大寸法が1 μ m未満の種子状の粒子が十分に存在し、

十分に成長した粒子が培養皿の生理食塩水中の皮膚抽出物の主要部分の周囲を浮遊して動いているのが観察された。粒子は注意深く収集され、

異なる生理食塩水皿で約1年またはそれ以上培養されました。研究者が単に記録を忘れたため、これらの粒子の経時的な変化を顕微鏡で定期的に検査することは、最初は怠られていました。しかし、皮膚抽出物の培養は生理食塩水で維持されました。しかし、366日目以降、研究者は進行中の研究のこの側面を思い出し、それ以降は高解像度の画像が検査され、記録され、その後の詳細な分析のために保存されました。

結果

1. 直接顕微鏡検査

注射剤

対照として生理食塩水を用いた場合、400倍の倍率では異常な浮遊物は観察されませんでした（図4a）が、インフルエンザワクチンのバイアル4本では同じ高倍率で2〜3個の浮遊粒子が見られました（図4b）。また、アストラゼネカの新しいバイアル1本とノババックスの新しいバイアル1本では、同じ倍率で1〜3 μm の範囲の浮遊粒子が1〜2個見られました（図4c）。



図4. (a) 生理食塩水対照と (b) インフルエンザワクチン、(c) アストラゼネカ注射剤の400倍濃度の比較倍率。

対照的に、ファイザーの注射剤の残りのバイアルと新しいバイアル（11の異なるロット番号の2つの新しいバイアルを含む）には、最大寸法が約2〜100 μm の、さまざまな形状の未確認の浮遊物が多数含まれていた。これらの自由に移動する粒子はアルゴリズムで数えられ、推定された。

1mlあたり約3〜4 $\times 10^6$ 個のそのような実体が含まれていると推定される。これらの実体のうち、約30%は虫のような形をしており、さらに棒状、円盤状、結晶状の混合物もあったが、さまざまなサンプルは、それらに見られる主な形状とそれらの形状の密度の両方においてバイアルごとに違いを示した（図5aの左側部分）。ファイザーのサンプルを体温で最大2日間培養すると、それらはさらに発達し、さまざまな他の形態に変化するという命令に応答するかのよう活発になったようで、追加の虫のような交配ペアが出現した。

層状の円盤、球体、細長い管状の物体も現れた（図5a、右側のD1とD2を参照）。ファイザーのサンプルと比較すると、モデルナの7つのバイアルすべてに粒子の数が多く、また、円盤、コイル、ビーズ状の鎖、そして

シャンデリアのようなコイルの束（図5b、左半分）。

解凍と凍結のプロセスが繰り返されると、未確認の浮遊物や著しく活性化したと思われる物体が増加した（図5bを参照、上部のフレームは凍結と解凍の繰り返しによる変化を示している）。ファイザー濃縮液の新しい元のバイアルを実体顕微鏡で調べたところ、動いている虫のような物体や小さな粒子がいくつか見つかったただだったが、対照的に、ヒトの受容体への注射の推奨方法に従って生理食塩水で1:6の比率（0.3 ml : 1.8 ml）に希釈すると、

内容物が目覚め、生命を吹き込まれ、活性化し、数分以内にさまざまな形の棒状体、鍵型構造物、その他の構造物が大量に現れたように見えました。これらの新しい実体は、既知の自然または識別可能な有機実体とは似ていませんでした (図 5b - 新しいファイザー)。

COVID-19ワクチンの乾燥標本はすべて実体顕微鏡で調べられた。ファイザーとモデルナのサンプルでは内容物がさまざまな幾何学的形状として現れたのに対し、モデルナはより拡大した不規則な幾何学模様を示した。対照的に、アストラゼネカはさまざまなサイズの小さな円盤をいくつか示したのに対し、ノバボックスでは暗色の物質が著しく少なく、結晶形成もそれほど見られなかった (図5b、右側を参照)。解凍、再凍結、そして再び解凍するとこのような変化が生じるという事実は、製造業者が使用者に注射剤を極度の凍結温度 (ファイザーでは摂氏マイナス70度)で保管するよう勧める理由の少なくとも1つを示しているのかもしれない。

2. 注射剤に対する血液と精液の反応

実験は、厳密に管理され、観察された条件下での血液と精液の反応を評価するために実施されました。私たちは、二重対照多重治療設計で、注射剤との比較に生理食塩水とインフルエンザワクチン (特にVaxigrip Tetra)を使用しました。注射剤 (ファイザー、モデルナ、アストラゼネカ、ノバボックス)は、それぞれ異なる治療でした。私たちの主な目標の1つは、生きた細胞と直接接触した場合のCOVID-19液の細胞毒性を評価することでした。

この目的を達成するために、COVID-19のマイクロドロップを、血漿または全血の滴と接触できるようにスライドガラス上に注意深く配置し、経時的な相互作用を記録できるようにしました。全血または血漿の1滴をスライドの左側に置き、注射剤のマイクロドロップを1滴右側に置きました。カバーガラスの圧力により、液体はスライドの中央で出会い、そこでそれらの間の相互作用を観察し記録することができます。実体顕微鏡では、5~10分、30分、1時間、2時間、その後の一定の間隔での動きと混合を非常によく観察できました。相互作用に対するすべての反応は、日付とタイムスタンプが付けられたシリーズで記録されました。

前述のように、全血はワクチン未接種者の静脈から採取され、血漿は自然沈降法で調製されました。COVID-19 注射剤、特に Novavax は、最も顕著な相互作用、すなわち血球に対する急速で毒性のある影響を示しました。他の注射剤は比較的急速な毒性は示しませんが、赤血球、白血球、血小板にも同様の有害な影響が現れました (図 6 および図 7)。表 2 および表 3 では、さまざまな悪影響の重症度を経時的に、また相互作用するサンプル間で比較しています。

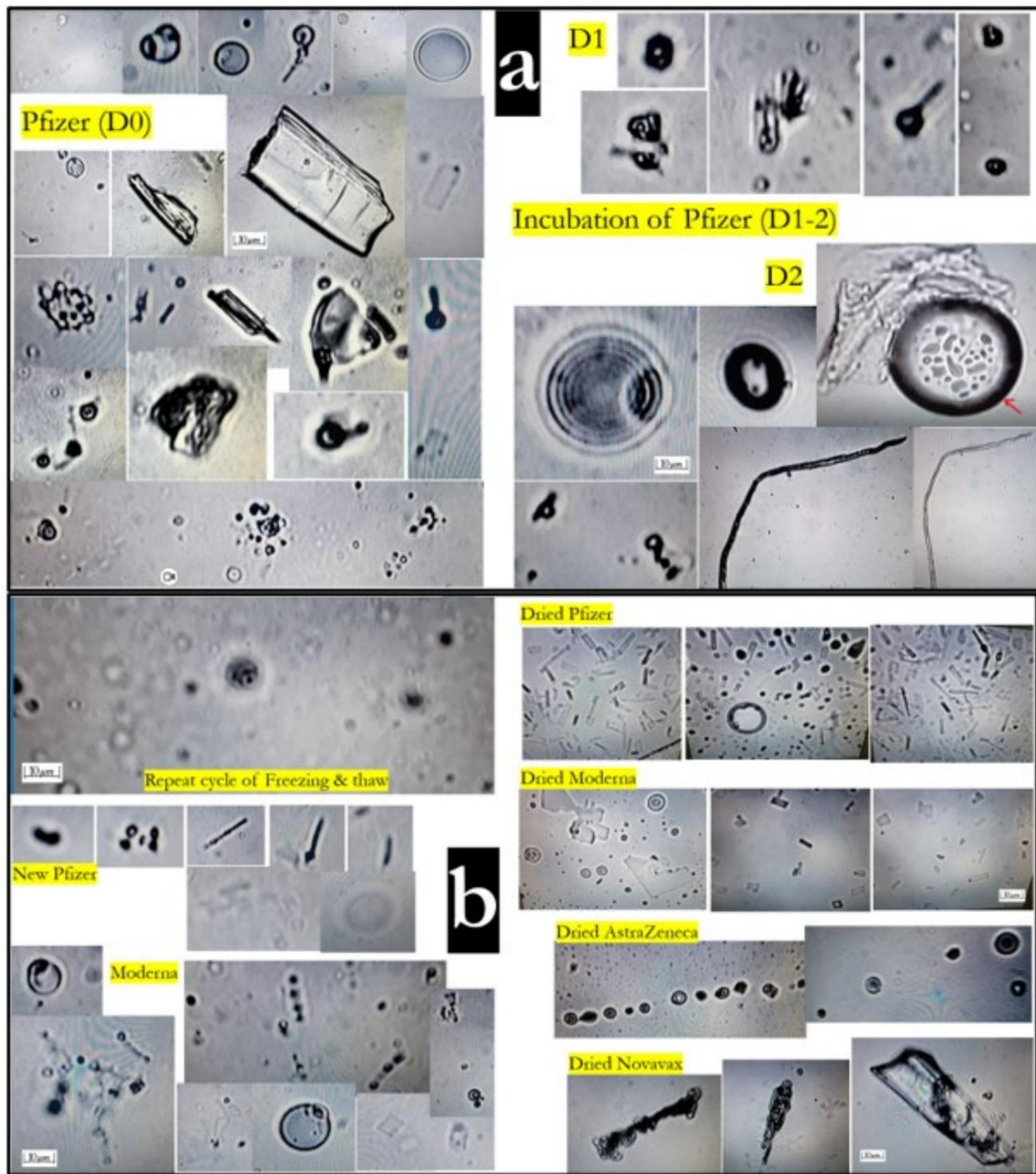


図5.400倍に拡大した2次元で直接観察した顕微鏡所見：(a)残留物と新しいファイザー注射剤、直接観察および1～2日間培養した後。(b)モデルナ社および4つの乾燥したCOVID-19注射剤（ファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社、ノババックス社）。

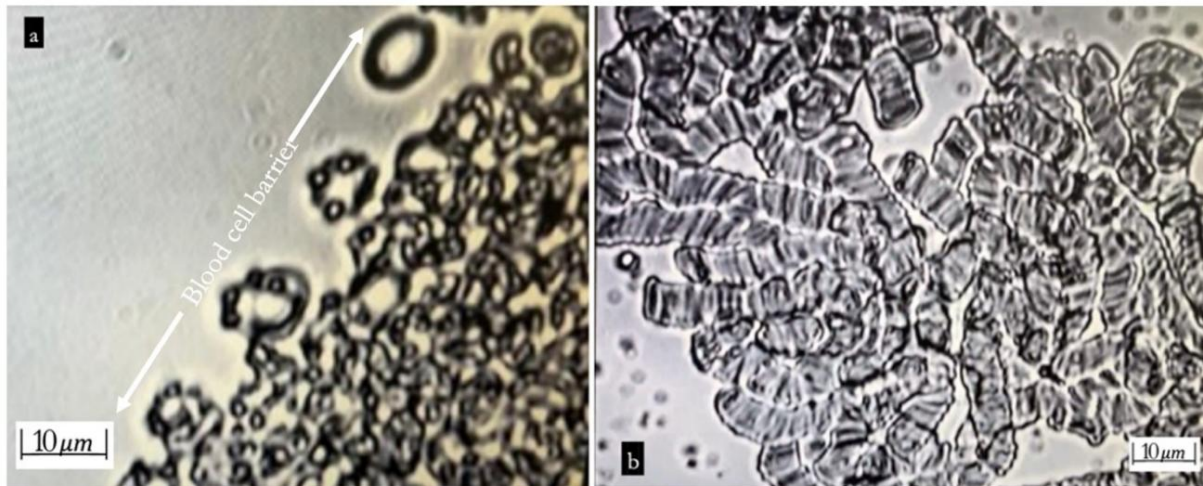


図6. ノババックスと全血(a)/血漿(b)の相互作用を400倍の倍率で観察: (a) 1時間後、血球は「ワクチン」の内容物に対して顕著なバリアを形成しました。(b) 30分後、血漿標本に連鎖状の赤血球の著しい凝集体が現れました。

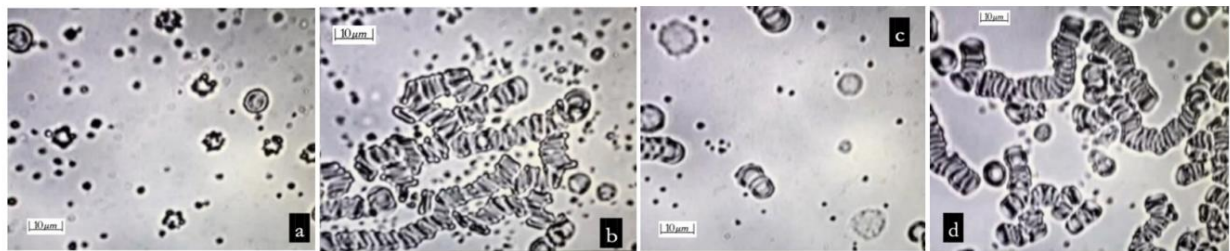


図7. ファイザー、モデルナ、ノババックス、および4つのCOVID-19注射剤による2時間後の血漿反応
アストラゼネカ：(a)ファイザーでは白血球の細胞崩壊（濃縮）と血小板の損傷が見られる。(b)モデルナでは赤血球の積み重ね（連鎖）が見られる。(c)ノババックスでは白血球の核が崩壊（核崩壊）、異常な血小板凝集、赤血球の連鎖が見られる。(d)アストラゼネカでは赤血球の連鎖が顕著に見られる。

注目すべきは、それぞれの血液細胞の行動であり、あたかも前線で戦っているかのように動員され、それぞれの注射剤と対峙していた。赤血球はファイザーとアストラゼネカ、白血球はモデルナ、血小板はノババックスに対して動員されていた。観察された行動にもかかわらず、これらの注射剤特有の現象は、その特徴的な直接的な血液病態生理学、すなわち、連鎖パターンによる血流停滞とそれに続く低酸素症（疲労）、白血球損傷による免疫抑制、血小板損傷または凝集による血栓形成（血栓症）または出血傾向に関連している可能性がある。

精液の研究は、血液の研究に適用されたのと同じ管理された方法で実施されました。

3人のCOVID-19ワクチン接種済みドナーと1人の「未接種」ドナーからのサンプルが、血液の研究と同様に検査されました。結果は表4にまとめられています。

表2
記載されているさまざまなCOVID-19注射剤に対する全血反応

	当初	1時間後
ファイザー	ワクチンに対する最前線に立つ赤血球 白血球、一部は損傷を受け、一部は損傷を受けていない	赤血球は今も最前線に 白血球が軽度 ¹ に損傷している 血小板が中程度に損傷している
モダンナ	最前線の白血球	最前線の赤血球 白血球が細胞質内で崩壊した 血小板が軽度 ¹ に凝集する
アストラゼネカ	最前線の赤血球 血液への拡散 (うまく混ざり合っ ² て)	よく混ぜるとフィブリンが形成され始める
ノババックス	しかし、非常に少数のより小さな層 凝縮した赤血球 ³ が出現した	明確な境界線を確立した 「ワクチン」と血液 赤血球の逆引き

表3
さまざまなCOVID-19ワクチンに対する血漿反応。

	当初	30分後	2時間後
ファイザー	赤血球は 最前線	赤血球はまだ 最前線	濃縮した白血球、 血小板が損傷した 軽度 ¹ に連鎖を形成する赤血球
モダンナ	血小板凝集 軽度 ¹ に連鎖を形成する赤血球	白血球が損傷した 血小板凝集	赤血球が適度に連鎖状になる 血小板凝集
アストラゼネカ	赤血球が適度に連鎖状になる 血小板凝集	赤血球が重度に連鎖状になる フィブリン様形成	赤血球が適度に連鎖状になる
ノババックス	最前線にいる血小板と白血球 赤血球が重度に連鎖状になる	最前線の血小板 赤血球が非常に重度に連鎖状に なる	顕著な核崩壊が起こった白血球と 赤血球が損傷し、重度に連鎖状血球を 形成している

表4
COVID-19注射剤に対する精液の反応を運動率 (%)で測定

	ファイザー (P1,2,および4)				モダンナ			アストラゼネカ			ノババックス			インフルエンザワクチン コントロール			生理食塩水 コントロール					
	10分	30分	1時間	2~3時間<	10分	30分	1時間<	10分	30分	1時間<	10分	30分	1時間	10分	30分	1時間<	10分	30分	1時間<			
47歳の精液 1	10%	5%	1%	0%										5%	1%	0%	70%	60%	50%	70%	70%	70%
44歳の精液 2	2位 40%		2位 20%	P1 2時間30% 3時間 20%			30%	0%			2時間 70% 5.5時 間 30%		10%	2時 間 1-5%		60%			70%		2時 間 60%	
38歳の精液 3				P4 2時間; 50% 41時間 † 1%			40%				30%										30%	
精液4 28歳、 非 ワクチン接種者 (コントロール)	90%	P1 80%		3時間 P1 80% とても 活発	80%	80%	3時間 60%	70%	70%	3時間 70%		80%	70%	3時間 50%	80%	70%	3時 間 60%				50%	

† = 最大寿命、m = 分、h = 時間 精液 4 は、1 ミ
リリットルあたり 120 x 106 個の精子細胞と 80% の運動率で最高の品質を示しました。

さまざまな注射剤に曝露すると、たとえ低濃度であっても、数時間以内に精子細胞の進行性死が起きました。この精子細胞の急速な破壊は当初の予想とは一致しませんでした。このプロセスは血液サンプルで観察された反応と一致しており、血液サンプルでもそれほど急速ではないものの進行性の損傷が見られました。血液研究と同様に、ノババックスは精子細胞との接触で最も顕著な毒性を示しました。

動けなくなり、すぐに死んでしまう。アストラゼネカは精子標本への影響についてさまざまな結果を示したが、ファイザーとモデルナは精液の各標本に進行性致死効果を引き起こすという点で一貫していた。生理食塩水やインフルエンザワクチンは、予想される自然な分解を引き起こし、時間の経過とともに、顕著な毒性の増加は見られませんでした。運動性は通常、数時間しか持続しませんでした。

COVID-19の注射剤を投与されていない若くて健康なドナーの精子細胞の場合、24時間は最も長い生存時間であったが、例外的な発見があった。サンプル3（表4の4行目の精液3）のいくつかの精子細胞を、ファイザーの注射剤で培養した。

ファイザーの注射を2回受けたドナー（精液3）の精子のうち約1%が（表4の4行目と5列目に記載）、41時間生存しました。ファイザーの注射剤を2回受けたこの男性の生き残った精子細胞は、2回の注射によって何らかの形で傷害を受けにくくなったのでしょうか。ファイザーの注射剤によって破壊されやすい精子細胞（サンプル（精液3）の99%）だけがすでに死滅していたようです。しかし、私たちの考えでは、細胞の寿命は元々の健康状態に関係しています。つまり、注射剤に対する精子細胞の反応と活力は、その後の毒性への曝露よりも、その本質的な品質に大きく左右されます。それにもかかわらず、COVID-19注射剤はすべて、数分または数時間以内に一部の精子細胞に一貫して致命的な影響を示しました。さらに、アストラゼネカとノババックスは mRNA ベースではありませんが、精子と血液細胞に対して非常に深刻で直接的な致死効果も示しました。アストラゼネカとノババックスのスパイクタンパク質生成プロセスはファイザーとモデルナのものとは異なると思われるが、ノババックスに含まれているとされる組み換えスパイクタンパク質は、特に生きた細胞に対して有毒であるようです。顕微鏡で観察した結果の要約を図8に示します。

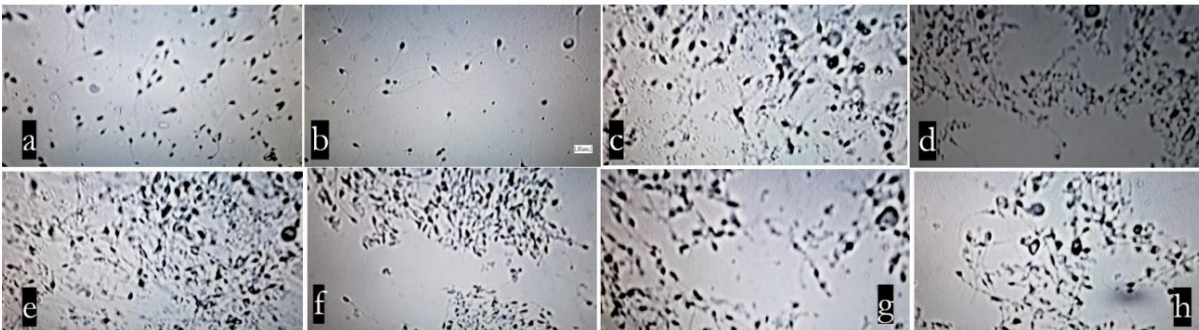


図8. COVID-19注射剤に対する精液の反応（200倍拡大）：(a)2時間後に対照として生理食塩水を加えた精液、(b)1.5時間後に対照としてインフルエンザワクチンを加えた精液では、精子細胞の形態は損なわれておらず、精子の運動性が自然に低下する典型的な傾向が見られた。(c)ファイザー1注射剤を加えてから30分後、精子の運動性が急速に低下した。(d)ファイザー1を加えてから1時間後、すべての精子の運動性が停止した。(e)モデルナ注射剤を加えてから30分後、(f)モデルナを加えてから1時間後、精子細胞は完全に運動性を失った。(g)ノババックスを加えてから30分後、(h)ノババックスを加えてから1時間後、すべての運動性が停止した。

まとめると、COVID-19 注射剤は、生体細胞、特に血液細胞（赤血球、白血球、血小板）と精子細胞に直接細胞毒性作用を及ぼします。これらの観察された相互作用に加えて、生体細胞と体のシステムに対する追加の有害作用もほぼ確実に発生しています。pH、浸透圧、温度、さまざまな濃度の電解質の正常なバランスと恒常性はすべて、細胞レベルで発生する損傷によって影響を受けやすいです。サンプル間でばらつきはありましたが、ワクチン接種を受けた参加者の検体は、注射剤との接触に直接起因する即時および/または進行性の有害な影響を一貫して示し、接触が原因で発生している間は観察可能でした。調査したブランド間で違いはありましたが、いずれも毒性に起因する目に見える損傷を引き起こしました。おそらく最も興味深い対照は、ワクチン接種を受けていない参加者の精子細胞は、COVID-19 注射剤を 1 つ以上接種した人の精液よりも損傷が少ないように思われたという事実です。対照群 S4 で観察されたこの抵抗の考えられる理由（詳細は表 4 を参照）は、参加者の若さと健康に関連している可能性があります。

培養した注射剤の精液と血液培地の比較研究の結果を表 5 に示す（付録 A を参照）。表（5、7、8、9、10、および 11）において、プラス（+）は不特定の異物構造の存在を示し、マイナス（-）は明らかな不在を示す。これらの構造が観察される程度は、2 つ（++）、3 つ（+++）、または 4 つのプラス（++++）記号で示される。疑わしい（または不明瞭な）構造が観察された場合は、プラスとマイナス（+/-）で示される。異物構造がほとんど識別できない程度は、プラスと 2 つから 4 つのマイナス記号（+/-）（+/-）（+/-）で示され、後者は形態的に最も不明瞭である。

精液（S3）は 2 回ワクチン接種を受けた人から採取され、血漿 1 と 2 はワクチン接種を受けていない人から採取されたが、培養研究では、血漿よりも精液の方が糸状体、リボン、チップ状構造の発達に明らかな傾向が見られた。しかし、精液サンプルと血漿培地の違いの正確な原因はわかっていない。それにもかかわらず、精液と血漿のサンプルでは、COVID-19 注射剤は事前にプログラムされた自己組織化構造を生成できる可能性があるように見えたが、血漿では精液よりもその量は少ない。

さまざまな一般的な補助物質や酒類（赤ワイン、ビール、韓国の蒸留酒（20プルーフ）など）、ビタミンC、マイカ、シリカ水、コロイド金（GNP1）、0.001%（飲料水の消毒のための消費標準濃度）への曝露による精液への細胞毒性効果

次亜塩素酸カルシウム（Ca(OCl)₂）を検査しました。また、E1（前述の匿名の参加者）の皮膚抽出物を通常の生理食塩水で数か月間培養しました。結果は次のとおりです。

ほとんどの溶液は精子細胞に直接毒性があるようでした。精子細胞は運動性を失い、最も若く健康な未接種のドナーの場合、数分から 1.5 時間以内にはほぼすべてが死滅しました。マイカは最も低いレベルの毒性を示しました。一部の精子細胞は運動性を保持し、曝露後 1.5 時間まで生きていました（約 10%）。観察された最も極端なケースでは、若く健康なドナーの場合、約 0.1% の精子細胞が 3 時間経過後もまだ動いていました。韓国の蒸留酒は、時間の経過とともに観察された他の潜在的に有毒な化学物質よりも、最も即時の直接的かつ致命的な毒性効果を示しました（表 6 を参照）（付録 A を参照）。

生細胞を用いた上記の結果には重要な制限がある。我々の設計は、ある種の試験管内実験室曝露、または培養を伴う。このような曝露は、液体とほとんど比較できない。

ナノ粒子は、筋肉組織に注入することで生きた人間の体内に導入されます。血液細胞と精子細胞は、個人の心血管系とリンパ系の相対的な効率に応じて、数分から数時間にわたる漸進的な体液輸送によって影響を受ける可能性があります。輸送は、若くて健康な人の方が優れていると予想されます。そのため、体液輸送システムの効率が低い高齢者よりも、私たちの研究結果が体外で発生していることを示している種類の細胞損傷に対して、より影響を受けやすく、より影響を受けにくい可能性があります。場合によっては、ナノ粒子やその他の未確認物質が血流に入り、男女ともに血液脳関門、男性では精巣血液関門、女性では卵巣および胎盤関門を通過し、生殖能力と胎児の健康に直接影響を与える可能性があります。そのような接触は、私たちが実験的に研究したほど濃縮された形で体内で発生することはないと思われます。

これらの事実を念頭に置くと、私たちの実験結果は、COVID-19の注射液が自然な心血管およびリンパ輸送によって体全体に運ばれる際に予想される結果のいくつかを確かに示唆しています。人体への実際の影響をよりよく理解するために、短期ではなく安定した長期のインキュベーションを再現するためにあらゆる試みがなされました。

検査。私たちの目的は、注射剤の影響を受けた生きた人間に起こる影響とおそらくより類似した方法で、希釈された影響と散発的な影響を調べることでした。

3.注射剤のインキュベーション研究：

1) 注射剤の培養の概要

1年を超える潜伏期間全体を通じて、mRNAワクチンの検体（ファイザーとモデルナ）のいずれにも細菌や真菌による汚染の兆候は見られなかった。これは、典型的な抗生物質や抗生物質への定期的な曝露に依存していなかったため、注目に値する。

基本的な培養研究でよく見られる抗真菌剤を添加する必要はない。以前の短期培養研究（ここでは紹介していない）で直接顕微鏡観察を行った結果、これらの異物は有機物ではなく、少なくとも合成ハイブリッド生物またはおそらく動くロボット構造物であると確信したため、培養には非典型的なアプローチを採用した。このアプローチは、観察対象の物質の純度を劇的に変える可能性のある抗生物質や抗真菌剤、その他の抗菌または抗真菌消毒剤などの実験用薬剤を定期的に供給する通常の培養方法とは異なる。私たちの研究では、成長は小さな容器でも維持された。

容器には酸素や二酸化炭素は供給されませんが、酸素や二酸化炭素は追加されません。

基本的な培養培地として生理食塩水と蒸留水が選ばれた。これらは顕微鏡で識別できる異物構造の形成に理想的であった。比較のために、他の特定の電解質溶液（すなわち、ハルトマン溶液、0.001% (1X)次亜塩素酸カルシウム (Ca (OCl)₂)、3%過酸化水素 (H₂O₂)、および1ppm (1/100X)二酸化塩素 (ClO₂))も培養媒体として使用されました。後者の媒体は、私たちの結果によると、生理食塩水や蒸留水よりも異物の自己組織化を可能にし、自己組織化合成物質の発達を抑制する働きがあった可能性がある。

アストラゼネカとノババックスは、皿の底に自己組織化構造を開発しなかった。ファイザーとモデルナのmRNA注射剤とは対照的である。上層のフィラメントは非常に稀にしか発生しないようでしたが、その発生源は依然として疑問でした。長期培養により、アストラゼネカとノババックスは真菌や細菌に汚染されました。ファイザーとモデルナのmRNA培養研究ではそのようなことは起こりませんでした。ファイザーとモデルナのワクチンは、独自の一貫した増殖パターンを示しました。図9は、

さまざまな媒体に注入可能な COVID-19 mRNA では、2 か月から 6 か月かけて幾何学的なパターンが自己組織化されますが、図 10 は、本稿執筆時点まで徐々に発達し、構造的完全性を維持してきたさまざまな形態を報告しています。

最初の数週間で、皿の底にさまざまな幾何学的構造が自己集合しました。

第 1 週: 1 次元の棒状の物体、または 2 次元の単純な平らな長方形の構造が現れました。

2~3週目: 下部の既存のエントティに2次元から3次元の構造が追加されたようです。

14日目からは、よくできた3次元構造が底部の元のフレームから剥がれ、上層（流体層の深さ約6~8 mm)に上昇しました。図2を参照してください。

図 11 ~ 19 では、観察期間全体にわたる mRNA 注射剤の培養研究の結果を報告しています。特に興味深いのは、おそらく私たちの拡大倍率では見えなかったナノ材料から作られた自己組織化構造です。最大 400 倍の拡大倍率に制限されていました。しかし、培養の約 5 週目までに、驚くほど多様な自己組織化構造が見えるようになりました。最終的にはリボン、コイル、フィラメントのような構造で構成されていました。それらは 37 日以降、ファイザーとモデルナの液体を含む培養培地の中層と上層に形成され、移動しました。

下層の自己組織化構造（図 9 参照）については、完全な組織化のピーク段階は、孵化後 2 ~ 6 か月程度と推定されます。この期間の後、構造の崩壊が進行し、最終的に痕跡を残して構造が消失しました。円形に包まれたこれらの残骸の形状は、成長中の寄生虫の蛹段階で観察されると予想されるように、ある種の成長の休眠段階を意味している可能性があります（図 11 - k、l、m、および図 19 - j、k、l）。

興味深いことに、滅菌蒸留水中では、ファイザーのサンプルは、より発達した螺旋（コイル）、テープ、フィラメント、膜、ビーズ状の鎖を示し、それらは底層または最上層のすぐ上の中間層に浮いているように見えました。これは、過去数か月の観察期間における成長のピーク段階の後に起こったようです（図 12、13、および 14）。

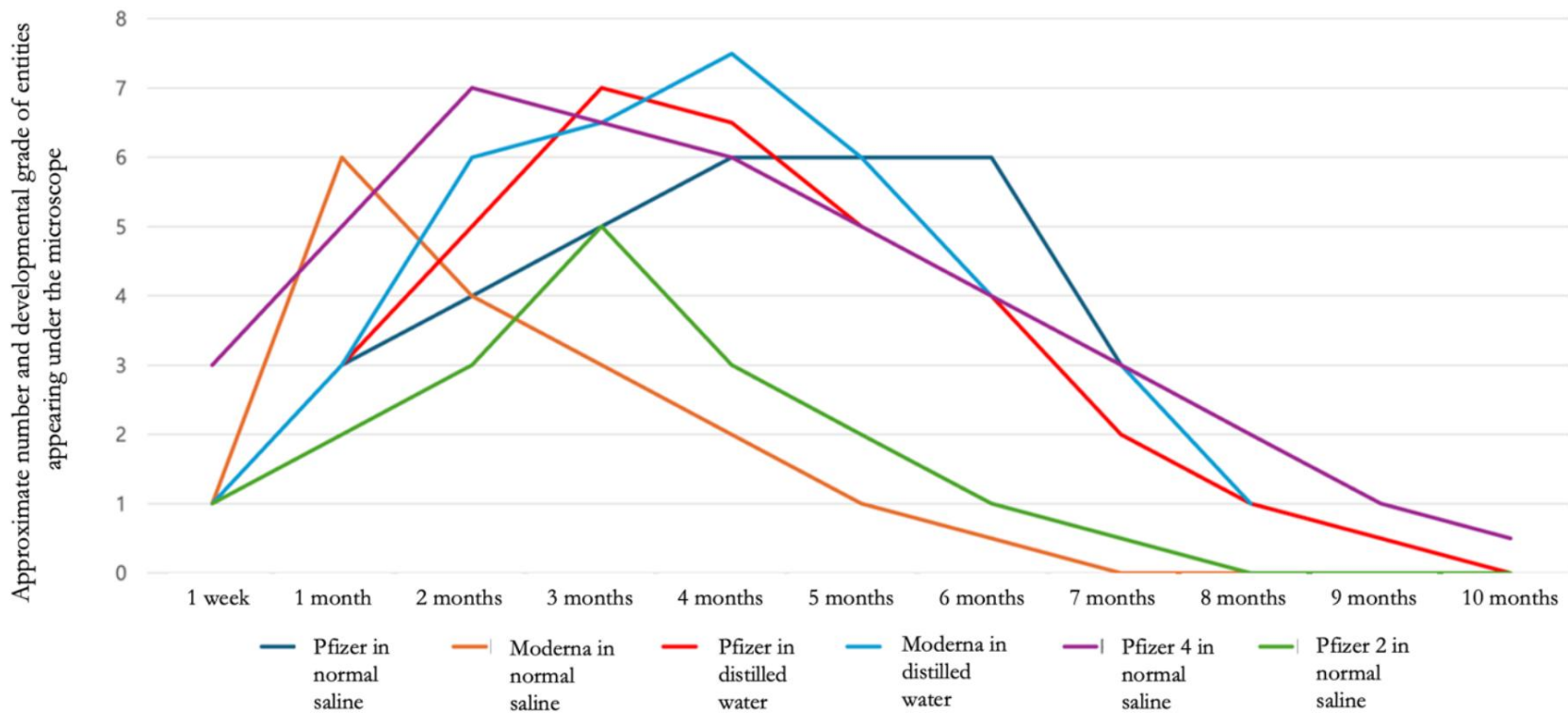


図9。ファイザーとモデルナのCOVID-19注射剤の10か月間の培養期間中に出現したさまざまな幾何学的実体の出現と発達の視覚的な要約。グラフに示されている発達傾向は、mRNAワクチンの種類と培養培地に関係なく、培養期間の2～6か月が培養皿の底での幾何学的自己組織化のピーク段階であることを示しています。発達のピーク段階の後、組み立てられたチップのような構造は徐々に消えていきました。

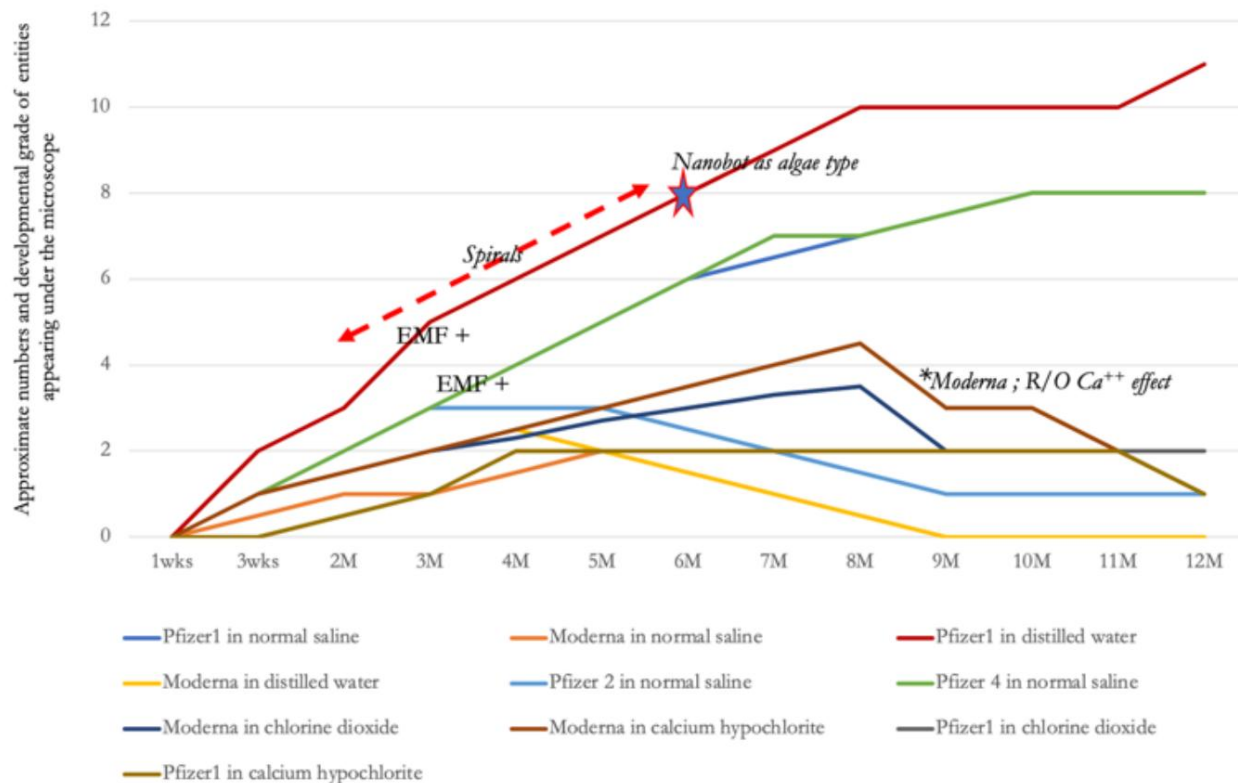


図10。長期培養研究を通じて、さまざまな媒体と電磁場曝露におけるCOVID-19 mRNAワクチン中の浮遊構造（リボン、スパイラル、フィラメント）の成長パターン：このグラフは、特に蒸留水と生理食塩水中で、リボンやスパイラル、その他のさまざまなフィラメントが培養後期まで徐々に現れ、発達することを示しています。さまざまなスパイラルは、特に蒸留水中で、2～6か月の培養中に一時的に現れました。磁性ナノボットのような構造は、約180日間の培養で現れ、その後蒸留水中で消えました。ワイヤレス充電器からの電磁場は、特にファイザーのサンプルを刺激し、蒸留水と生理食塩水中で、数が多く、構造的完全性が持続するフィラメントを発達させたようです。電磁場に曝露されていない小児用のファイザー2は、もともと成人用のファイザー1よりも希釈されているため、発達傾向はモデルナのものに似ているように見えました。モデルナはファイザーに比べて糸状構造を大量に生成しなかったが、糸状構造が比較的多く、次亜塩素酸カルシウム中でより持続性のあるものを示した。この現象は、Ca⁺⁺ 電解質によってわずかに刺激されたようである。

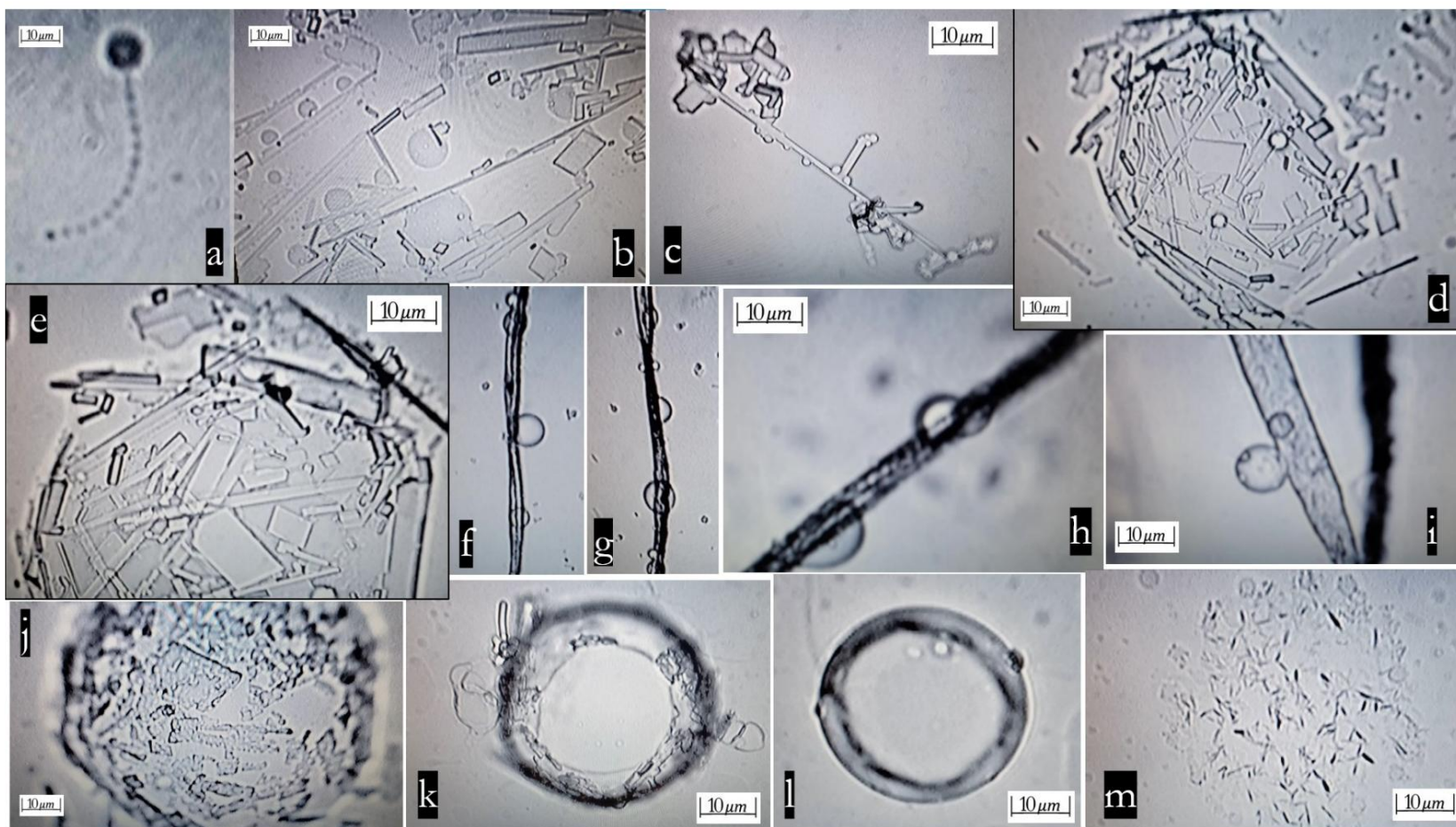


図11. ファイザー社の372日間の培養研究の結果。(a) 22日目、これはビーズ状の鎖と表現されるもの（400倍の拡大）；(b) 24日目、2-生理食塩水中の底部における3次元幾何学的自己組織化（200倍の倍率）。(c) 60日目、蒸留水中に浮遊する3次元の詳細なチップ状構造（400倍の倍率）。(d) および (e) 60日目、蒸留水中で楕円形の境界内に蓄積された3次元のチップ状構造（200倍 / 400倍）。(f)、(g)、(h)、(i) 95日目に通常の溶液中で内側と外側に泡を放出しながら浮遊するフィラメント（100倍 / 100倍 / 200倍 / 200倍）。(j)、(k)、(l)、(m) 蒸留水200倍液中の進行性変性変化（82日目/256日目/306日目/372日目）。

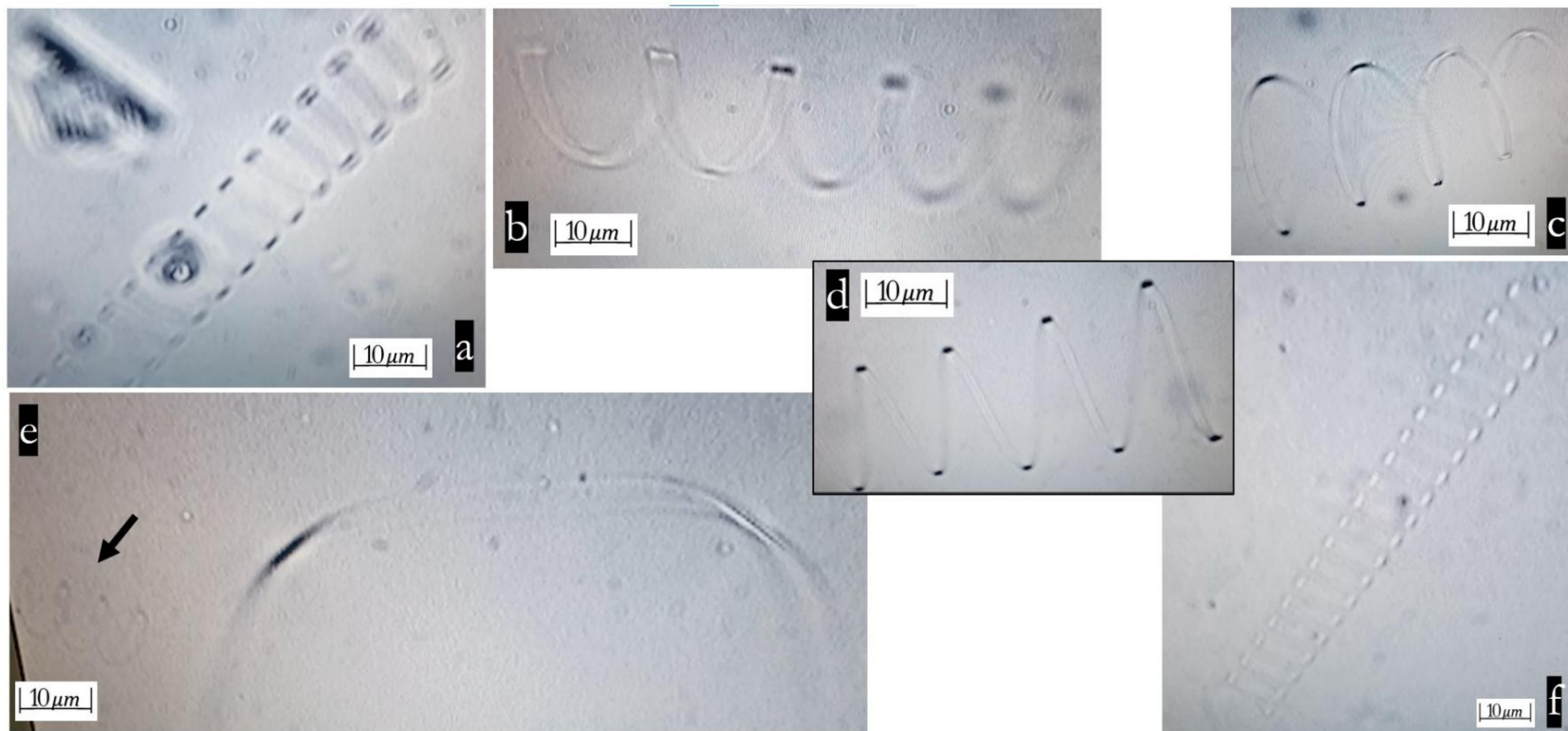


図12. ファイザー蒸留水中の様々なコイル、リボン、スパイラル: (a) 60日目 (200倍の倍率)、(b) ~ (e) 74日目 (200倍の倍率)、(f) 176日目 (100倍の倍率)。

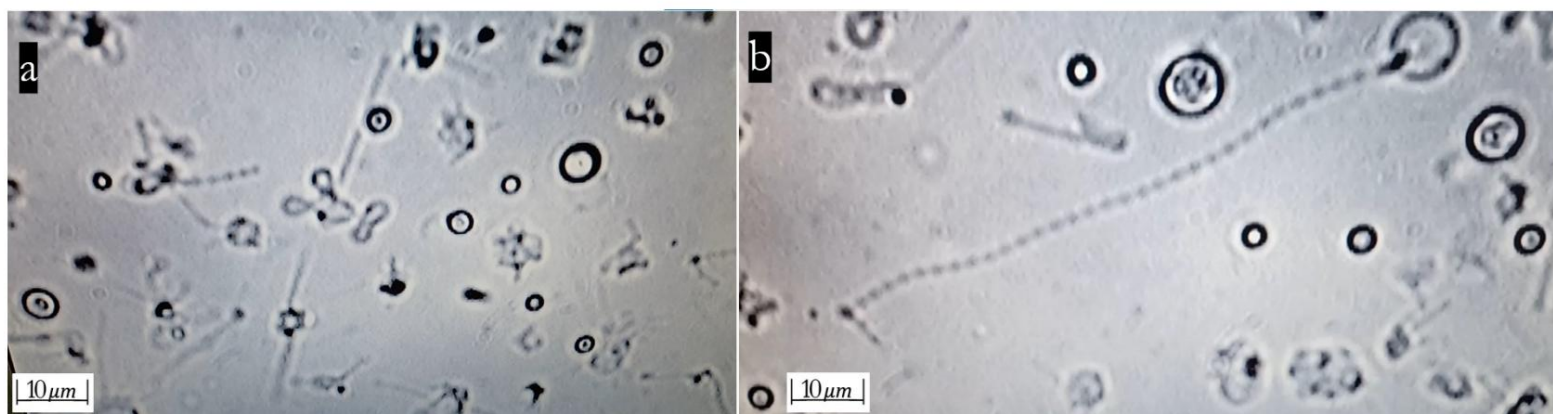


図13. ファイザー蒸留水中のビーズ鎖と様々な構造 (176日目、400倍) : (a)様々な人工衛星のような構造、(b)長いビーズ媒体の中央の表面に集まった鎖。

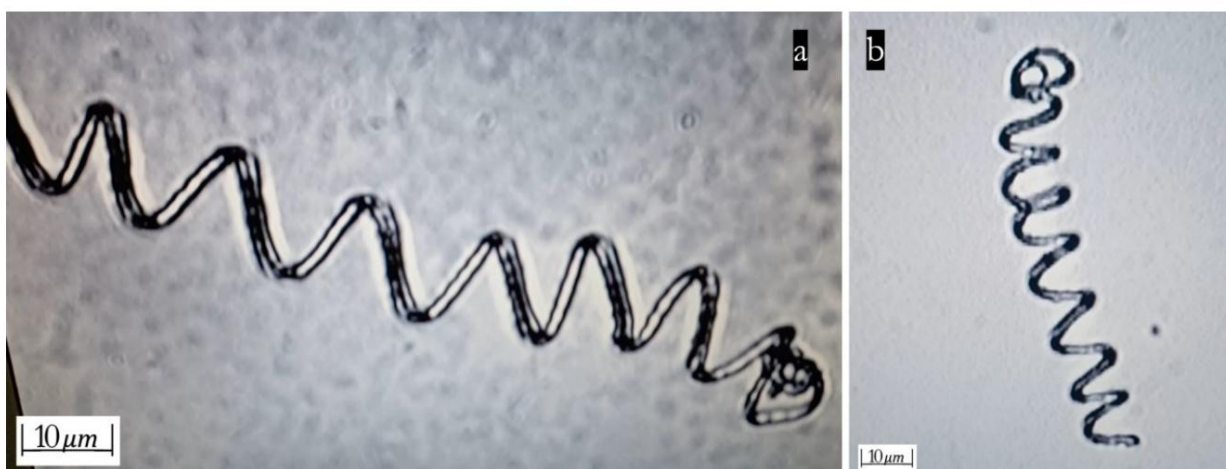


図 14. 蒸留水中のファイザーの典型的な藻類型磁性ナノボット様スパイラル: (a) 176 日目 (400 倍)、(b) 337 日目 (200 倍)。

開発活動のピーク段階と思われるこの段階では、注射可能なサンプルは藻類は、死滅しないようにより頻繁に水を補給する必要がありました。これは、上記の形成が最も活発に見られる夏季に特に当てはまりました。私たちがピーク活動段階と呼んでいる段階の後半、つまり約 150 ~ 180 日の培養後、特定の藻類タイプの磁性バイオナノロボットのようなコイル、暗い不規則な螺旋が培地の底近くに現れました (図 14)。

この期間の後、これらの構造は366日目頃までその形状を維持し続けた。ファイザー社の培養研究では、わずかに変性したフィラメントが芽生えていることが示されており (本稿執筆時点でも継続中)、これらのフィラメントの一部は、外側に枝分かれした中空のチューブの束のような外観を呈しています (図 15 および 16)。

浮遊するフィラメント、特に蒸留水中のファイザーのサンプルは、いくつかの枝分かれした図形に変形し、その後、被験者 E2 が皮膚抽出物から発達している画像のように、中空の透明な細長いリボンまたは細いチューブに再び変形しました。(モデルナのワクチン接種者の皮膚抽出物は、近日発表される論文で発表される予定です) 培養 337 日目に。

最終段階、およそ337日目に、蒸留水中のファイザーサンプルの中間層に、見慣れたフィラメントが現れました。材料に応じて、一部は培地の底近くに浮かび、その他は中央に浮かびました。皮膚抽出物2 (E2)が現れ、三脚のような先端の付いた透明なワイヤー状の中空チューブの束が培地の表面に浮かんで現れました。

フィラメント (ニューロンへの接続のためのアンカーのような形状)またはカールした縞模様のリボンが脱落するバブル。詳細については、図15、16、17、18を参照してください。

モデルナ社のサンプルの構造は、ファイザー社のサンプルの構造よりも急速に発達しているように見えました (おそらくモデルナ社のほうが粒子の濃度が高かったためでしょう)。同様に、モデルナ社の構造はより急速に消失しました。モデルナ社を含む生理食塩水では、自己組織化構造が下層に現れ、より人工的でチップのような形状がより迅速かつ大量に現れましたが、フィラメントとコイルはあまり発達していませんでした (図 19)。

3次元幾何学的成長のピーク段階 (2~6ヶ月)では、培養培地は、以前の観察と一致して、次第に濁り、エマルジョンのような外観。この状態に達した後、すべての培養皿の培地は浮遊する糸状構造物が存在するにもかかわらず、それらは元の透明な状態に戻る。明白なままでした。

モデルナの蒸留水中培養後期 (630日目)では、ナノ粒子が再び現れた。培養開始前の顕微鏡観察で以前に見られたのと同じように、再び浮遊している。この再出現は、図27の提案モデルで後ほど説明するリサイクルパターンを示唆している。モデルナは、独特の枝分かれした端を持つ糸状の構造と、ゆるく細い透明なナノワイヤの束をいくつか示しただけだったが、対照的にファイザーは、ナノ粒子をほとんど示さなかった。フィラメントやリボンのすぐ近くに浮かんでいますが、周囲のナノデブリはほとんどない背景にあります。

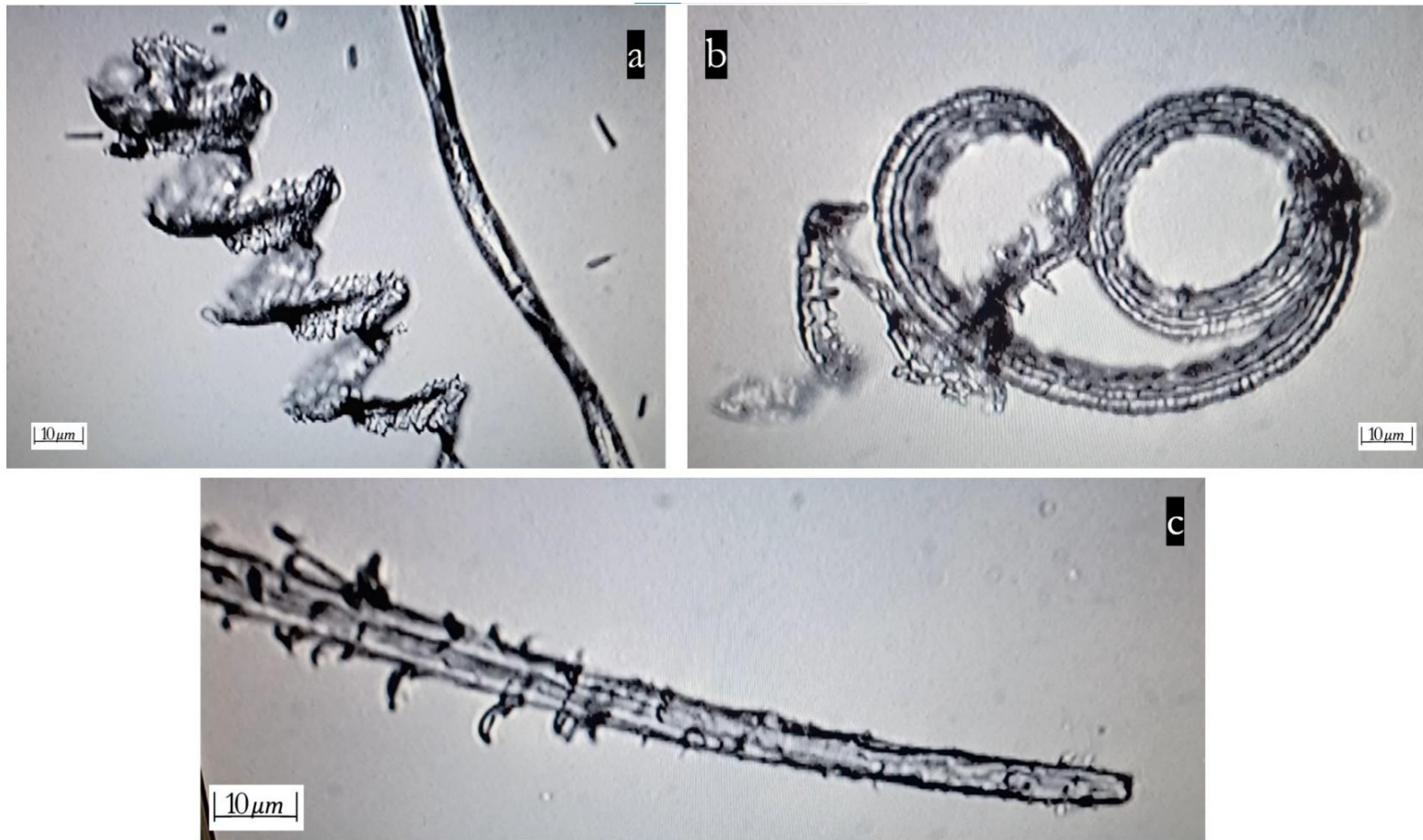


図15. ファイザーを蒸留水中で培養した後期（316日目）に発芽した、さまざまなフィラメント（縞模様のリボン）：(a)および (b)カールした縞模様のリボン（100倍）、(c) ファイザーの発芽フィラメント(200倍)。

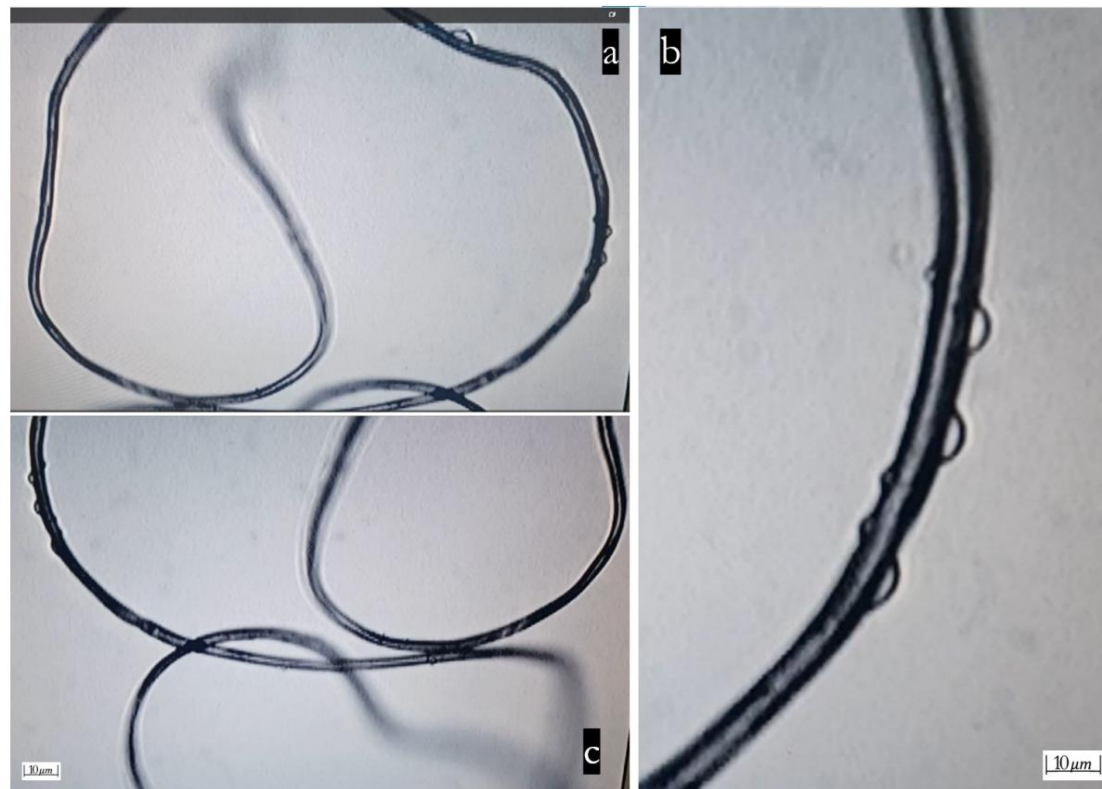


図16. ファイザー蒸留水中で培養した透明な細いワイヤー状のチューブの束 (331日目)最上層に浮遊する気泡。(a-40倍/b-100倍/c-40倍)。

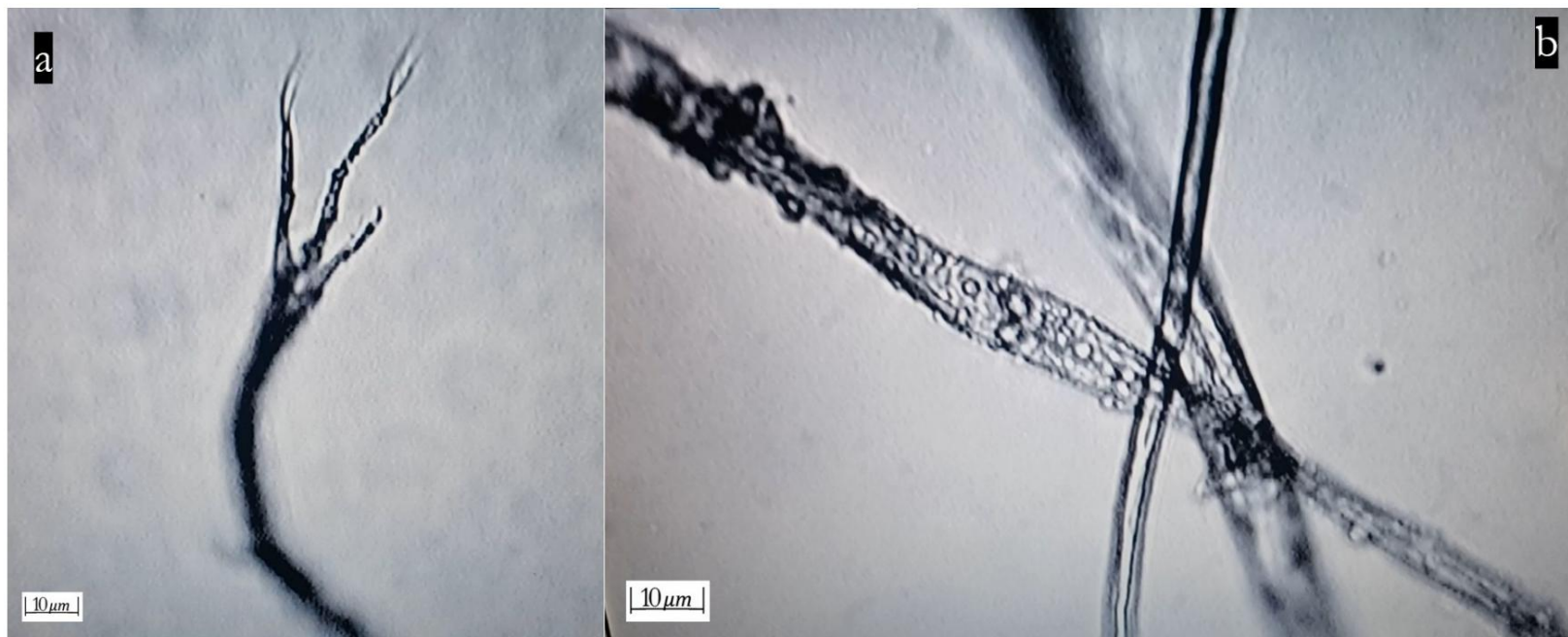


図17. 生理食塩水中のファイザー培養における三脚状の縞模様のフィラメント (346日目、200倍) : (a)より発達した三脚状の構造、または (b)縞模様のパターンフィラメントに。

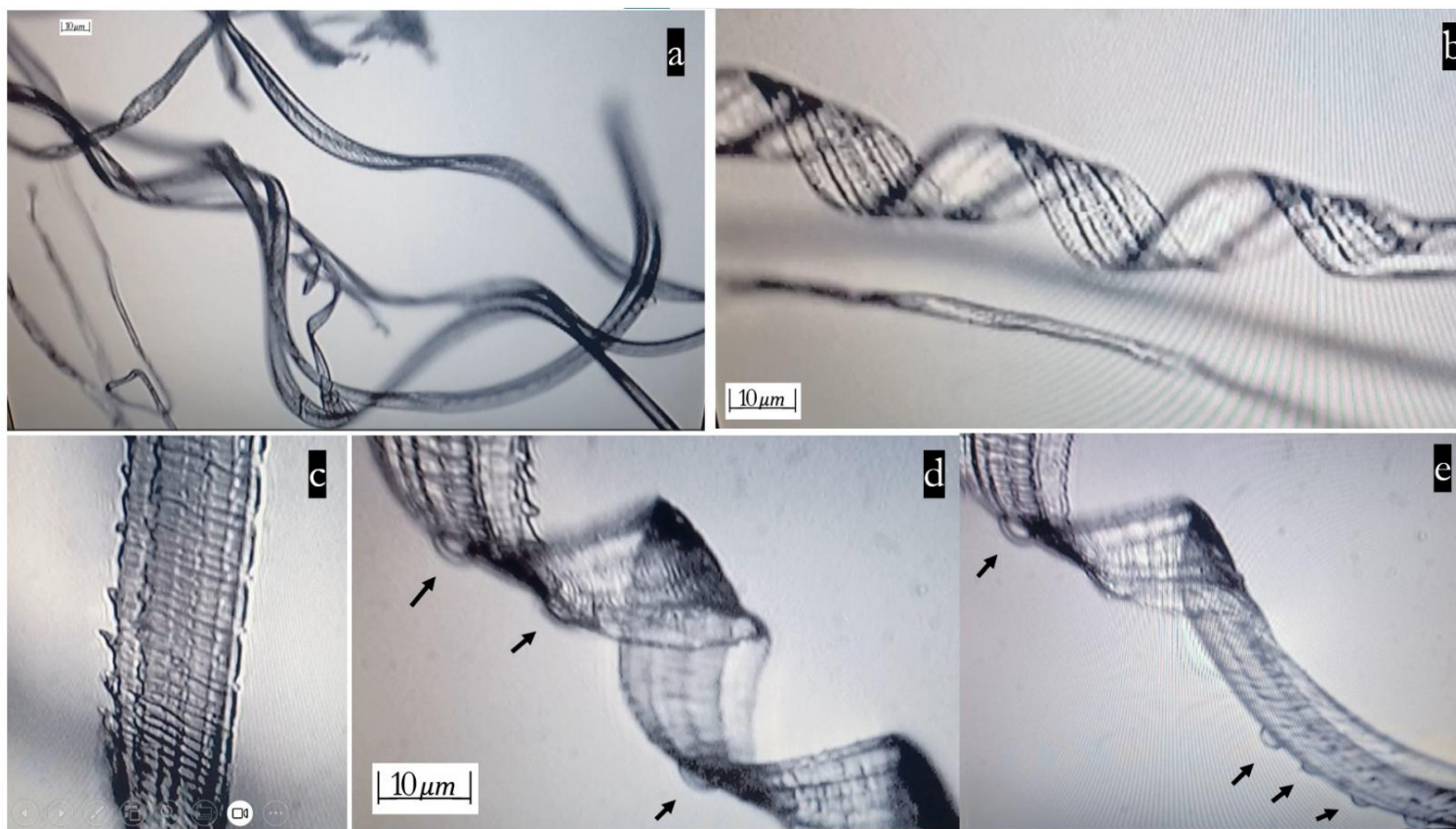


図18.ファイザー蒸留水中培養におけるカールした縞模様のリボンと気泡（406日目と499日目）。(a)、(b)、(c)は、蒸留水中のファイザーにおける、培養406日目のカールしたリボン（40X/100X/200X）。(d)、(e)は、培養499日目（200X）にカールしたリボンの表面に気泡（矢印）が現れた。

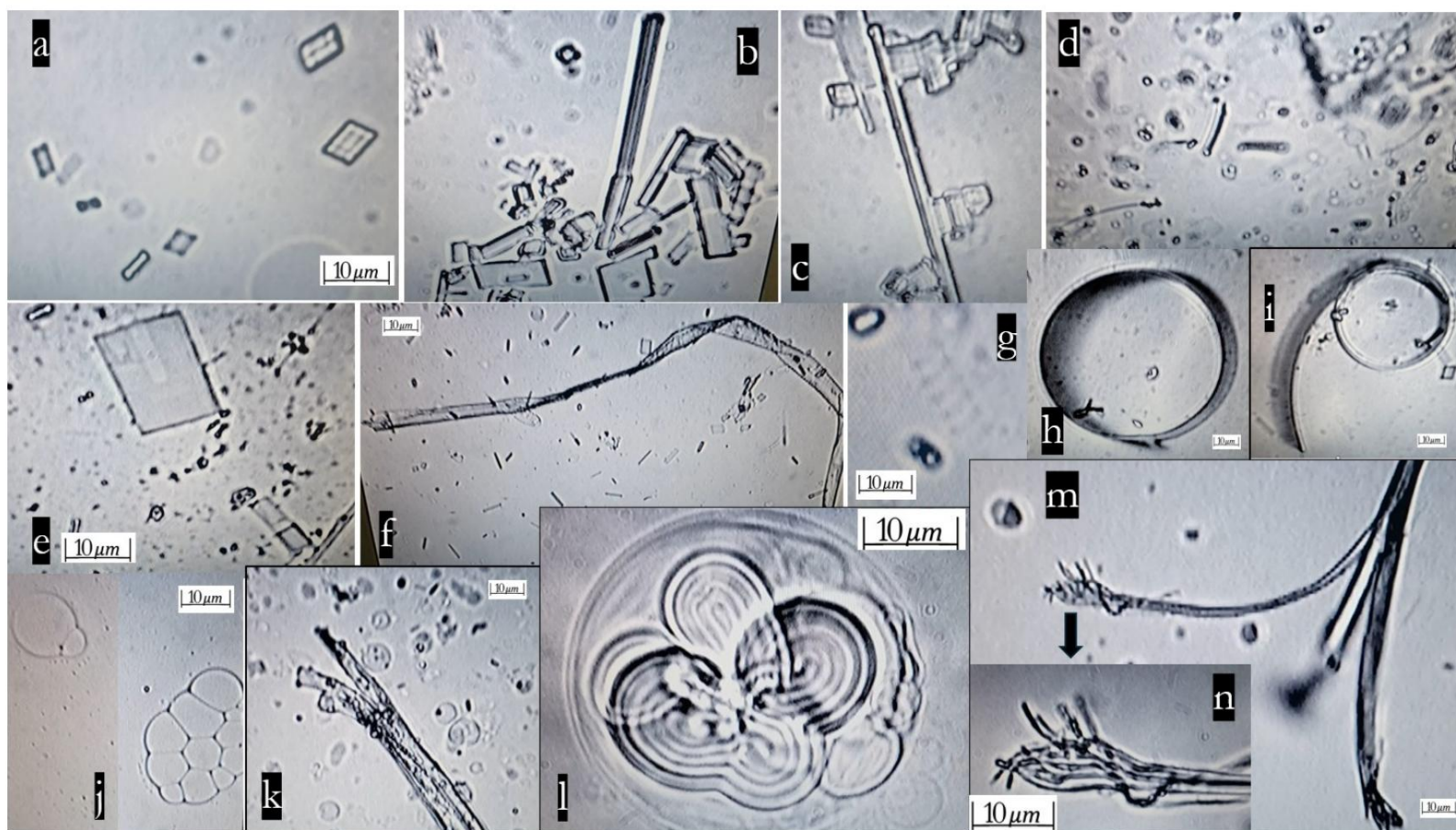


図19. モダナ社の培養研究630日目（100～400倍）における幾何学的チップ状アセンブリ、フィラメント、スパイラル、リボン、およびカプセル化されたワイヤ束：（a）16日目、（b）40日目、（c）42日目、（d）125日目、および（e）126日目（すべて400倍）生理食塩水中。（f）126日目、チップとフィラメント（100倍）生理食塩水中。（g）36日目、蒸留水中のめったに観察されない小さなバネ。（h）および（i）42日目、生理食塩水中の小さな円形リボン（400倍/200倍）。（j）295日目、蒸留水中の最上層に浮遊する小葉状の気泡（100倍）。（k）313日目、蒸留水中のスプリットエンドテープ（200倍）。（l）313日目、蒸留水中のカプセル化された、よく詰まったワイヤ束（400倍）。（m）630日目、生理食塩水中のスプリットエンドフィラメント（100倍）。（n）630日目、分裂端系の拡大図（400倍）。

ファイザー社の培養後期（630日目）では、培地の種類（生理食塩水または蒸留水）に関係なく、注射剤はモデルナ社よりも糸状構造の増殖が大きく、背景もより鮮明で、はっきりとカールしたリボンも見られました。

要約すると、培養研究は具体的な結果をもたらしました。培養の最初の2週間で、さまざまな幾何学的なチップのような構造が自己組織化し、より複雑な3次元構造が出現して培養皿の底のテンプレートから剥がれ、上層に移動しました。はっきりとした鋭角の幾何学的形状と曲線形状の明らかな兆候が見られました。約1か月後、浮遊構造が現れ、フィラメント、らせん、ビーズ状の鎖、衛星構造、リボンの形で発達し続けました。この研究は、注射剤に未申告の不自然な異物成分が存在することを確認するだけでなく、皿の底での自己組織化の出現とこれらの多様な浮遊構造の発達パターンに直接的な因果関係があるかどうかを確認できるかどうかを研究者がテストすることを促す可能性があります。私たちは、観察から、そのような関係は自明であると暫定的に考えています。

2) 発達の変化 で 各種メディア

基本的な培養培地として、生理食塩水（N/S）と蒸留水（D/W）が選択された。これら2つの培地は、顕微鏡で識別可能な異物構造の形成に理想的な条件を形成した。前述の「結果」セクションで説明したとおりです。

蒸留水中では、両方の注射剤とも数値と物質の最も大きな変動を示した。透明ならせん、リボン、らせん状のテープ、細長い泡状のフィラメントなど。

比較のために、他の特定の電解質溶液（すなわち、ハルトマン溶液、0.001%（1倍）次亜塩素酸カルシウム（ $\text{Ca}(\text{OCl}_2)$ ）、0.03%（1/100倍）過酸化水素（ H_2O_2 ）、および1ppm（1/100倍）二酸化塩素（ ClO_2 ））も、それらの解毒または悪化効果の可能性を調べるための培養媒体として使用されました。これらは、初期の培養段階では異物の自己組織化プロセスを誘発することが少なかったものの、これらの溶液は構造の発達を抑制するように作用した可能性があります。しかし、ファイザーとモデルナとの培養の中期段階（111日目）の0.001%（1倍）次亜塩素酸カルシウム（ $\text{Ca}(\text{OCl}_2)$ ）および1ppm（1/100倍）二酸化塩素（ ClO_2 ）では、チップのような自己組織化が他の基本的な培養媒体溶液と同様に進行し、最終的にチップが生成されました。少数の短いフィラメントもあります。

興味深いことに、ハルトマン溶液培地（医学的には血漿量保存剤として）の底部では、電解質を豊富に含む溶液で発達が促進されるという我々の予想とは対照的に、ファイザーとモデルナの両社は、鈍角で不規則な形状の自己組織化構造があまり発達していないことを示しました。残ったフィラメントの残骸を除いて、これらの不規則な構造は、徐々に分解する過程で最終的に消失しました。この研究を再現するには、前述のように、基本的な医療用輸液として生理食塩水や蒸留水ではなく、ハルトマン溶液を追加すると効果的です。結果の要約は表7に示されています。

（付録A参照）。

次亜塩素酸カルシウム（ $\text{Ca}(\text{OCl}_2)$ ）の用量依存研究では、飲料水の標準濃度（1X、0.001%）から始めて、より低い濃度で、より発達したフィラメントが現れました。観察の初期段階では、自己組織化構造が現れましたが、通常の生理食塩水よりも急速に徐々に崩壊しました。これはおそらく、電解質（皿環境内のEMFによって乱された）による乱れが原因です（付録Aの表8）。

興味深いことに、水酸化塩素 (ClO₂)の用量依存研究の初期培養段階では、医療器具の消毒に使用される毒性濃縮物 100ppm (1X) から始めて、類似しているがあまり集合していない構造が形成され、他の電解質媒体で典型的に見られるように底に固まるのではなく、浮いているように見えました。この違いは、構造の自己集合のプロセスを妨げる可能性のある ClO₂ の結晶成分によって説明できるかもしれません。

一般的に、低濃度 (1/16~1/32倍未満)では、自己組織化構造が徐々に発達しましたが、高濃度 (1/16~1/32倍以上)では、より多くの浮遊フィラメントが発生しました。最終的に、より強力で毒性の高い1~1/2倍の濃度では、自己組織化は観察されず、初期段階では浮遊構造も存在しませんでした。

しかし、低濃度 (1/400~1/200倍)での培養後期には、230日目でも底にチップはほとんど見られませんでした。高濃度では、ClO₂特有の結晶を除いて、非自己組織化構造が底に見られました。低濃度 (1/200倍未満)では、モデルナのサンプルの方がファイザーのサンプルよりも多くのチップが見られました。低濃度では培養後期にフィラメントが見られましたが、高濃度 (1/16倍以上)では構造は見られませんでした。低濃度 (1/16倍未満)では、ファイザーはモデルナよりも多くのフィラメントを示しました (付録Aの表9)。

3% 過酸化水素 (H₂O₂)溶液では、その内容物に含まれるペルオキシダーゼを介して注射剤に何らかの重要な影響が及ぶことが予想されました。しかし、結果は期待に応えませんでした。培養の初期段階では、チップがよく発達しているように見えたが、通常の生理食塩水よりも発達が少なかったため、用量依存的な違いは観察されませんでした。Moderna サンプルは、さまざまな濃度のH₂O₂溶液で、ファイザーのものよりも識別可能な特徴を持つ構造をより多く発達させました。Moderna で培養 203 日目にも、1/200 倍の濃度ではチップなどの 3 次元構造が底部にほとんど見られませんでした。1/200 倍の濃度では 1 ~ 2 次元構造が見られました。

フィラメントは見つかったが、ファイザーの1/500倍のH₂O₂のサンプルでは稀で比較的短かった。溶液で 203 日間培養しました。底部にはまだチップのような構造の 1 ~ 2 次元の痕跡がありましたが、1/200 倍では何も見られず、Moderna のものとは対照的に 1 次元構造の弱い残骸のみが見られました (付録 A の表 10)。

上で報告したように、それぞれの用量依存的研究を通じて、これら 3 つの溶液は、低濃度で使用した場合、高濃度では有毒であるため、ナノ汚染から静止状態への回復の明確な可能性は示されませんでした。

3) 各種ミネラルソリューション:

ファイザーとモデルナの注射剤は、Si水、3種類のコロイド金 (GNP2は不明、GNP3は5nmで10ppm、GNP4は5nmで240ppm)、1種類のコロイド銀 (SNP、サイズと濃度は不明)、EDTA (キレート剤)、マイカ (韓国の伝統的なミネラル複合体)、およびミルラとともに約300日間培養されました。結果は表11 (付録A)にまとめられています。

注目すべきことに、シリカ溶液中のファイザーは、他の溶液よりも自己組織化チップの発達が少ないことが示された。モデルナもシリカ溶液中のチップの発達が徐々に減少した。フィラメントの発達に関しては、どちらのサンプルも顕著な変化は見られなかった。

Si 溶液に対する反応の違い。したがって、シリカ水の投与は、ある程度、ナノ材料の初期の自己組織化プロセスを妨害する可能性があるようです。

興味深いことに、培養後期の 258 日目でも、特にコロイド金 2 (GNP2) を添加したファイザーとモデルナ、およびシリカ水で培養したファイザーでは、一部の培養皿の底に自己組織化された 2 次元構造が維持されていました。

コロイド銀と雲母では、細菌や真菌による汚染が徐々に進行した。この進行は、意図された工学的効果（人工的な抗真菌抗菌効果）が、経口経路のみの無菌ミネラルではなく、これらの種類のミネラルによって徐々に減少したことを示唆している。EDTA 溶液では、下層の自己組織化プロセスは、

フィラメントは、253年の間にモデルナのサンプルに顕著かつ大量に現れ始めた。培養期間は 1 日です。EDTA が *in vitro* で注射誘発性人工ポリマーに直接解毒効果を与えるかどうかは不明ですが、EDTA が *in vivo* で間接的に及ぼす効果はキレート効果によって実現される可能性があります。

ミルラの解毒能力に関しては、その濁度と急速な凝固のため、観察研究の媒体としては不適切であることが判明しました。培養の初期段階で観察された唯一の作用は、乾燥の過程での泡の形成でした。

ミルラに潜在的な解毒効果があるかどうかは不明です。

重曹の高アルカリ溶液 (pH 9) では、ファイザーは 5 か月間培養するまでいかなる種類のアセンブリやフィラメントも生成できませんでした (上の表には示されていません)。

4) プラズマ反応:

この研究では、ワクチン未接種者から採取した2種類の血漿を、全血の上清から自然沈降法（容器内で約3時間放置するプロセス）で採取し、少量のファイザー社製およびモデルナ社製の注射剤とともに培養し、その反応を観察しました。

早い段階で、注射剤は最初の 7 日間で血の底にある大量の血球の間で自己組織化構造 (1 ~ 2 次元) を形成し始めましたが、27 日間培養するまで自己組織化の痕跡のみが残りました。培養物の底にすでに存在する大量の血球 (赤血球 (RBC)、白血球 (WBC)、血小板) が注射剤の組み立てプロセスを妨げ、最終的にそれらの構築を無効にして材料が消失した可能性があります。ただし、非常に重要なことに、観察研究の後期段階である 131 ~ 146 日の培養中に、浮遊するフィラメントまたはホースまたはパイプのような構造が徐々に出現し始めました。特に顕著だったのは、血漿サンプル 1 および 2 で培養された Moderna サンプルの暗いパイプのような構造と投げ縄のような構造です。これらの構造は通常のフィラメントと一緒に現れましたが、Pfizer の培養皿では現れませんでした。底層でも上層でも

ファイザーのサンプルを血漿 1 で 131 日間培養したところ、血球の残骸を除いて構造物が現れました。血漿 1 サンプルでは構造物が形成されなかったため、暫定的な説明としては、ある種の血漿が自己組織化プロセスに対する自然な免疫防御を開始する上で好ましい特性を備えている可能性があると考えられます。さらにテストを行うと、より明確な結論が導き出される可能性があります。詳細は図 20 および 21 を参照してください。

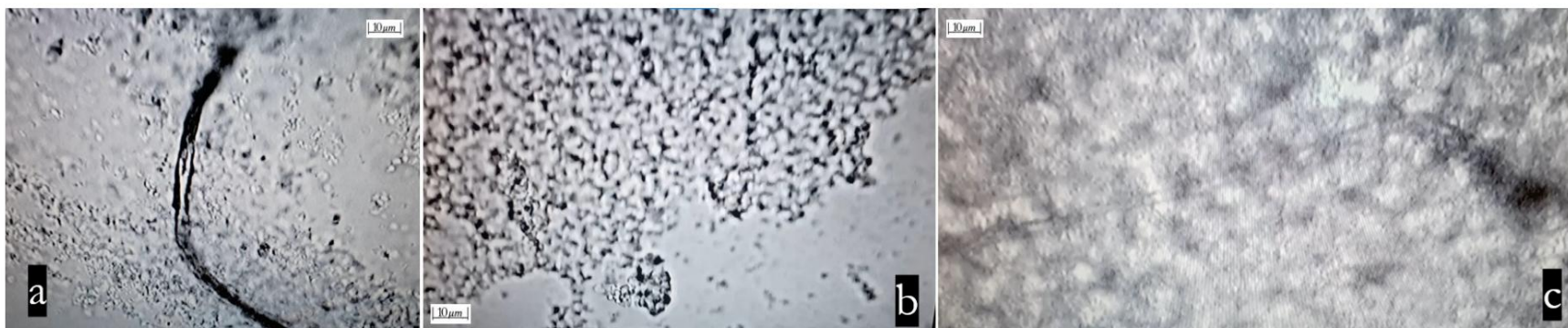


図20. 血漿1と2におけるファイザーとモデルナの培養研究（100倍）：(a)血漿2中のファイザー、133日間（100倍） - より短いフィラメントが形成；(b)血漿1中のファイザー 146日間（100倍） - 血球以外は何も検出されなかった。(c)146日間の血漿中のモデルナ（100倍） - フィラメントのより短い細い痕跡のみ。

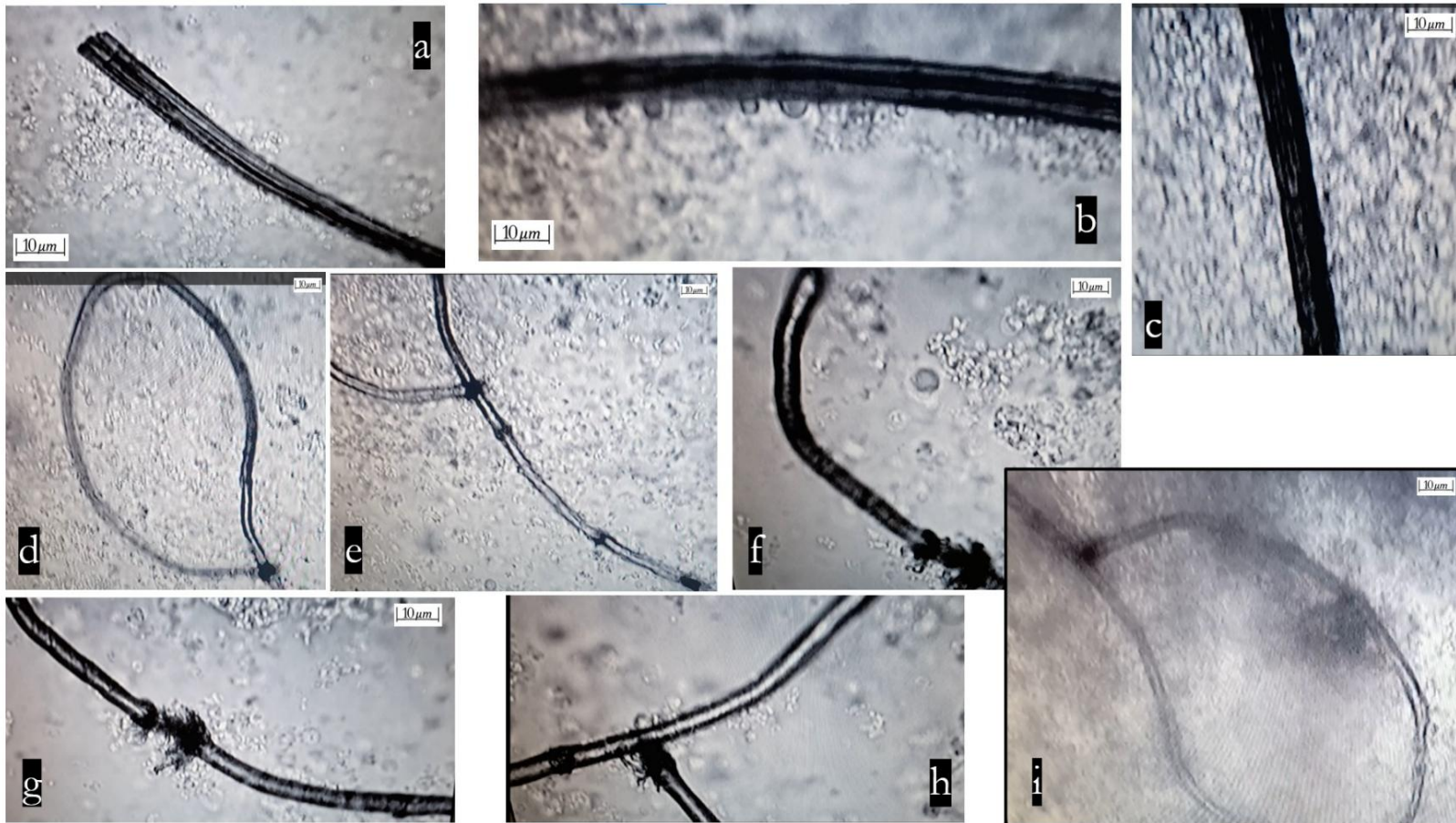


図 21. 血漿 2 における Moderna 社のインキュベーション研究の結果: (a) 133 日目 - 暗いパイプのような構造が形成 (100 倍)、(b) 気泡が放出される (200 倍)。(c) 282日目に消えた泡(100倍)。(d)と(e) 133日目、震のような投げ縄チューブ(100倍)。(f)、(g)、(h) 133日目、投げ縄のようなチューブ内の壊れて切断された点(200倍)。(i.) 282日目、依然として同じ形状が維持されている(100倍)。

4. 熱、電磁波、紫外線曝露に関する研究

1) 熱

培養皿を 36.5 °C に設定した熱プレートに直接置き、一晩放置しました。翌朝、組み立てられたナノ構造が培地の表面を浮遊し、熱 (加温) 曝露前よりも形状がはっきりと発達しているのが観察されました。室温 (15~20 °C) で構造の成長には 2 ~ 3 週間かかりましたが、体温で同じ成長をさせるには 1 晩で済みました (図 22)。



図22. ファイザーの熱 (加温)研究 - 生理食塩水中でBTで48時間加温後：(a)、(b)、(c)、(d)、(e) :熱プレート上で48時間加温 (36.5°C)した後、培地表面によく組み立てられた3次元幾何学構造が浮かんでいる。加速発達は、第2~3回試験の所見と同様に一致した。
非曝露インキュベーション試験の週 (400倍)。

生体内でのナノ構造の急速な発達は、COVID-19注射剤が生きた人間に与える影響におそらく重要な意味を持つ。こうした組み立てられた構造が皿の底から発せられる直接的な熱に反応し、その場所から外れて培地の上層に移動したと考えられる。新たに解凍された残留バイアルを熱プレート上の生理食塩水中で48時間培養したところ、より詳細で発達した3-

底部に物質が残らずにメディア表面に浮かぶ次元構造 —

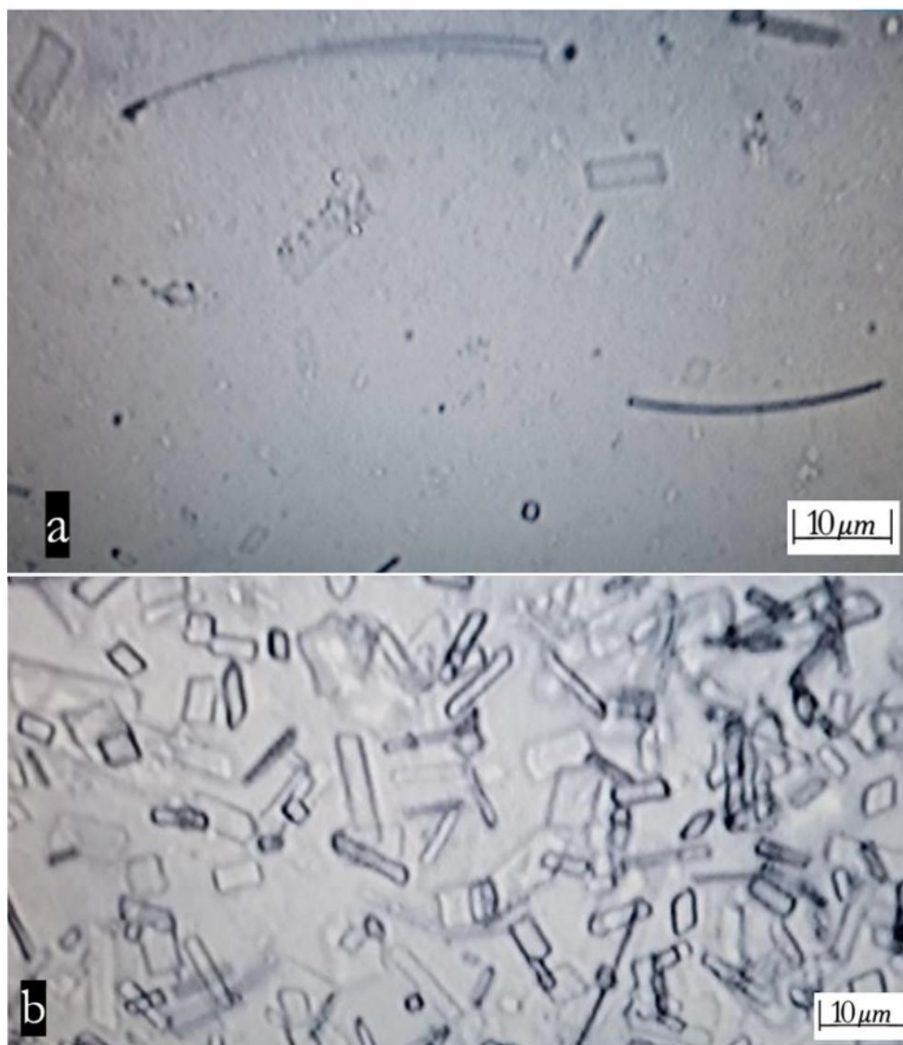
(発育速度の加速)通常の培養標本と同様に2~3週間のアップグレードを経ました。

2) 電磁場

ワイヤレス充電器付き。

携帯電話

培養皿を携帯電話の上に置き、5Gストリーミングモードに設定し、ワイヤレス充電器の上に約1~2時間置きました。電気と磁気の測定はTriphaseで行いました（図3cを参照）。ワイヤレス充電器のHフィールドでは、フィールドは300v / m、0と測定されました。温度は約15~20°Cでした。反応は、通常の生理食塩水と蒸留水中で同じであるように見えました。携帯電話を動作モードにした状態でワイヤレス充電器に1時間さらした後も、Modernaはすぐに顕著な変化を示しました。浮遊物は突然大きくなり、数が増え、エッジはより鋭く、より長方形になりました（図23）。



対照的に、ファイザーは即時の反応を示さなかったが、代わりに1か月の曝露後に遅延効果、つまり図24に見られるように浮遊フィラメントの中程度の増殖を示した。

図 23. 蒸留水中のモダナ用ワイヤレス充電器の研究 (36 日目、200X): モダナは、ワイヤレス充電器に 1 時間さらされた直後に、即座に増殖および拡張反応を示しました。(a) さらされる前、(b) 1 時間さらされた後。

ファイザー (101日目)とモデルナ (36日目)の培養皿の両方で、ワイヤレス充電器にさらした後、おそらく微小物質である識別不能な破片が消え、代わりにきれいな背景が残ったように見えました。

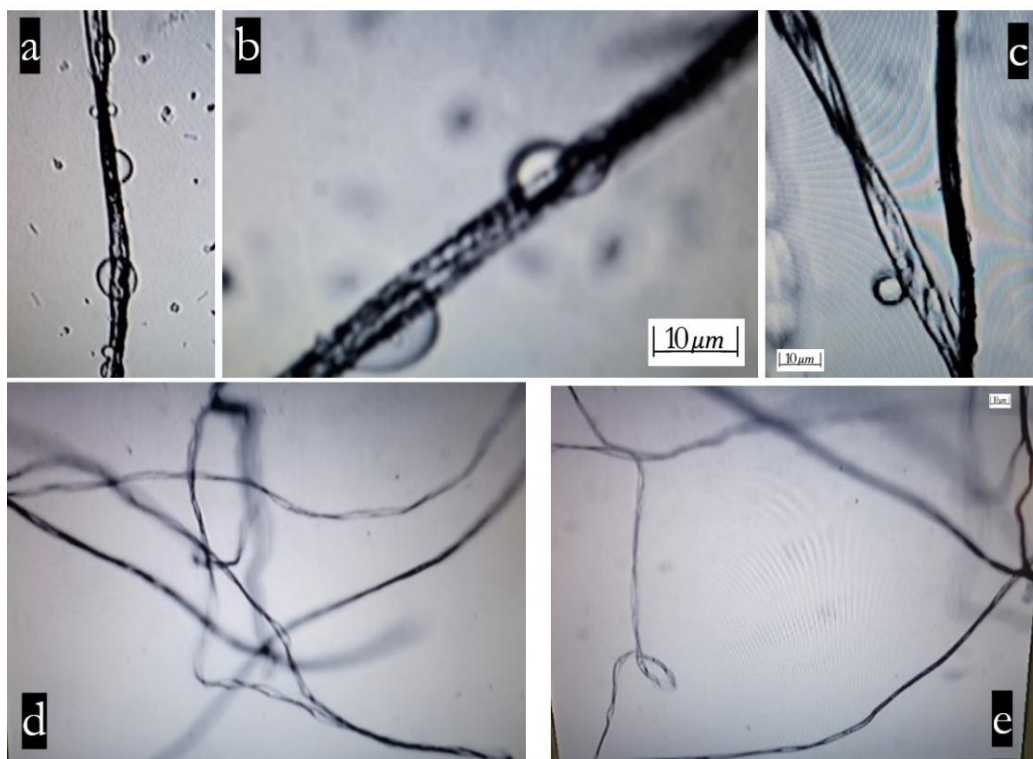


図 24. ファイザーのワイヤレス充電器研究: (a)、(b)、(c) 暴露前の泡立ったフィラメント、蒸留水中のファイザー、95 日目 (100 倍)。(d) および (e) 暴露から 1 か月後、蒸留水中のファイザー、126 日目 (40 倍) - 泡が消え、増殖が増加。

B. 外付けハードドライブの露出

外付けハードドライブの表面の EMF 放射は、H フィールドで約 30v/m、4μT と測定されました。温度は約 23 ~ 25°C でした。

動作モードの PC に接続された外付けハードドライブに 2 時間さらした後、Moderna では目立った影響は見られませんでした。Pfizer では、培養皿の底に柔らかい縁があり、構造全体の境界線がわずかにぼやけるなど、中程度の破壊的な変化が見られました。

基本的に、以前の予備培養研究を通じて、約 101 日間の培養で、蒸留水中のファイザーの組み立てられた構造は、次第に混乱した図形の曇ったもやに変わり、最終的に消え、さまざまな気泡に付着した浮遊するフィラメントとリボンだけが残りました。ただし、2 時間の曝露後、ほとんどの気泡が消えたため、劣化は次第に顕著になりました。

注目すべきことに、同じファイザー培養皿 (101 日目) をワイヤレス充電器の上に置き、わずか 2 時間放置したところ、構造は部分的に元のより鋭いエッジとより鮮明な状態に戻った。形態 (101 日目の培養物で表示)。言い換えれば、多様な構造が、外付けハードドライブにさらされる前と似た形で再び組み立てられたということです。詳細については、図 25 を参照してください。

この予備研究の結果から、何らかの条件付けが電流はナノ構造の活動を刺激することができるが、条件付けされた磁気電流はそれらの活動を妨げる可能性があります。私たちの仮説によれば、いくつかの解毒法は、これらの複雑な形態の EMF 曝露によって損傷した臓器の治療に効果的である可能性があります。

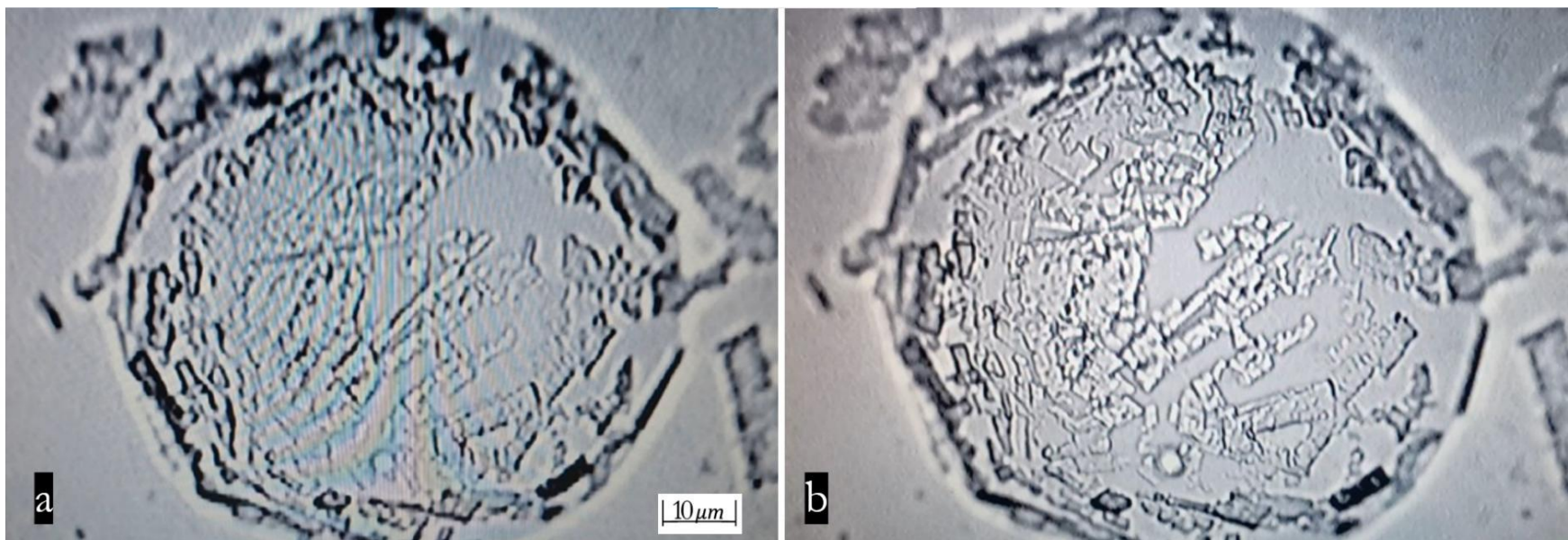


図 25. ファイバーの蒸留水 (200X) での EMF (外付けハードドライブ/ワイヤレス充電器) 研究、101 日間の培養: 蒸留水での培養 101 日目に外付けハードドライブに 2 時間さらし、その後ワイヤレス充電器に 2 時間さらしたファイバーの研究。(a) 外付けハードドライブに 2 時間さらした後 - より鈍いエッジとぼやけた配置、自然な変性変化よりも劣化が激しい。(b) ワイヤレス充電器に 2 時間さらした後、すぐに外付けハードドライブへの曝露後、軽度の回復 (救済効果) が現れました。

3) UV研究

短期的には、曝露前後のモデルナ社とファイザー社の特性に即時の違いは見られませんでした。しかし、長期培養により、両サンプルとも、紫外線曝露のない他の培地で観察される通常の発達パターンではなく、より持続的な自己組織化構造を示しました。これは、進行中の観察研究で6か月から9か月かけてピーク段階で観察された自己組織化とは対照的です。

5. 生化学分析 さまざまな「ワクチン」培養培地

長期培養中の化学成分の変化を評価するため、さまざまな注射用培養培地について、Uスティック (Abbot, UroCor4、U040H012A 0) によるグルコース、タンパク質、pH、潜血の生化学分析のスクリーニングテストを実施しました。培養培地に浸したUスティックは、表12および13 (付録A) にまとめられているように比色変化を示しました。さらに興味深いのは、培養培地の外観における肉眼で観察可能な変化です。観察期間全体を通じて、ほとんどの半透明の培養培地は透明から濁ったように見え、これは150日目までに最も顕著になりました。この変化は、培養後期 (250日目) に元の半透明の状態に戻りました。

生理食塩水 (NS) を本研究の対照として使用し、グルコース、タンパク質、pH 6.0 で予想されたすべての陰性反応を示しました。初日、蒸留水で希釈したファイザー (P1、P2、P4) とモデルナのほとんどの培地は、グルコースで陽性だが弱い値、タンパク質で陰性、pH 6.0、潜血で陽性だが弱い値を示しました。ファイザーのブースター (P4) は、潜血で2つの陽性を示しました。これは、過酸化物の相互作用による偽陽性である可能性があります。注目すべきことに、研究したすべての検体の培養1日目に、重要な結果がタンパク質で陰性でした。ほとんどの培養培地は酸性状態 (pH 6) を維持しましたが、蒸留水中のファイザーの初期培養段階 (23日目) を除き、グルコースは弱い陽性値を示しました。もちろん、FDAは「COVID-19注射剤」、特にファイザー社とモデルナ社の注射剤にはシロ糖が含まれていると報告していたので、グルコースは検出可能だったはずだ。

さらに、FDAの説明によると、タンパク質は存在しないはずですが、詳細は、次のページの図28および29に示されています。Moderna培地では培養期間全体を通じてタンパク質は検出されませんが、Pfizer培地では存在しており、これはFDAの説明とは明らかに矛盾しています。これには、初期段階 (23日目) の2つの陽性 (100 mg/dl) の読み取り値が含まれますが、79日目に蒸留水で300 mg/dlを培養すると次第に強くなり、培養後期段階 (288日目) までに最終的に陰性になりました。タンパク質の出現は、培養培地の異なる形態によって決まるようです。生理食塩水では、培養後期段階 (266日目) に微量 (10 mg/dl) が検出されましたが、同じ培養期間中に蒸留水では検出されませんでした。

一部の培地では潜血陽性反応 (10~50 RBC/ μ l) が見られましたが、次亜塩素酸塩またはペルオキシダーゼへの曝露の可能性があったため、この反応は偽陽性と解釈される可能性があります。ただし、重曹では、底部に自己組織化の兆候は見られず、重曹の結晶によってかき乱された可能性があります。1か月培養した後でも浮遊物は見られず、pHは9でした。これはpHの違いによる影響ではなく、重曹への曝露により培養液の底部に結晶が形成され、それがかき乱されたためと考えられます。

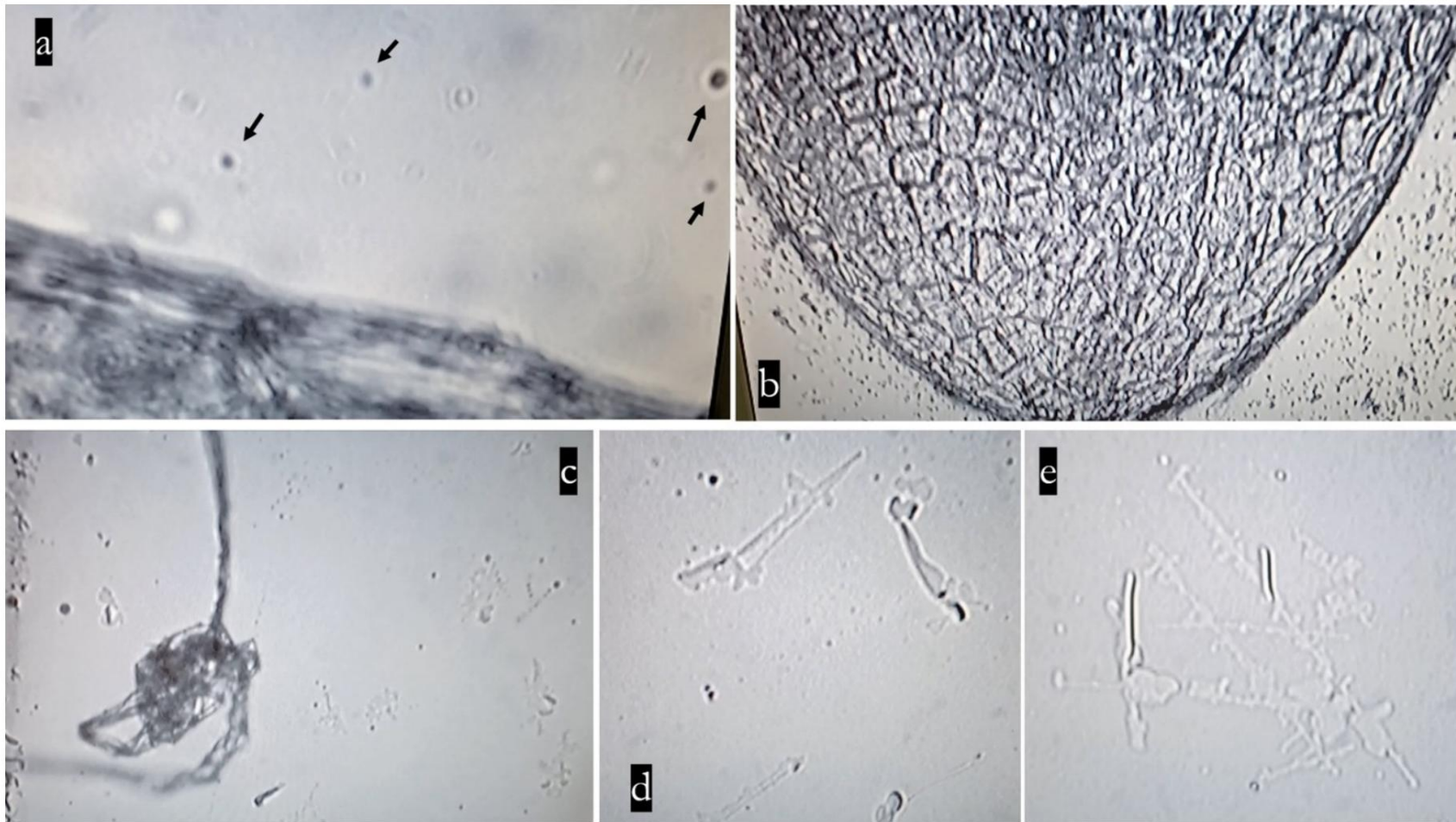


図 26.リサイクル パターン研究 — 生理食塩水中の Moderna ワクチン接種者の皮膚抽出物 (E1) からの推定リサイクル パターン: (a) 生理食塩水培地中の皮膚抽出物 1 (E1) の周囲を浮遊する種子のような小さな黒い粒子 (矢印) (400 倍)。 (b) ワクチン接種者の皮膚抽出物の周囲に散在する小さな粒子、黒い大きな物質 - ワニ皮のような構造 (100 倍)。 (c) 生理食塩水中の E1 種子培養 - 366 日目の培養後、底部の自己組織化の痕跡と浮遊するフィラメント (100 倍)。 (d) および (e) 366 日目の培養での自己組織化幾何学構造の痕跡 (400 倍)。

6. リサイクルパターン

皮膚抽出物 (E1)の本体の周囲に浮遊する黒い種子のような粒子を採取し、生理食塩水で培養したところ (前ページの図26を参照)、366日後に、元のmRNA培養研究で得られた結果と同様に、幾何学的な自己組織化構造の残骸または痕跡とフィラメントのいくつかの断片が見られました。

注射剤の培養研究と、受容者の異常な皮膚抽出物からの種子のような物質の形成の間に、リサイクルパターンが現れました。

観察された構造の長期的挙動を考慮して、事前にプログラムされたナノ粒子自体に存在すると思われるリサイクルパターンを示唆する次のモデルを提示します。パターンは、自己組織化の活動が休止している間隔期間と一致しているように見えます。適切な周囲条件と内部条件が満たされると、これらの条件によって材料が活性化され、図 27 に示すようにナノ回路/構造が再構成されると想定されます。

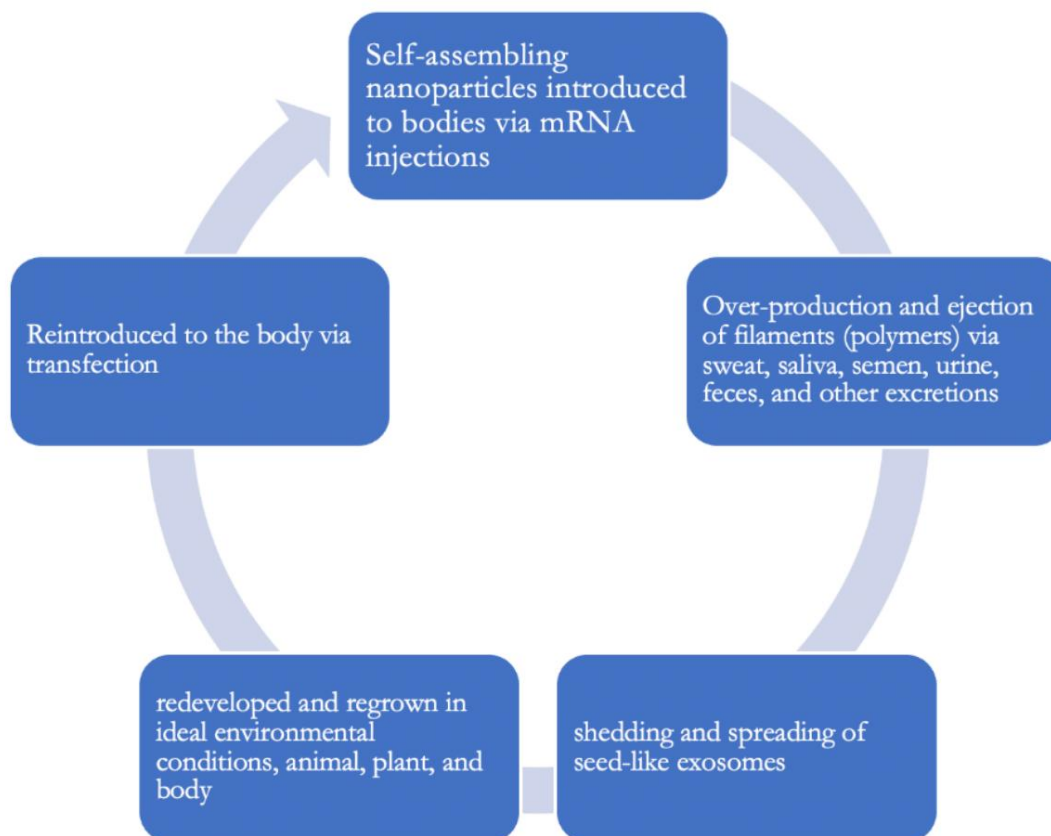


図27. 提案されたリサイクルパターンモデル。

議論

2020年3月11日にWHOが世界的パンデミックを宣言して以来、パンデミックの医療的治療を装った政府資金による市民権と人権の侵害が、実際には、世界中の国々で、有害で、さらには致命的な弾圧につながっています。科学的な探求には、開かれた対話、批判的思考、真実の主張の厳格な検証が前提となるため、他の多くの研究者と同様に、私たちは、世界的な医療緊急事態に対処するためのプログラムは、示唆されていたよりもはるかに複雑であると疑っていました。したがって、この研究のもう一つの動機は、WHO 宣言の包括的な見解を開発することでした。この宣言は、「保健」当局への世界的な完全な遵守を容赦なく求めるきっかけとなりました。

私たちが行う多くの試みと同様に、さまざまな生命、理解、目的が出現するには、一定の妊娠、孵化、または育成期間が必要です。この記事の目的は、顕微鏡で見える不可解な現象を説明し、孵化研究からCOVID-19のストーリーをより深く理解することです。まず、ファイザーとモデルナが販売している注射用mRNA製品に、

図28と29に報告されている成分。このジャーナルで、Segalla (2023a、2023b、2023c)は図28と29に示されている成分の多くは、極めて有毒であることが示されています。

要約すると、これらの製品には、サンティアゴとオラー (2023)が議論した白血球を誘発する害を引き起こすと疑われるmRNA誘導スパイクタンパク質の改変コードが含まれています。その他 (例えば、Mead et al., 2024a, 2024b、2024c)、キャリアとしての脂質ナノ粒子 (その害についてはセガラの文献を参照)、免疫刺激のための脂質ナノ粒子自体を含むさまざまなアジュバント、および内蔵バッフル

N1-からなる

スパイクコーディングのウラシルの代わりにメチルシュドウリジンを使用することで、

人体内での mRNA の分解を遅らせます。さらに、アストラゼネカとヤンセンは、アデノウイルスに封入されたスパイクタンパク質でコード化された DNA がこれらの製剤に含まれていると報告しています。対照的に、ノババックスは組み換えスパイクタンパク質ベースの注射剤であることが知られています。

バイオエンジニアリングされたスパイクタンパク質は、合成脂質ナノ粒子上に収集され、組み立てられる。

直径約 50 ナノメートルで、それぞれ最大 14 個のスパイクタンパク質が存在します。



図 28. ファイザーの成分。

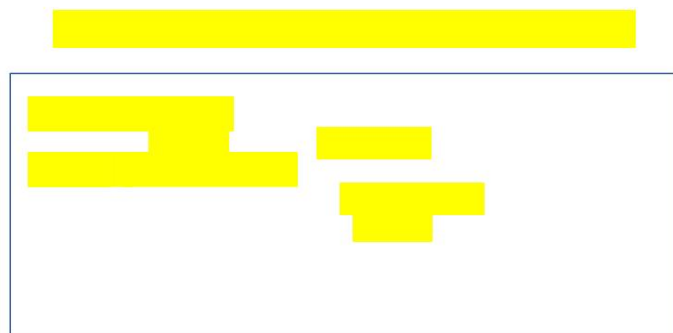


図 29. Moderna の成分。

前述の4種類のCOVID-19注射剤に対する全血、血漿、精子の反応を調べたところ、ノババックスが最も急速な細胞毒性効果を示した。しかし、ファイザーとモデルナは mRNA産物は、生きた血液細胞や精子細胞に対して、より進行性の傷害性、そして最終的には致命的な影響を示した。さらに、それらは前例のない自己組織化幾何学的チップのような構造をもたらした。構造、リボン、糸状構造、および構造内のカプセル化された構造。

図28と29で発表されている成分や構成要素は、実際に政府支援を受けて大量に販売されている製品に含まれていると推測されますが、より詳細な調査と私たち自身の実験研究により、標準的な顕微鏡検査では見えない、発表されていないナノマテリアルも存在するはずであることが示されています。また、成分の概要を説明した報告書が公開レビューのために提供されているにもかかわらず、いくつかの追加研究では、これらの高分子に豊富に含まれるリンと窒素が存在しないことから、通常のDNAやRNAの存在は否定されています (Hagimă, 2023a)。

ゲノミクスの専門家は最近、がんを促進するSV40遺伝子がCOVID-19ファイザーとモデルナの注射剤に存在することを発見した (村上, 2023年; マッカーナン他, 2023年)。がんとの関連は十分に確立されている (シャー, 2006年)。仮説どおり、スパイクタンパク質が注入されたプログラムされたmRNAによって生成された場合、その結果、血管を含む複数の臓器にさまざまな毒性効果が引き起こされ、最終的には内皮炎症、免疫刷り込み、サイトカインストームなど、複数の臓器不全を引き起こす可能性がある (ブレイロック, 2021年, 2022a年, 2022b)。注射の内容物は、細胞内のミトコンドリアと p53 遺伝子を損傷し、損傷した DNA を修復する身体的能力を妨害し、免疫システムの枯渇を誘発し、頻繁な遺伝子変異や癌、さまざまな自己免疫疾患、生殖障害を引き起こす可能性があります (Alavi & Kheradvar, 2012年; Xie et al., 2021; Idrees & Kumar, 2021年; クラッセン, 2021年; セネフラ, 2022年; Gat et al., 2022; ミードラ, 2024a, 2024b, 2024c)。

注射用培養培地の生化学分析を通じて、最も重要な発見はタンパク質の存在でした。培地がアルカリ性であったり、クロルヘキシジン (0.25%) が含まれていたりすると、培地は偽陽性を示す可能性があります。しかし、ほとんどの培養培地は培養期間全体を通じて酸性に保たれていたため、クロルヘキシジンが実験に持ち込まれる可能性はありませんでした。私たちの研究で確認されたようにクロルヘキシジンへの曝露がなかったとしたら、タンパク質はどのようにしてどこから発生したのでしょうか？

最初の培養期間中、タンパク質の存在は検出されませんでした。細菌汚染がなければ、タンパク質は蒸留水または生理食塩水培地で注射剤自体によってのみ生成されます。Endo (2021) による無細胞タンパク質合成によると、の

私たちの研究で観察された泡は、自己合成されたタンパク質の結果である可能性があり、毒性がある可能性があります。最も興味深かったのは、最初は検出されなかったが、その後検出可能になり (23日目~82日目)、最終的に再び検出できなくなったタンパク質合成の進行である。私たちは、(a)自己組織化ナノ構造の発達パターン (発達のピーク段階、2~6か月)、(b)ハイドロゲルの挙動 (最初は2~3週間透明で、その後150日目までゲル状のエマルジョンになり、最終的に透明な粘稠度に戻る)、(c)ある程度のタンパク質生成の間に、当初は偶然の関係であるように見えたものを発見した。これら3つの明らかな動的関係すべてに関する中心的な問題を明らかにするには、さらなる研究が必要である。Burkhardtの分析 (2022)に目を向けると、血栓中に発見されたスパイクタンパク質と多くの種類のタンパク質性物質 (約323種類のタンパク質)の合成の影響について読者に思い出してもらいたい。

特に4種類は内皮組織の損傷によるものです。

ここで提示した分析を踏まえると、注射剤に含まれる物質は、おそらく改変されたmRNAによって誘発された、公表されているスパイクタンパク質を生成するだけでなく、ナノ構造自体の存在か、ハイブリッド合成生物学によるクロストメイン細菌から、さまざまな異常な毒性タンパク質分泌物も生成すると思われると推測されます (Maervoet et al., 2017)。さらなる分析を歓迎します。

ポール・マリク氏とその同僚は、改変されたmRNAの誤翻訳が異常なタンパク質合成を引き起こし、その異常を外来タンパク質として認識するようにヒトの免疫系を刺激する可能性があるとして報告した (Front line COVID-19 Critical Care Alliance, 2023年)スパイクタンパク質合成により、ウリジンをN1-メチルシュドウリジンに置き換えることで自然破壊を回避し、抗原の長期的な発達を確保することで、リボソームフレームシフトのリスクが証明されました (Mulroney et al., 2024)。一部の研究者は、COVID-19の注射剤がアミロイドーシスやプリオン病の病態生理学に因果関係がある可能性があるとして報告している (Perez et al., 2022; Classen, 2023; Leung et al., 2023)。

Dhuliら (2023)によると、質量分析法を用いて「長期COVID」患者の血液中の血清を分析したところ、分析中にウイルスのスパイクタンパク質と注射可能なスパイクタンパク質の両方が同時に検出された。この発見は、「長期COVID」が長期持続ウイルススパイクと注射誘発性スパイクタンパク質の両方と相関している可能性があることを意味する。

重要なのは、2つのスパイクが著しく異なっていたことです。彼らの研究は、リボソームのフレームシフトがジャブ後に発生することを裏付けているようで、異常なタンパク質生成も発生している可能性があるという以前の推測をさらに深めるだけです。これらの観察が有効であれば、前述の異常なタンパク質合成は、たとえば Mead ら(2024b、2024c)によって説明されているような、前例のないさまざまな疾患を引き起こす可能性があります。

血液と精液サンプル (主に生きた細胞で構成)の観察研究を通じて、COVID-19注射剤は、程度の差はあるものの、明確かつ一貫した細胞毒性を示しました。

特にノババックス社とアストラゼネカ社は、mRNA製品ではないにもかかわらず、ファイザー社やモデルナ社よりもさらに急速な毒性効果を示した。このばらつきは、スパイクタンパク質自体の細胞毒性に関する証拠の増加に意味があることが判明するかもしれない。

感染や注射による上記の後遺症以外にも、毒性スパイクタンパク質の特性について、弾性繊維の喪失が急速な皮膚の老化や血管の破裂を引き起こす可能性があるなど、さまざまな医学的証拠が報告されている。さらに、医療専門家と遺体防衛処理者の両方が書いた死後報告書には、奇妙な血栓症の兆候が著しく増加していることが記されている。これは、体内の液体を運ぶほぼすべての導管系から抽出された、通常の一般的な血栓とは明らかに異なる、これまでに観察されたことのない、非常に細長い繊維状の血栓の存在によるものと思われる。

ここで報告したように、私たちは、FDAの報告書に記載されている mRNA 注射剤、ファイザー、さらにはモデルナの製品に含まれるナノ粒子以外にも、数 μm サイズのさまざまな未確認物質を多数分離しました。

さまざまな実験と注意深い観察研究を終えて、私たちは、これらの材料とその観察された発達段階は自然のものではないと推測しています。これらは合成物であり、構造的自己組織化のよくプログラムされたプロセスを支配しているように見える元素です。これらの暫定的な最終生成物が人工的であると言えることは、これまでに参照された多数の論文ですでに示唆されています。

熱と電磁エネルギーへの曝露実験の結果は顕著で、短期間の曝露では自己組織化構造に顕著な変化が見られました。紫外線、可視光線、温度、窒素、空気中の炭素源、電磁場、さまざまな波動周波数、その他の要因がナノ粒子の反応を引き起こし、事前にプログラムされた構造のように見えるものを組み立てたり分解したりすることが明らかに考えられます。

Suberi ら (2023) は、最適化された生体適合性ポリアミンコエステルポリプレックスを利用する新しい mRNA 送達媒体の最近の開発について報告しています。彼らは、この新しいシステムは肺への吸入ワクチン送達のための高度にカスタマイズ可能なポリマーであると指摘しています。後にポリマーを生成するプログラムされたナノ粒子としてのこれらの以前の注射剤が、実験的なランダムサンプルを介して行われたように、受信者の三角筋に導入された場合、次世代の「ワクチン」は、プログラムされたナノ粒子を介して同様のポリマーベースの材料を使用して、鼻吸入または皮膚パッチを介して送達される可能性があります。

製薬業界の幹部兼研究者であるサーシャ・ラティポワ氏は、mRNA COVID-19注射剤のバッチ間のバイアル間で副作用に極端なばらつきがあることを発見した。通常の世界では、確立されたプロトコルと安全ガイドラインを厳密に遵守する規制機関による日常的な監視を受けている通常の医薬品では、このような極端に不均一なばらつきは許容されないだろう。しかし、国民が繰り返し思い出させられているように、私たちは「新しい常態」を生きている。では、古い常態からのこの明らかかなばらつきを、より一般的にどのように理解すればよいのだろうか。1つの方法は、意図性を考慮することだ。これらの製品は、すべての民族、性別、年齢層を含む全人類に対する実験的な注射として第一に使用されることを目的としていた。

この描写は、コミルナティ（ファイザー製品、FDA、2021年）のFDA承認書と一致している。市販後要件は生後6か月未満の乳児を対象とし、研究は2024年7月31日までに完了し、最終報告書は2024年10月31日までに提出される。注目すべきは、注射剤の添付文書において、注射剤が製造された工場に関するすべての詳細が明らかに編集されており、秘密保持がインフォームドコンセントを損なうのではないかという大きな疑問が浮上していることである。

「ワクチン」の電磁エネルギーへの曝露に関しては、予備的な観察により、注射剤の材料が携帯電話のワイヤレス充電器には陽性反応を示し、外付けハードドライブには陰性反応を示すことが示されています。電磁周波数に敏感な材料であるため、注射剤の内容物は一種の半導体として機能するように設計されていると考えられます。多くの研究者が、人体に対する電磁エネルギー場の生物学的危険性、特に発がん性、神経変性、生殖細胞への損傷、急速に進行する胎児細胞損傷の原因となることに注意を喚起しています (Ilori et al., 2019; Kashini et al., 2023; Noor-A-Rahim et al., 2022; Dasdag et al., 2015; ラッセル、2018年; ムーン、2020年)。

ワイヤレス充電器や外付けハードドライブは便利で非常に一般的な個人用電子機器です。実験的な注射剤（「ワクチン」）の接種を受けた人の体内にこれらの物質が循環しており、これらの個人用電子機器を使用すると、その内容物が周囲の放射線と相乗的に反応するため、機器自体が日常的な電磁場への曝露を超えて、特に細胞の再生に対する健康被害を増大させる可能性があります。

注入可能な内容物が、カイリーとブロウディ (2022) が指摘したように、体内ネットワークを秘密裏に構築するためのソフトウェアとハードウェアの両方として機能するように設計されている場合、示唆する、コンテンツは体外の電磁エネルギー場と相互作用する可能性が高い。モバイル通信ネットワークの現在の世界的な発展段階において、研究者は再現することを強く推奨する。

今後の 6G および 7G の WiFi および LiFi の反復が人間、動物、植物の生物学にどのような遠隔的影響を及ぼす可能性があるかをよりよく理解するための私たちの取り組みや代替研究の設定。

COVID-19 注射製品の使用やワイヤレス ボディ エリア ネットワーク (WBAN と略される) の開発に関する文献での憶測が盛んであるにもかかわらず (Jornet & Akyildiz, 2013 年)、ジンら、2023)、さらなる学際的な研究が必要です。このような研究は、標準的なキレート療法の代替手段を求めている、または電磁エネルギー汚染環境から完全に逃れようとしている患者のための、可能な電磁治療法の開発に役立つでしょう。

さらに、培養研究では、蒸留水が注入内容物の成長における独特な変化を明らかにするのに理想的な媒体であることが示されました。蒸留水は混じりけがなく、その電気化学的特性によって乱されることがないため、特別に設計された発達経路、注入内容物の意図された特性を発現し、プログラムされたとおりに、電磁エネルギーに対して容易に観察できる方法で反応する潜在能力を持っていると私たちは考えています。

プラズマ反応では、自己組織化のためのスペースがすでに占有されている皿の底に血球が大量に存在し、ナノ材料の自己組織化プロセスが妨げられたと推測されます。しかし、1 か月の培養では、プラズマ皿の底にごく少数の小さなチップが見られ、その後消えました。その後、比較的小さく少数ではあるものの、フィラメントやパイプ状の構造が現れ、培養の最終段階までその形態を維持しました。この発見は、底部での最初の集合が、その後のフィラメント構造の発達の前提条件ではないことを示しています。したがって、生体内では、前提条件をまったく必要とせずに、さまざまなナノフィラメントやカーボンナノチューブを生成できる可能性があります。

ワクチン接種を受けた人の血栓を分析したところ、全血沈殿物の中間層から抽出された茶色がかった均質な白濁した血栓に、数本の糸状の構造が付着しているのが見つかりました。電磁場に近接すると、糸状体が血栓形成を引き起こし、血液やリンパ液の自由流を妨げる可能性があります。その微細なサイズと体全体に広く分布していることを考えると、文献に述べられているように、これらの異物が体内または体外のエネルギー源と相互作用すると、細長く、大きくなり、病的状態や最終的には死亡の謎の要因となる可能性があります。

上で述べた病態生理学以外にも、数十年にわたる文献で説明されているナノテクノロジーの理論的研究は、特にファイザーとモデルナの mRNA 「ワクチン」の実用化に反映されているようだ。「ワクチン」の初期の展開後にさまざまな突然の異常な傷害に苦しむ患者の逸話的な観察が、実験室での培養研究と生物学の出版された文献の両方で私たちの調査のきっかけとなった。

ナノテクノロジー、電磁場科学、材料工学の分野では、ワクチンの本来の内容物から採取した培養研究が、さまざまな異物を特定し、生体内での病態生理学をより深く理解する上で有益でした。しかし、他の研究者は、異物は単に塩化ナトリウム (NaCl) やその他の汚染物質である可能性があり、観察された挙動は単に自然結晶化の結果であるという別の意見を述べています。

こうした一連の反論は物理学に訴えることで対処できます。

フラクタルは、規則的で予測可能なパターンを通じて線形次元で形成されることが古くから知られており、物質宇宙の振動などの環境要因が最適な場合、フラクタルはより高い構造次元を発達させます (Dubuc ら、1989)。さらに、広く観察されている

ほとんどの蒸発した溶液の残留物には、特にNaClやさまざまな種類の電解質、さらにはヒドログリフメカニズムを介した水自体にも同様の結晶が見られます (WakelingはBailey、2022で引用)。したがって、このような自己組織化構造が通常の蒸発プロセスによって誘発される天然結晶と同じものではないことを検証するために、注入可能な物質を中断のない液体状態を維持する培地で培養する必要があります。

重要なのは、mRNA技術が、オペレーティングシステムや技術プラットフォームの一種としてソフトウェアの観点から販売されることが多いことです (Modernaのウェブサイトによる)。ModernaがmRNA技術をコンピュータープログラムとして特徴づけた当初の説明は同社のウェブサイトから削除されていますが、その原型的な概念を思い出すために読者に提供します。mRNA科学の幅広い可能性を認識し、私たちはコンピューター上のオペレーティ

ングシステムのように機能するmRNA技術プラットフォームの作成に着手しました。これは、さまざまなプログラムと互換性を持ってプラグアンドプレイできるように設計されています。私たちの場合、「プログラム」または「アプリ」はmRNA薬、つまりタンパク質をコードする固有のmRNA配列です (Modernaは多くの記事で引用されています。たとえば、Reuters、2021を参照)。マーティン、2024年)。

電子回路や3次元コンピュータなどの自己組織化構造のほとんどの幾何学的パターンは、ファイザーのブースター (注射番号4、P4)の培養中、約80日目以降に徐々に分解した3次元チップ状構造。他の注射剤 (P1、P2、モデルナ)とは異なるタイムラインを持ち、同様の分解パターンも現れた。これは、注入されたナノ材料が観察されたように動作し、一定の間隔で自己集合と分解を実行するようにプログラムされているように見えることを意味する。私たちの理論では、プロセス全体は、

定期的強化される可能性があり、CDCの規定による新たな「ブースターショット」の接種計画を通じて強化される可能性がある。推奨事項。

時折、他の研究者は市販の生理食塩水に糸状の構造が顕微鏡で見られることを報告している。注射用生理食塩水と形態的に類似しているにもかかわらず、フィラメントとは異なり、生理食塩水中に見られる構造は、その動作と成長パターンが若干異なります。注目すべきは、現れたさまざまな珍しい構造物です。独特の縞模様のカールしたリボンや、蛇皮のような鱗のあるさまざまな糸状物で、竹から泡が抜ける時のように中空の区画があるように見えます。これらの構造物は媒体全体に増殖し、細長く、ねじれ、結び目があり、変色し、質感が多様でした。

私たちの観察研究中、泡を放出しているように見えるフィラメントは一貫して活動していました。これらのフィラメントが基礎培地に由来するものか、注射剤自体に由来するものかを区別するために、さらなる研究が必要であると私たちは主張します。いずれにせよ、その起源を分離することは、他の多くの、あるいはほとんどの医薬品や製造プロセスがすでにナノテクノロジーに汚染されているかどうかという問題に対する重要な発見となる可能性があります。この秘密の技術がCOVID-19注射剤に限定されないかもしれないと考え、冷静になります。培養皿の底 (よく維持された液体状態)には、直角を特徴とする非常に詳細な幾何学的自己組織化構造が観察されましたが、上層には浮遊構造が剥がれ落ち、最初の数週間に現れたことが記録されています。

ナノマテリアル工学の研究によると、バイオハイブリッド磁気ロボット (微細藻類ベースのマグノボット)は、電磁エネルギー、pH範囲の変化、グルコースレベルの操作、特定の組織を標的とする光スペクトルの変化など、さまざまな誘発要因によって生成され、体全体に推進される可能性があります (Li et al.、2023)。インキュベーション研究中の観察では、特にファイザーのサンプルにマグノボットが存在することが示唆されています。

私たちの培養研究では、単純な蒸留水中のファイザー製品は、特別なサプリメントや周囲のエネルギー源にさらされていなくても、さまざまな透明なリボン、薄いフィルム状の膜、コイル、スパイラルを生成することが明らかになりました。培養培地中でのこれらの成長と出現のパターンは、ナノテクノロジー特有の作用メカニズム以外では説明できませんでした (Cao, 2019; Truong et al., 2016)。さまざまな電解質溶液で培養する初期段階では、さまざまな媒体や溶液で結晶化が起こり、それらが同時に皿の底全体に広がることで、自己組織化プロセスがある程度中断された可能性があります。

蒸留水中で培養されたファイザーのサンプルには、さまざまな種類の透明なリボン、フィルム、コイル、スパイラルが現れました。これらは、すでに多数の学術論文で発表されているマイクロおよび磁気ナノロボットと構造が非常によく似ていました (Zhou et al., 2021)。多くの研究者によると、これらの構造は、ポストヒューマン社会に向けたトランスヒューマニズム運動に必要な信号導体、バイオセンサー、スイッチ、および/または電子機器として機能する可能性がある (Kyrie & Broudy, 2022; Mousavi et al., 2021; ベイリー, 2022年; キング・アブドラ大学, 2021年。 Alamoudi et al., 2021; Marsudi et al., 2021; 張らら, 2019年; El-Husseiny et al., 2022; Shiu et al., 2022; 周ら, 2021年; ジョンソン、ブロードディ&ヒューズ, 2024a, 2024b, 2024c, 2024d)。これらの構造は、プラズモニックアンテナなどのナノデバイスや、テラヘルツ帯通信用のトランシーバーとしても機能する可能性があります (Jornet & Akyildiz, 2014)。ナノ構造は、可視光、温度 (熱)、電磁場、紫外線、水、空気中の炭素と酸素、特殊な電解質 Ca^{++} など、さまざまなトリガーによって刺激されて成長し、機能することが知られています。これらの現象は、縦断的な観察を通じて確認できました。

また、注目すべきは、培養培地の最上層と中間層に見られる現象で、これはおそらく構造物の質量と重量によるものと思われる。ファイザーを蒸留水中で培養した後期、およそ 337 日目に、透明なワイヤー状の中空チューブの束が現れ、最上層では皮膚抽出物 2 (単に E2 と名付けられた別の匿名患者) と構造が類似しているように見えました。しかし、これらのフィラメントは、通常のフィラメントとは性質が異なっていました。本稿執筆時点では、チューブは独特の縞模様のカールしたリボンに成長しています。

この動的で変化する形態のプロセスは、注射や長期培養研究から観察される皮膚抽出物の生成に関連する可能性のある別の種類のリサイクルパターンの重要な兆候を表しています。さらに、束やリボンは、より耐久性があり長持ちするシリカである可能性があり、または合成グラフェンでコーティングされたポリマーナノチューブ、または1000°Cから4,000°Cの温度に耐えられる導体または半導体として機能する同様のナノワイヤである可能性があります。

関連する研究文献によると (Hagimă, 2023b)。人体における異物の存在はさまざまな自然な解毒プロセスを引き起こしますが、キレート化または分解しようとするあらゆる試みにもかかわらず、一部の物質は依然として残留します。たとえば、アルミニウムは長期間脳内に留まることが古くから知られており、その結果、神経障害や疾患を引き起こすことがよくあります (Shaw, 2017)。したがって、私たちの観察から、解毒の可能な治療法や体制についての批判的な議論が必要であると推測します。

特に、1~2週間以内に注射を受けた被験者に関しては、シリカ水がチップ状構造の組み立ての初期段階を妨害する可能性があるため、役立つ可能性があります。後期段階、つまり注射後3週間では、コロイド状の金または銀 (直径3~5nm、10~20ppm)がチップに付着し、破壊し、積極的に分解し、最終的に

さまざまなナノ構造を溶解します。このような処理プロトコルの長期的な結果は、進行中の実験で調査されています。マイカも同様のプラス効果を示すことが示されています。

高温サウナに日常的にさらされると、ナノマテリアルが組織から剥がれ落ち、汗腺の毛穴から漏れ出すこともあります。金や銀、または独自の治癒周波数を持つ他の特殊な結晶を使用することで、損傷した臓器の回復と正常な血流を取り戻すことができますと私たちは考えています。電磁エネルギーは観察されたナノ構造の形成を刺激するため、身体を定期的に（再）接地（アース）すると、組織に過剰に蓄積された電磁エネルギーを放出するのに役立ちます。電磁エネルギーへの不必要な過剰曝露を避けることも有益です。スマートウォッチ、スマートフォン、ワイヤレスイヤホン、Wi-Fiなどの個人用電子機器

ルーターやその他のあらゆる形態の電磁エネルギー汚染は、完全に除去されないにしても、大幅に削減されるはずです。ここで説明するさまざまな治療法は、「ワクチン」解毒の体制として適用できますが、被験者は各反応の独自の個人差を念頭に置いてください。

結論

政府の白書やバイオテクノロジー、ナノテクノロジー、材料科学、電子工学の学術文献を縦断的な培養研究と組み合わせると、さまざまな根本的な腐敗の説得力のある証拠が明らかになります。注射可能な改変mRNAプラットフォーム

広く「ワクチン」として知られている、数十億人の人間の三角筋に注入されるものは、明らかにすでに存在しているものを混ぜ合わせている。

観察研究と比較分析によると、「ワクチン」のバイアル、「ワクチン」にさらされた被験者から採取した血液サンプル、およびその後の合成生物製剤の排出物に意図的な汚染が現れることが示唆されています (Woodruff & Maerkl, 2016)。これらの観察された現象の形態学的特徴と行動的特徴は、純粋とは程遠いことを示唆している (Finn, 2011 p. 138) によると、これらの注射剤は、これまで明らかにされていなかった、さまざまな内部および周囲のエネルギー形態に反応する追加の人工成分で構成されており、それらはすべて学術文献を通じて追跡可能であり、説明されています。

「ワクチン」というマーケティングスローガンの一般に理解されている意味や「安全で効果的」という主張からの大きな逸脱は、顕微鏡で「生物学的製剤」を観察すると明らかになります。

この「注射剤」の導入以降、世界中で報告されている死亡数超過、「ターボ」がん、さまざまな自己免疫疾患の発生率は、疑わしいほど高い相関関係にある。私たちが説明した異常現象は、長い間計画され資金も潤沢な「ボディ・インターネット」(IoB) (Celik et al., 2022)で現在構築中の通信インフラとの明確な対応を示唆している。IoBは一種の人工的な地球規模の中枢神経系であり、その詳細は学術文献でも広く議論され、図解されている。特にバイオハイブリッド磁気口ボットは、これらの「生物製剤」のエネルギー源への反応性を理解しようとする研究者にとって大きな懸念事項である。私たちは、同様の研究に従事している他の研究者の呼びかけに同調する。成分が検証され、その長期的な影響が理解されるまでは、緊急使用許可を求める声によって無視されている必要性から、即時の世界的な禁止が必要である。

著者の責任

Youngmi Lee: 概念化、研究設計、画像分析、データキュレーション、原稿執筆。

ダニエル・プロウディ: 画像分析、データキュレーション、編集、草稿作成、改訂。

免責事項

ウェブサイトおよびIJVTPRの情報は、いかなる形であれ言及される可能性のある人間の状態または医療処置に対する診断、推奨される治療、予防、または治癒を意図したものではありません。言及される可能性のある病的状態、処置、またはプロトコルのいずれかに影響を受ける人の親、保護者、介護者、臨床医、または親族であるユーザーおよび読者は、特定の適用に関して独自の判断を下す必要があります。寄稿者、編集者、およびウェブサイトおよび/またはジャーナルに何らかの立場に関連する人物は、ウェブサイトまたは IJVTPR にある情報、結論、研究結果、意見、誤り、または声明のいかなる文脈での使用または適用から生じる可能性のある損害、経済的損失、身体的損傷、またはその他の罰則について、個人または団体に対して一切の責任を負いません。提示された資料は、それを調べることに関心のあるすべてのユーザーに無料で提供されますが、その一部をどのように適用するかは、閲覧者/ユーザーの単独の責任です。資料を引用または転載する場合、ユーザーは出典/著者をクレジットし、[クリエイティブ・コモンズ・ライセンス4.0 NC ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/)の非営利、派生作品禁止の要件に従うことが求められます。または、それよりも優先されるその他のライセンス。

付録 あ

この付録では、本文の 1196 ページから始まる上記の表を示します。

	Pfizer 1		Pfizer 2		Pfizer 4		Moderna		AZ	
Plasma 1 from a non-vaccinee	D24	D146					D24	D146		
	C +/-	C -					C +/-	C -		
	F -	F -					F -	F +/-		
Plasma 2 from a non-vaccinee		D146						D146		
		C -						C -		
		F +						F +		
Semen 3 From a person who received 2 nd jab of Pfizer	D37	D362	D37	D362	D37	D362	D37	D362	D37	D362
	C +	C +(1-2Ds)	C +	C -	C +	C -	C ++ (2 Ds)	C + (1-2Ds)	C -	C -
	F+(Rope)	F +	Nano worm+	F ++	F +	F +	F +	F +	F +	F +++++
			F +	SH +		f/b	T +	R +		SH +/-
			R +							

D = day of observation after incubation; Ds = dimensions; C = geometric chip-like assembly; F = filaments observed; R = ribbon-like material; T = object appearing like a piece of tape; SH = intact sperm head; f/b = contamination attributed to fungus or bacteria

Table 6
Cytotoxicity Observed in % of Motility of Sperm Cells Over Time with Various Chemicals
Using the Healthiest Semen Sample (Semen 4) Available for study

Time lapse	Korean Spirit (proof 20)	Red wine	Beer	Mica	Colloidal Gold (GNP1)	Silica water	Vitamin C	Calcium hypochlorite $\text{Ca}(\text{OCl})_2$		Incubation media† of E1
								0.001%(1X)	0.01%(10X)	
0	0								0	
30 m	0	1%							0	
1.5 h	0	1%	0	10%	0	0	0	0.1%	0	10%
3 h	0	0	0	0.1%					0	

E1 = Skin extracts from Moderna vaccinee; † = long-term incubation media of E1 with normal saline; m = minute; h = hour

Table 7
Growth Differences between the Media with mRNA Vaccines (Pfizer & Moderna)

Day	D/W				N/S			H/S				Ca(OCl) ₂ (1X) 0.001% †			ClO ₂ (1/100 X) 1ppm †			
	D 41	D60	85	D297	D51	D95	D306	D42	D60	D85	D297	D42	D85	D311	D18	D111	D 230	
P1	C+++ F + R ++	C++ + F + R++	C + F++ R++ S+++	C - F +++ R+ S +/- W +	C++ (3Ds) F + R ++	C+++ F ++ R +	C +/- F +++	C+ +/- F -	C - F -	C +/- F +	C - F +	C+++ F -	C++ (3Ds) F +	C - F +	C+/- F -	C ++ F -	C - F +	
P2			C - F +	C - F ++	C + (1-2Ds) F -	C++ (2Ds) F+ (twisted)	C - F + (twisted, bubbly surfaced)	C+ +/- F +	C - F -	C - F++	C - F +	C+ F -	C +/- F +	C +/- F +++				
P4					C +++ (3Ds) F +	C +++ (1- 2Ds) F +	C - F +++ (shorter)	C + F -	C +/- F -	C +/- (1-2Ds) F +	C +/- (1-2Ds) F +	C + F -	C+++ (3Ds) F ++	C - F +++				
M	C +++++ F + (branched end)	C +++ F + R +/-	C - F +/- R -	C +++ F + R +	C++ F +/-	C - F - Circle+ at the bottom	C +/- F -	C +/- (1-2Ds)	C +/- F +	C - F +	C + R +++	C++ F+++ R++	C - F++ (shorter)	C+/- F -	C +++ F -	C - F +		

C = chip like assembly at the bottom; F = Filaments in the middle layer; R = Ribbon floating in the upper layer; S = Spirals; W = transparent wires; Ds = dimension;
D = incubation days; † = applicable standard concentration for drinkable water

Table 8
Calcium Hypochlorite, Ca(OCl)₂ Dose-dependent Study for Covid-19 Vaccines

Days	Pfizer(P1) for adult		Pfizer(P2) for Children		Moderna		AZ	NV						
	D85	D311	D85	D311	D85	D311	D85	D85						
	C	F	C	F	C	F	C/F	C/F						
D/W	+++	++ Ribbon	-	+++ Wire	-	+	+++	+	-	+/-	-/-	-/-		
1X † (0.001%)	++ (3Ds)	+	-	+	+/-	+	-	+++	++	+++	-	++, shorter	-/-	-/-
10X ‡	+	++	+/- (1-2Ds)	+++	+/-	++	-	+++	-	++++, bubbly	C - F+	-		
20X	+	+/-	-	+/-	+/-	+	-	-	-	++, small	++	++ bubbly	-/-	C - F +
30X	-	-	-	+/-	-	-	-	+/-	++	+/-	++	-/-	-/-	
50X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-/-	-/-	

X = grade of concentration; C = chip-like assembly at the bottom; F = Filaments in the middle layer; Ds = dimension; D = incubation days; D/W = incubation in distilled water for the comparison; AZ = AstraZeneca; NV = Novavax; † = applicable standard concentration for drinkable water; ‡ = standard concentration for swimming pool disinfection

Table 9
Chlorine Dioxide, ClO₂ Dose-dependent Study with Covid-19 mRNA Vaccines Incubation

Days	Pfizer								Moderna							
	D18	D85		D111		D230		D18	D85		D111		D230			
C/F	C	C	F	C	F	C	F	C	C	F	C	F	C	F		
1/400 X	+/--	+++	-	+++	-	+/--	++	+/-	-	-	++++	-	+/----	+		
1/200 X	+/--	+++	+	+++	-	-	+	+/-	-	-	++++	-	+/-----	+		
1/100 X †	-	++	-	++	-	-	+	f++>b	-	-	+++	-	-	+		
1/64 X	-	-	-	+	-	-	+	-	+/-	+	+	-	-	+		
1/32 X	+/--	-	-	+/-	-	-	+	+/--	-	-	+	-	-	+		
1/16 X	+/--	-	-	+/-	-	-	+	+/-	-	-	+	-	-	-		
1/8 X	+/--	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-		
1/4 X	+/-	-	-	-	-	-	-	+/--	-	-	-	-	-	-		
1/2 X	+/--	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+		
1X ‡ (100 ppm)	+/-----	-	-	-	-	-	+	+/-----	-	-	-	-	-	+		

X = diluted concentration; C = self-assembled geometric chips-like structures; F = filaments; f>b = more fungal contamination than bacterial contamination; D = incubation days; † = applicable standard concentration for drinkable water; ‡ = concentration for disinfection (aseptic process for surgical instruments)

Table 10
Hydrogen Peroxide, H₂O₂ Dose-Dependent study with the mRNA Covid-19 Vaccines Incubation

	Pfizer			Moderna			
Culture D	D5	D105	D203	D5	D105	D203 (D217)	
Chips	C	C	C	C	C	C	F
Filaments	F	F		F	F		
1/500X	C++	C+/-	C +/----- (1~2Ds)	-	C+++	C+++ (3Ds)	C - +++longer
1/200X	C++	C+(1~ 2Ds)	-	-	C+++	C+++ (3Ds)	C++++ (2~3Ds) -
1/100X (0.03%)	C++	C++(2Ds)	C +/----- (1Ds only) disruption	-	C+++	C+++ (3Ds) F + S +	C + (2~3Ds) ++ shorter

X = diluted concentration; C = geometric chip-like assembly; Ds = dimension; F = filaments; S = spirals; D = incubation days

Table 11
mRNA Vaccine Incubation Study with Various Mineral or Supplementary Solutions

Vax	Pfizer									Moderna								
	D9			D36			D253			D9			D36			D253		
C/F/O	C	F	O	C	F	O	C	F	O	C	F	O	C	F	O	C	F	O
N/S	+++	-	NP	++++	-	-	+/-	+++	-	++	-	NP	+++	-	-	-	+	-
Si Water	+/-	-	-	+/-	+/-	NW	+	++	-	++	-	-	+	+	-	-	+	-
GNP2	+	-	-	+	-	-	++	++	f++	++	-	-	++	-	-	++	++	-
GNP3	+	-	-				-	+	-	+	-	-				-	++	-
GNP4	++	-	-				-	+	-	+	-	-				-	++	-
SNP	++	-	-	++	-	-	-	+/-	f+++	+++	+	-	+++	++	-	-	+	b++
EDTA	+	-	-	++	-	-	-	+/-	f++	++	-	-	++	-	-	-	+++	-
MICA	-	-	-	+/----			-	+/-	f+++	+/-	-	-	+/----	-	-	-	+/-	f++
Myrrh	?	?	bub	?	?	bub	?	?	Solid									

C = geometric chips; F = filaments; O = others; b = bacterial contamination; f = fungal contamination; bub = bubbly; NP = nanoparticles;
 NW = nano-worm at the bottom; Solid = solidification

Table 12
Biochemical Analysis of Various Vaccine media along the culture period (via U-stick)

Vaccine + media	Vaccine type	Culture Period	Condition	Glucose +/- ~ +++++ 100~2000mg/dl	Protein +/-~++++ 10~1000mg/dl	pH 5.0~9.0	OB +~++++ 10/5-/250 (RBC/ μ l)	
1	P1NS	Pfizer 1	D266	EMF/5G	+(250mg/dl)	-	6.0	-
2	P4NS	Pfizer 4	D266	EMF/5G	+/(100mg/dl)	-	6.0	-
3	P1DW	Pfizer 1	D266	EMF/5G	+(250mg/dl)	+/(10mg/dl)	6.0	+(10RBC/ μ l)
4	P1DW	Pfizer 1	D23	Overnight UV	-	++(100mg/dl)	6.0	+(10RBC/ μ l)
5	M1DW	Moderna 1	D224	-	+/(100mg/dl)	-	6.0	-
6	M1DW	Moderna 1	D23	Overnight UV	+/(100mg/dl)	-	6.0	-
7	M2DW	Moderna 2	D221	EMF/5G	+++ (1000mg/dl)	-	6.0	++(50RBC/ μ l)
8	P1BS	Pfizer 1 (D27)	D1 (D27)	Overnight UV	-	+++ (300mg/dl)	9.0	+(10RBC/ μ l)
9	P1DW	Pfizer 1	D49	Overnight UV	-	++(100mg/dl)	6.0	+(10RBC/ μ l)
10	P1DW	Pfizer 1	D82	Overnight UV	-	-	6.0	+(10RBC/ μ l)
11	M1DW	Moderna 1	D45	Overnight UV	-	-	-	-
12	M1DW	Moderna 1	D245	-	-	-	-	-
13	P1BS	Pfizer1 (D27)	D26 (D27)	Overnight UV	-	+++ (300mg/dl)	9.0	-
14	N/S	Control	D0	-	-	6.0	-	-
15	P1DW	Pfizer 1	D0	-	+/- (100mg/dl)	-	6.0	+(10RBC/ μ l)
16	P2DW	Pfizer 2	D0	-	+/- (100mg/dl)	-	6.0	+(10RBC/ μ l)
17	P4DW	Pfizer 4	D0	-	+/- (100mg/dl)	-	6.0	++(50RBC/ μ l)
18	M1DW	Moderna 1	D0	-	+/- (100mg/dl)	-	6.0	+(10RBC/ μ l)
19	M2DW	Moderna 2	D0	-	+/- (100mg/dl)	-	6.0	+(10RBC/ μ l)

BS = Baking Soda; NS = normal saline; DW = distilled water; GNP = colloidal Gold; EMF/5G = Electromagnetic Field exposure (wireless recharger) with 5G streaming; UV = Ultraviolet exposure; P1, 2, 4 = Pfizer; M1, 2 = Moderna vaccine; D = incubation days

Table 13
False Positive and Negative Factors in U-stick Analysis

	Glucose	Protein	pH	Occult Blood
False Positive	Hypochlorite Oxidants	Alkaline solution Ammonia Chlorohexidine (0.25%)	Bacteria → Alkaline	Hypochlorite Peroxidase
False Negative	Vt C (>50mg%) Ketone High-density solution			Vt C (>50mg%) Captopril (>100mg%)

→ = bacterial contamination triggers alkaline state

参考文献

- AGC (2021)。AGCバイオロジクスのハイデルベルク工場がCOVID-19ワクチン用プラスミドDNAをさらに供給。AGC 生物製剤。<https://www.agcbio.com/news/agc-biologics-heidelberg-facility-to-further-supply-plasmid-dna-for-covid-19-vaccine>
- Alamoudi, A., Celik, A., Eltawil, AM (2021)。「ボディのインターネットのためのエネルギー効率の高い静電容量ボディチャンネルアクセス方式」、2021 IEEE グローバルコミュニケーションカンファレンス (GLOBECOM)、 <https://ieeexplore.ieee.org/document/9685810>
- Alavi, SH, Kheradvar, A. (2012). 膜組織工学のための金属メッシュスキャフォールド。Tissue Eng Part C Methods、 18(4):293-301。 <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC3311880/>
- Akyildiz, IF, Jornet, JM (2010)。「ナノモノのインターネット」。IEEE Wireless Communications、 17(6):58-63。 <https://ianakyildiz.com/bwn/surveys/nanothings.pdf>
- Alavi, SH, Kheradvar, A. (2012). 膜組織工学のための金属メッシュ足場。組織工学パート C 方法、 18(4):293-301。 <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC3311880/>
- アンダーソン, M. (2022)。「MAC現象と体内ナノコミュニケーションネットワーク」: レビュー。ランブル。<https://rumbled.com/v15a4r1-the-mac-phenomenon-in-people-vaccinated-from-covid19.html>
- ベイリー, M. (2022)。「COVIDワクチン」: 酸化グラフェン問題に関する興味深い発見。真実が明らかになる。<https://drsambailey.com/resources/videos/vaccines/nz-scientist-examines-pfizer-jab-under-the-microscope/>
- ベイリー, S. (2022)。「COVIDワクチン」: グラフェン酸化物問題に関する興味深い発見。サム・ベイリー博士。<https://drsambailey.com/covid-vaccines-a-curious-discovery-on-the-graphene-oxide-question/>
- Balghusoon, AO, Mahfoudh, S. (2020)。「無線ナノセンサーネットワークとナノインターネットのためのルーティングプロトコル」: 包括的な調査。IEEE Access、 8、200724-200748。<https://ieeexplore.ieee.org/stamp/stamp.jsp?arnumber=9247091>
- Balasubramaniam, S., Kangasharju, J. (2013)。「ナノモノのインターネットの実現」: 課題、解決策、そしてアプリケーション。コンピュータ、46、62-68。<https://www.computer.org/csdl/magazine/co/2013/02/mco2013020062/13rUxNmPHo>
- Beattie, KA (2021)。「COVID-19に関連する死亡と症例に対するワクチン接種の世界的なベイジアン因果影響分析」: 145か国のビッグデータ分析。https://www.researchgate.net/publication/356248984_Worldwide_Bayesian_Causal_Impact_Analysis_of_Vaccine_COVID-19による死亡者数と症例数に関する行政145か国のビッグデータ分析
- Beattie, KA (2024) IJVTPR特別号のエグゼクティブサマリー - ワクチンは「COVID-19」 「パンデミック」 : 210か国38地域におけるCOVID-19の実験的注射による死亡数、症例数、超過死亡率への影響に関するビーティーの世界規模のベイズ分析の最新版。ワクチン理論、実践、研究の国際ジャーナル、 TBA。
- Betal, S., Saha, AK, Ortega, E., Dutta, M., Ramasubramanian, AK, Bhalla, AS, および Guo, R. (2018)。「コアシエル磁気電気ナノロボット - 標的細胞操作のための遠隔制御プローブ」。Scientific Reports、 8、記事 755。<https://doi.org/10.1038/s41598-018-20191-w>
- Bigtree, D. および Cole, R. (2022年12月12日)。「The Highwire」のCOVIDワクチンに関する調査。The Highwire。<https://thehighwire.com/ark-videos/the-highwires-lab-investigation-of-covid-vaccines/>
- Blaylock, RL (2021)。「SARS-Cov-2を含む肺ウイルス感染におけるサイトカインストーム反応の重要な構成要素としての興奮毒性 (免疫興奮毒性)」。ワクチン理論、実践、研究の国際ジャーナル、 1(2)、223-242。<https://doi.org/10.56098/ijvtpr.v1i2.14>
- ブレイロック, RL (2022a)。「私の論文「COVIDアップデート」: 真実とは何か?」に対するコメントへの回答。外科神経学国際、 13、316。https://doi.org/10.25259/SNI_578_2022
- ブレイロック, RL (2022b)。「COVID-19「ワクチン」: 真実とは何か?」ワクチン理論、実践、および国際ジャーナル研究、 2(2)、595-602。<https://doi.org/10.56098/ijvtpr.v2i2.57>

- Burke, P.,および Rutherglen, C. (2010)。シングルチップの埋め込み型 RFID システムに向けて: 単一セル無線は可能か? バイオメディカルマイクロデバイス,12(4),589-596。<https://doi.org/10.1007/s10544-008-9266-4>
- Burkhardt, A. (2022) 死後検査 (剖検)の実施に関する注意と推奨事項
COVIDワクチン接種に関連して死亡。doctors 4 covidethics.org <https://doctors4covidethics.org/wp-content/uploads/2022/03/autopsy-directions-revised.pdf>
- Campra, P. (2021a)。COVID 19ワクチン中のグラフェンの検出。COVIDワクチンの対抗分析。
https://www.researchgate.net/publication/355979001_DETECTION_OF_GRAPHENE_IN_COVID19_VACCINES
- Campra, P. (2021b)。COVIDワクチンの微細構造 :無機結晶かワイヤレスナノセンサーネットワークか?
COVIDワクチンの反論。
https://www.researchgate.net/publication/356507702_MICROSTRUCTURES_IN_COVID_VACCINES_inorganic_crystals_or_Wireless_Nanosensors_Network
- Cao,S.,Shao,J.,Xia,Y.,Che,H.,Zhong,Z.,Meng,F.,van Hest,JCM,Abdelmohsen,LKEA,Williams,DS (2019)。
イオン誘導形態スイッチによる生分解性ナノフォームの分子プログラミングによる非対称治療キャリアへの応用。Small . 15(38). <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/sml.201901849>
- Celik, A.,Khaled N. Salama, KN,Ahmed M. Eltawil, AM (2022)。「ボディのインターネット」:伝搬特性とチャネルモデリングに関する体系的な調査。
IEEE Internet of Things Journal、 9(1):321-345。<https://ieeexplore.ieee.org/stamp/stamp.jsp?arnumber=9490369>
- Classen, JB (2021) COVID-19 RNAベースのワクチンとプリオン病のリスク。微生物学と感染症、 5、1-3. <https://principia-scientific.com/covid-19-rna-based-vaccines-and-the-risk-of-prion-disease/>
- Classen, JB (2023)。COVIDワクチン誘発性プリオン病の可能性のある治療法。臨床試験の最近の進歩、 3(2). <https://doi.org/10.33425/2771-9057.1024>
- Cruz Alvarado, MA,Bazán, P. (2019)。「ナノモノのインターネットを理解する」概要、傾向、課題。
電子情報科学、 9(1),152-182。 <https://www.redalyc.org/journal/4768/476862662008/476862662008.pdf>
- Dambri, OA, Cherkaoui, S., Makrakis, D. (2022)。有線ナノ通信ネットワーク用受信機的设计と評価。IEEE Transactions on NanoBioscience。<https://arxiv.org/pdf/2009.11805.pdf>
- Dasdag, S., Akdag, MZ, Erdal, ME, Erdal, N., Ay, OI, Ay, ME, Yilmaz, SG, Tasdelen, B., Yegin, K. (2015)。Wi-Fi 機器から放射される 2.4 GHz の無線周波数放射が脳組織におけるマイクロ RNA 発現に与える影響。Int J Radiat Biol, 91(7):555-61. <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/25775055/>
- Dhuli, MC Medori, C., Micheletti, K., Donato, F., Fioretti, A., Calzoni, A., Praderio, MG, De Angeli, G., Arabia, S., Cristoni, S., Nodari, M. (2023)。ロングCOVID症候群患者の血清中のウイルススパイクタンパク質とワクチンスパイクタンパク質の存在。European Review for Medical and Pharmacological Sciences、 27:13-19。
<https://www.europeanreview.org/wp/wp-content/uploads/013-019-2.pdf>
- Dibiasi, L. および Sangorrin,(2024)。「COVID-19 注射の分析 — 50 種類の未申告の化学元素、酸化グラフェン、蛍光粒子 — バイオテクノロジスト Lorean Dibiasi との会話。Ana Maria Mihalcea とのインタビュー」。<https://anamihalceamdphd.substack.com/p/analysis-of-covid-19-injections-50>
- Dubuc, B., Quiniou, JF, Roques-Carmes, C., Tricot, C., および Zucker, SW (1989)。プロファイルのフラクタル次元の評価。Phys . Rev. A 39, 39(3):1500. <https://journals.aps.org/pr/abstract/10.1103/PhysRevA.39.1500>
- El-Husseiny, HM, Mady, EA, Hamabe, L., Abugomaa, A., Shimada, K., Yoshida, T., Tanaka, T., Yokoi, A., Elbadawy, M., Tanaka, R. (2022) スマート/刺激応答性ハイドロゲル: 組織工学およびその他のバイオメディカルアプリケーション向けの最先端プラットフォーム。Materials Today Bio。<https://www.x-mol.net/paper/article/1469390524673204224>
- 遠藤 勇治 (2021)。実用化に向けた無細胞タンパク質合成システムの開発。日本学士院紀要、シリーズB,2021年、第97巻、第5号、261-276ページhttps://www.jstage.jst.go.jp/article/pjab/97/5/97_PJA9705B-03/_html/-char/en
- FDA. 2021。BLA 承認書。食品医薬品局。<https://www.fda.gov/media/151710/download>

- Finn, TM (2011). 米国 FDA によるヒトワクチン製品の安全性および効力試験の要件 *Procedia in Vaccinology*. 5:137-140. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1877282X11000282>
- Gat, I., Kedem, A., Dviri, M., Umanski, A., Levi, M., Hourvitz, A., Baum, M. (2022). COVID-19ワクチン接種BNT162b2は精液ドナーの精液濃度と総運動精子数を一時的に低下させる。 *アンドロロジー*, 9月;10(6):1016-1022. <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC9350322/>
- Hagimă, G. (2023a). インタビュー。Comirnaty, Moderna C19 ショット、歯科麻酔薬、ニューモボックスの電子顕微鏡検査。 <https://rumble.com/v3xti7w-electron-microscopy-of-comirnaty-moderna-c19-shots-dental-anesthetics-and-pn.html>
- Hagimă, G. +(2023b). 空気中の危険 - ルーマニアの雨水分析研究で磁性ナノ粒子とフィラメントが発見される。クリフォード・カルニコムの雨水分析との比較。 <https://www.activenews.ro/opinii/EXCLUSIV-ActiveNews-CE-SE-AFLA-IN-APA-DE-PLOAIE-PERICOLUL-DIN-AER.-Dr.-Geanina-Hagima-Apel-catre-cercetatorii-romani-dar-si-catre-patriotii-din-structurile-de-aparare-si-informatii.-FOTO-prin-microscopie-electronica-si-VIDEO-183736>
- ヒューズ、DA (2022) 。いわゆるCOVID-19 「ワクチン」には何が含まれているのか？パート1 :世界的犯罪の証拠 人類。 *国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル*, 2(2),455-586。 <https://doi.org/10.56098/ijvtpr.v2i2.52>
- Idrees, D. および Kumar, V. (2021) SARS-CoV-2 スパイクタンパク質とアミロイド形成タンパク質の相互作用: 神経変性。 *生化学および生物物理学的研究コミュニケーション*, 554,94-8。 <https://doi.org/10.1016/j.bbrc.2021.03.100>
- Idrees, D., Kumar, V., (2021). SARS-CoV-2 スパイクタンパク質とアミロイド形成タンパク質の相互作用: 神経変性への潜在的な手がかり。 *Biochem Biophys Res Commun*. 2021 年 5 月 21 日;554:94-98. doi: 10.1016/j.bbrc.2021.03.100
- Ilori, AO, Gbadamosi, OA, Ibitola, GA, Ajanaku, O. (2019). AC およびバッテリー駆動のラップトップ コンピューターからの磁場放射のリスク評価。 *アメリカ科学技術ジャーナル*.6 (2):14-19。 <http://www.aascit.org/journal/archive2?journalId=902&paperId=7628>
- Jing, Y., Peng, H., Liu, Z. (2023). WBNN: ワイヤレスボディエリアネットワークの重みベースの隣接選択アルゴリズム。 *ソフトコンピューティング*. 28:1803-1818。 <https://link.springer.com/article/10.1007/s00500-023-09511-z>
- ジョンソン、L., ブロウディ、D., ヒューズ、DA (2024a) トランスヒューマニズムを現実へと落とし込む、パート1 :軍事情報 超越の偽りの約束に隠された作戦。 *プロパガンダ・イン・フォーカス*。 <https://propagandainfocus.com/bringing-transhumanism-down-to-earth-part-1-military-intelligence-operations-cloaked-in-the-false-promise-of-transcendence/>
- Johnson, L., Broudy, D., Hughes, DA (2024b) 「トランスヒューマニストの未来、第2部 :人類が狙われる」 *プロパガンダ・イン・フォーカス*。 <https://propagandainfocus.com/transhumanist-futures-part-2-humanity-in-the-crosshairs/>
- ジョンソン、L., ブロウディ、D., ヒューズ、DA (2024c) 民間人を装った軍事作戦、第3部 :バイオナノ 人間のためのガバナンスと利用規約 2.0。 *Propaganda in Focus*。 <https://propagandainfocus.com/military-operations-in-civilian-disguise-part-3-bio-nano-governance-and-terms-of-use-for-humans-2-0/>
- Johnson, L., Broudy, D., Hughes, DA (2024da) 誰が糸を引いているのか? COVID 注射とバイオナノモノのインターネット、第4部: 新たな人間の接続ノードのテスト。 *Propaganda in Focus*。 <https://propagandainfocus.com/whos-pulling-the-strings-covid-injections-and-the-internet-of-bio-nano-things-part-4-testing-new-human-nodes-of-connectivity/>
- Jornet, JM および Akyildiz, IF (2014)。テラヘルツ帯通信用グラフェンベースプラズマモニクナノアンテナ ナノネットワーク、 *IEEEジャーナル・通信分野選択*, 31(12):685-694。 https://web.archive.org/web/20170810210901id_/http://bwn.ece.gatech.edu/papers/2014/c1.pdf
- Kashani, ZA, Pakzad, R., Fakari, F.R., Haghparast, M.S., Abdi, F., Kiani, Z., Talebi, A., Haghgoo, S.M. (2023) 電磁場曝露による胎児および小児の異常 :系統的レビューとメタ分析。 *Open Med (Wars)*, 12;18(1):20230697。 <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC10183723/>
- キング・アブドラ大学。(2021) 私たち自身の組織を身体インターネットの基盤として使用する身体モニタリングデバイスのネットワーク。 *Physics.Org*。 <https://phys.org/news/2021-11-network-body-devices-tissue-basis.html>

- キングストン, K. (2023). (2023) mRNAはオペレーティングシステムです - Modernaのウェブサイトのテクノロジープラットフォーム。キングストン レポート。 <https://karenkingston.substack.com/p/mrna-is-an-operating-system-technology>
- Khan, T., Civas, M., Cetinkaya, O., Abbasi, NA, Akan, OB (2020). スマートヘルスケアのためのナノセンサーネットワーク。『スマートシティのためのナノセンサー』 (pp. 387-403) 。Elsevier。 https://www.researchgate.net/profile/Oktay-Cetinkaya-2/publication/339260608_Nanosensor_networks_for_smart_health_care/links/600c738292851c13fe3206c6/Nanosensor_networks_for_smart_health_care.pdf
- Kyrie, V. および Broudy, D. (2022)。サイボーグ R Us: 注射された体のバイオナノプロブティコン?国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、 2(2)、355-383。 <https://doi.org/10.56098/ijvtpr.v2i2.49>
- Lee, SJ, Jung, CA, Choi, K., Kim, S. (2015). 体内応用のためのワイヤレスナノセンサーネットワークの設計。国際分散センサーネットワークジャーナル、11(7)、Art. no. 176761。 http://csc.columbusstate.edu/lee/publications/IJDSN_176761-2015.pdf
- Leung, W.-Y., Wu, HHL, Floyd, L., Ponnusamy, A., Chinnadurai, R., (2023). COVID-19感染とワクチン接種およびアミロイドーシスとの関係 :現時点でわかっていることは何ですか?ワクチン、 11(7):1139。 <https://www.mdpi.com/2076-393X/11/7/1139>
- Li, L., Yu, Z., Liu, J., Liu, J., Yang, M., Shi, G., Feng, Z., Luo, W., Ma, H., Guan, J., Mou, F. (2023)。運動標的微小環境マッピングおよびマッピング誘導光熱治療のための群がる応答性フォトニックナノロボット。Nano -Micro Lett. 15,141 <https://doi.org/10.1007/s40820-023-01095-5>
- Lyons-Weiler, J. (2020)。病原性プライミングは、自己免疫を介してCOVID-19の重篤な疾患および死亡率に寄与する可能性が高い。Journal of Translational Autoimmunity、 3、100051。 <https://doi.org/10.1016/j.jtauto.2020.100051>
- Maervoet, VET および Briens, Y. (2017) モジュラータンパク質の合成生物学。Bioengineered、 Taylor & Francis、8、196–202。 <https://doi.org/10.1080/21655979.2016.1222993>
- Marik, P. (2023)。ワクチンの「リボソームフレームシフト」に関する衝撃的な研究。Epoch News。 https://www.theepochtimes.com/epochtv/bombshell-study-on-vaccine-ribosomal-frameshifting-dr-paul-marik-atlnow-5548921?utm_medium=AmericanThoughtLeaders&utm_source=SocialM&utm_campaign=PaulMarik&utm_content=2023年12月18日
- Marsudi, MA, Ariski, RT, Wibowo, A., Cooper, G., Barlian, A., Rachmantyo, R., Bartolo, P, JDS (2021). 組織工学用途向け導電性ポリマーベースの電気活性スキャフォールド :生体材料と製造の観点から見た現在の進歩と課題。Int . J. Mol. Sci. 22(21):11543. <https://doi.org/10.3390/ijms222111543>
- マーティン, A. (2024)。メッセンジャー。コネチカット大学。 <http://www.conncoll.edu/news/cc-magazine/past-issues/2021-問題/冬-2021/メッセンジャー/>
- マーティンズ, NR, アンジェリカ, A., チャクラヴァルシー, K., スヴィディネンコ, Y., ベーム, FJ, オプリス, J., レベデフ, MA, スワン, M., ガラン, S, A., Rosenfeld, JV, Hogg, T., および Freitas, RA (2019) 。人間の脳とクラウドのインターフェース。Frontiers in Neuroscience、 13、記事112。 <https://doi.org/10.3389/fnins.2019.00112>
- McKernan, K., Helbert, Y., Kane, LT, & McLaughlin, S. (2023)。二価モデルナ社およびファイザー社のmRNAワクチンの配列決定 1回の投与あたりナノグラムからマイクログラムの量の発現ベクター dsDNAを明らかにします。OSF。 <https://doi.org/10.31219/osf.io/b9t7m>
- Mead, MN, Seneff, S., Wolfinger, R., Rose, J., Denhaerynck, K., Kirsch, S. et al. (2024a)。COVID-19 mRNAワクチン :登録試験と世界的ワクチン接種キャンペーンから学んだ教訓。Cureus、 Cureus。16 . <https://doi.org/10.7759/cureus.52876>
- Mead, MN, Seneff, S., Wolfinger, R., Rose, J., Denhaerynck, K., Kirsch, S., McCullough, PA (2024b)。COVID-19 改変 mRNA 「ワクチン」 ,パート 1: 臨床試験,集団ワクチン接種,バイオ医薬品複合体から学んだ教訓。ワクチン理論,実践,研究の国際ジャーナル、 3(1)、1112–1178。 <https://doi.org/10.56098/fdrasy50>
- Mead, MN, Seneff, S., Wolfinger, R., Rose, J., Denhaerynck, K., Kirsch, S., McCullough, PA (2024c)。COVID-19 改変mRNA 「ワクチン」 ,第2部 :臨床試験,集団ワクチン接種,バイオ医薬品複合体から学んだ教訓。国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、 3(1)、???

- Moderna (2022). Moderna社、小児集団におけるCOVID-19ワクチン候補の第2/3相試験で最初の被験者に投与したことを発表。https://wikispooks.com/wiki/Moderna_COVID-19_vaccine#cite_note-9
- ムーン、JH (2020)。電磁場の子供の健康への影響。Clin Exp Pediatr, 63 (11) :422-428。<https://www.cep.org/journal/view.php?doi=10.3345/cep.2019.01494>
- ムーサヴィ、S.M.、ハシエミ、S.A.、ゴラミ、A.、マズレドースト、S.、チェン、W.H.、アルジュマンド、O.、オミディファール、N.、ババパール、A. (2021)。窒素ドーブグラフフェン量子ドットによる正確な血糖値センシングによる糖尿病の厳密な管理、Journal of Sensors, vol. 2021 <https://doi.org/10.1155/2021/5580203>
- Mulrone, TE, Pöyry, T., Yam-Puc, JC, Rust, M., Harvey, RF, Kalmar, L. et al. (2023) mRNA の N1-メチル擬似ウリジル化により +1 リボソームフレームシフトが引き起こされる。Nature, 625, 189–94. <https://doi.org/10.1038/s41586-023-06800-3>
- 村上 秀 (2023) 。村上教授がファイザーのワクチンの発がん促進DNA配列について語る。ランブル。<https://rumble.com/v2m9732-malicious-prof.-murakami-discusses-cancer-promoting-dna-sequence-found-in-p.html>
- Noh, YK, Du, P., Kim, IG, Ko, J., Kim, SW, Park, K. (2016)。細胞由来 ECM と組み合わせたポリマーメッシュスキヤフォールドによるヒト間葉系幹細胞の骨形成。Biomater Res. <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/27057347/>
- Noor-A-Rahim, M., John, J., Firyaguna, F., Sherazi, HHR, Kushch, S., Vijayan, A., O'Connell, E., Pesch, D., O'Flynn, B., O'Brien, W., Hayes, M., Armstrong, E. (2022)。スマート製造と産業用 IoT のためのワイヤレス通信: 既存のテクノロジー、5G、そしてそれ以降。センサー (パベル)。23 (1):73 <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36616671/>
- Nyström, S., & Hammarström, P. (2022)。SARS-CoV-2スパイクタンパク質のアミロイド形成。アメリカ化学ジャーナル学会誌、144(20)、8945-8950。<https://doi.org/10.1021/jacs.2c03925>
- Perez, J.-C., Moret-Chalmin, C., Montagnier, L. (2023) 新たなクロイツフェルト・ヤコブ病の出現: COVID-19 注射の数日後に発生した狂牛病の人間版 26 例。国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、3、727–70。<https://doi.org/10.56098/ijvtr.v3i1.66>
- ロイター (2021年2月9日) 。ファクトチェック :COVID-19ワクチンはプログラム用に設計されたオペレーティングシステムではない人間。ロイター。<https://www.reuters.com/article/world/fact-check-the-covid-19-vaccine-is-not-an-operating-system-designed-to-program-idUSKBN2A912Y/>
- ラッセル、CL (2018) 。5G無線通信の拡大 :公衆衛生と環境への影響。Environ Res、165:484-495. <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/29655646/>
- サンティアゴ、D. (2022) 。COVID-19の注射ごとにロシアンルーレットをプレイ :致命的な世界的ゲーム。国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、2(2)、619-650。<https://doi.org/10.56098/ijvtr.v2i2.36>
- サンティアゴ、D. およびオラー、JW (2023) パンデミック実験中の異常血栓と全死亡率: COVID-19ワクチンの5回接種は、ほぼすべてのメディアケア加入者に明らかに致死性である。国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、3、847-90。<https://doi.org/10.56098/ijvtr.v3i1.73>
- Segalla, G. (2023a)。COVID-19 「mRNAワクチン」に含まれる脂質ナノ粒子のアジュバント活性と毒性リスク。国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、3(1)、1085–1102。<https://doi.org/10.56098/z1yjdj29>
- Segalla, G. (2023b)。COVID-19 mRNAワクチンに含まれる脂質ナノマテリアルの見かけの細胞毒性と内因性の細胞毒性。国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、3(1)、957–972。<https://doi.org/10.56098/ijvtr.v3i1.84>
- Segalla, G. (2023c)。COVID-19 mRNAワクチンに含まれる脂質ナノマテリアルの化学的・物理的臨界性と毒性の可能性。国際ワクチン理論・実践・研究ジャーナル、3(1)、787–817。<https://doi.org/10.56098/ijvtr.v3i1.68>
- Seneff, S., Nigh, G., Kyriakopoulos, AM, McCullough, PA (2022)。SARS-CoV-2 mRNAワクチン接種による自然免疫抑制: G-四重鎖、エクソソーム、マイクロRNAの役割。食品および化学毒性学、164。<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S027869152200206X?via%3Dihub>

- Shah KV. SV40とヒトの癌 :最近のデータのレビュー。Int J Cancer。2007年1月15日;120(2):215-23。doi: 10.1002/ijc.22425。 PMID: 17131333。
- Shaw, CA (2017). 神経疾患の神経ダイナミクス。John Wiley & Sons, Inc. <https://doi.org/10.1002/9781118634523.refs>
- Shiu, BC, Liu, YL, Yuan, QY, Lou, CW, Lin, JH (2022). PEDOT:PSS/TiO₂マイクロ/ナノファイバーベースのガスセンサーの作製と特性評価。ポリマー (バーゼル) 。14 (9):1780。
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/35566945/>
- 分光法とCampra,P. (2021)COVID-19ワクチン中のグラフェンの検出。https://www.researchgate.net/publication/355979001_DETECTION_OF_GRAPHENE_IN_COVID19_VACC
イネス
- Suberi, A., Grun, MK, Mao, T., Israelow, B., Reschke, M., Grundler, J., Akhtar, L., Lee, T., Shin, K., Piotrowski-Daspit, AS, Homber, RJ, Iwasak, A., Suh, HW, および Saltzman, WM (2023)。ポリマーナノ粒子が粘膜ワクチン接種のために肺に mRNA を送達します。Science Translational Medicine、 15(709)、 DOI: 10.1126/scitranslmed.abq0603
- Truong, NP, Quinn, JF, Whittaker, MR, Davis, TP (2016). ポリマーフィオミセルとナノフォーム: 合成と応用の 20 年間。ポリマー化学、 26。
<https://pubs.rsc.org/en/content/articlelanding/2016/py/c6py00639f>
- Vojdani, A., Kharrazian, D. (2020). SARS-CoV-2とヒト組織間の潜在的な抗原交差反応性と自己免疫疾患の増加との関連性の可能性。臨床免疫学 (フロリダ州オーランド) 、 217、108480。<https://doi.org/10.1016/j.clim.2020.108480>
- Vojdani, A., Vojdani, E., & Kharrazian, D. (2021). SARS-CoV-2タンパク質に対するヒトモノクローナル抗体と組織抗原の反応 :自己免疫疾患への影響。Frontiers in Immunology、 11、617089。<https://doi.org/10.3389/fimmu.2020.617089>
- WHO、世界保健機関。2021年。WHOヒトの検査と処理に関する実験室マニュアル
精液。第 6 版。<https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/343208/9789240030787-eng.pdf?sequence=1>
- Woodruff, K. および Maerkl, SJ (2016) 哺乳類細胞のトランスフェクションと培養。Scientific Reports、 Nature Publishing Group、6、23937。<https://doi.org/10.1038/srep23937>
- Xie, Y., Kawazoe, N., Yang, Y., Chen, G. (2021) 組織工学のためのメッシュ状コラーゲン足場の調製。マテリアルアドバンス、 3、1556-1564。<https://pubs.rsc.org/en/content/articlelanding/2022/MA/D1MA01166A>
- Zhang, S., Chen, Y., Liu, H., Wang, Z., Ling, H., Wang, C. et al. (2020) ハイドロゲル :室温で形成される PEDOT:PSS ハイドロゲルは、注入可能で柔らかく、治癒可能な有機バイオエレクトロニクスを実現します。Advanced Materials、 32、2070005。
<https://doi.org/10.1002/adma.202070005>
- Zhou, H., Mayorga-Martinez, CC, Pané, S., Zhang, L., Pumera, M. (2021). 磁気駆動型マイクロロボットおよびナノロボット。Chemical Reviews 121(8):4999-5041. <https://pubs.acs.org/doi/10.1021/acs.chemrev.0c01234>